

あいち・なごや
生物多様性
ベストプラクティス



はじめに

今年、2020年は、2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で定められた「愛知目標」の目標年であり、国連が定めた「国連生物多様性の10年」の最終年です。

この節目にあたり、生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組を総括し、さらなる取組促進につなげるため、COP10以降に愛知県内で行われた取組事例を募集し、特に優れた事例を「ベストプラクティス」、優れた事例を「グッドプラクティス」として選定し、優良事例集として取りまとめました。

この事例集が、生物多様性の保全等に取り組む市民団体・NPO、企業、教育機関、行政などの皆様にとって新たなヒントとなり、自然との共生による持続可能な地域づくりをさらに進めるきっかけとなれば幸いです。

知事挨拶

2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において、2020年までの世界目標である「愛知目標」が採択されました。これを受けて、本県では、2013年に「あいち生物多様性戦略2020」を策定し、「人と自然が共生するあいち」の実現を目指し、NPO、企業、市町村等、多くの方に生物多様性に関心を持っていただき、皆様の知恵と力を合わせて、生きもののすみかを水辺や緑でつなぐ「生態系ネットワーク」の形成に取り組んでまいりました。

その結果、県内全域を網羅する9つの「生態系ネットワーク協議会」が設立され、NPO、企業、県内の全市町村、教育機関をはじめ延べ286もの団体の皆様に参加いただいております。各協議会では、地域の実情に合わせて工夫を凝らしながら、ビオトープの整備や外来種の駆除、生きもの観察会などの取組を積極的に進めていただいております。

今年2020年は、「愛知目標」の最終年にあたり、これまでの取組の成果を集大成する重要な年であり、次の10年に向けた展望を考えていかなければならない年となります。また、既に世界では、2030年に向けた議論が始まっており、社会全体で生物多様性の価値を共有し、持続可能な社会への転換を目指すことの必要性が強く指摘されています。

このベストプラクティスは、COP10以降の取組を集大成し、さらに取組の輪を広げていただくことを目的にしています。県内から160件という多数の応募をいただきましたことに、深く感謝いたします。応募された事例は、いずれも地域の生物多様性保全に大いに貢献する取組でしたが、特に優れた事例として「ベストプラクティス」20件を選定いたしました。

私たちは、生態系の中で生きる一員として、自然の恵みに支えられ、文化、社会、経済を発展させてきました。人と自然が共生するあいちの実現に向けて、皆様から寄せられた事例が模範となり、それが県内全体に展開されることで「生物多様性の輪」が大きく広がり、生物多様性の危機を乗り越え、さらには国連が定めた持続可能な開発目標であるSDGsの実現にもつながることを期待します。



愛知県知事

大村 秀章



市長挨拶

2010年に愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されてから、今年で10年を迎えます。

国連はこの10年を「国連生物多様性の10年」として定め、「自然と共生する世界」を目指し、世界中で生物多様性に関する取組が進められてきました。

本市においては、COP10の成果を継承し、「生物多様性2050なごや戦略」を推進する拠点として「なごや生物多様性センター」を2011年に設立し、市民・専門家・教育機関などの皆様との協働により、ため池の池干し、生きもの調査など身近な自然を保全・再生する取組を進めてまいりました。

また、「なごや環境大学」「環境デーなごや」では、市民団体の皆様が中心となり、生物多様性の大切さを伝える様々な講座や情報発信が活発に行われています。

さらに、2015年には市民活動の高まりにより、本市が日本で2番目のフェアトレードタウンに認定され、より一層の生物多様性の持続可能な利用に向けた取組が進んでいるところです。

このように市民団体・企業・学生・教育機関など多くの皆様のご尽力により、本市における生物多様性の保全や持続可能な利用に向けた様々な取組が着実に進められてきたことに対し、大変頭が下がる思いであり、心より感謝申し上げます。

2015年には国連において、2030年を目標とした「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。SDGsでは、誰一人取り残さない社会の実現を目指して、環境・経済・社会をめぐる幅広い課題に統合的に取り組むものとされています。

生物多様性の分野においても自然が持つ様々な機能を活かし、気候変動の緩和や適応、防災など幅広い課題の解決に繋がる一層の取組が求められています。

この「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」をきっかけに、自然との共生に向けた活動がさらにつながり、広がることで、あいち・なごやから持続可能な未来が切り開かれていくことを期待しています。



名古屋市長
河村 たかし



目次

はじめに	1
知事挨拶	2
市長挨拶	3
生物多様性とあいち・なごや生物多様性ベストプラクティス	8
選定委員会委員長 講評	10

市民団体・NPO

ベストプラクティス6件（グッドプラクティス2件を含む）／グッドプラクティス66件

ベスト
プラクティス

特定非営利活動法人 表浜ネットワーク	12
愛知県のウミガメ産卵地保全活動「ウミガメの為に砂浜づくり」	
環境ボランティアサークル 亀の子隊	14
きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト	
島を美しくつくる会	16
藻場の再生（アマモの移植活動）	
ネイチャークラブ東海	18
絶滅危惧種「ギフチョウ」の保全保護活動（環境学習プログラムとして）	
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会（グッドプラクティス2件を含む）	20
藤前干潟の保全活動／ガタレンジャー養成事業／ガタレンジャー Jr. プログラム	
山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ	22
地域の子どもたちによる昔の様子聞き取り調査	

グッド
プラクティス

特定非営利活動法人 アースワーカーエナジー	24
あいちエコヤギネットワーク	24
あいち海上の森フォーラム実行委員会	25
特定非営利活動法人 愛知環境カウンセラー協会	25
愛知守山自然の会	26
特定非営利活動法人 愛猟	26
特定非営利活動法人 渥美半島ハイキングクラブ	27
石原林道協議会	27
一宮平成ホテルの会	28
特定非営利活動法人 犬山里山学研究所	28
岩崎里山の会	29
大高竹の会（2件）	29
おかざき湿地保護の会	30
乙北ため池クリーンの会	30
尾張サンショウウオ研究会	31
一般社団法人 ガールスカウト愛知県連盟	31
かすがい里山自然楽校	32
刈谷環境支援員の会	32
環境学習ネットワークグループ	33
間伐こもれび会	33
清田地域環境保全会・免々田川を守る会	34
特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海	34

鞍掛山麓千枚田保存会	35
劇団シンデレラ（2件）	35
さがらの森もりクラブ	36
森林インストラクター会“愛”	36
親林会	37
瀬竹会	37
瀬戸椿の会	38
佐布里の里山を美しくする会	38
ちごりんの里山	39
中日森友隊	39
特定非営利活動法人 てほへ	40
特定非営利活動法人 土岐川・庄内川サポートセンター	40
特定非営利活動法人 富岡まちづくり協議会	41
豊明エコキッズ	41
豊田市自然観察の森	42
とよた下山林業応援隊	42
中志段味の自然を次世代に伝える会	43
長篠開発委員会	43
なごや外来種を考える会（2件）	44
特定非営利活動法人 名古屋シティ・フォレスター倶楽部	44
なごやの生き物調査の会	45
特定非営利活動法人 なごや東山の森づくりの会	45
西沢川森づくりの会	46
西三河野鳥の会	46
日本スパルティナ防除ネットワーク	47
一般社団法人 日本土壌肥料学会中部支部	47
一般社団法人 日本ボーイスカウト愛知連盟	48
日本野鳥の会 愛知県支部	48
公益財団法人 日本野鳥の会 豊田グループ（2件）	49
日本ワシタカ研究センター	49
二村山豊かな里山づくりの会	50
ふるさとの自然を愛するスズサイコの会	50
特定非営利活動法人 みよしの自然環境を守る会	51
守山リス研究会	51
家下川リバーキーパーズ	52
矢田・庄内川をきれいにする会	52
矢作川水族館	53
山法師の会	53
渡し場かもめ会	54
Longhill Net	54

企業

ベストプラクティス7件（グッドプラクティス3件を含む）／グッドプラクティス22件

ベスト
プラクティス

愛知製鋼株式会社	56
つなぐ・つながる・大きく広がる愛知製鋼の生物多様性保全活動	
株式会社加藤建設	58
エコミーティング ～建設業から見た生物多様性保全～	
株式会社三五（グッドプラクティス2件を含む）	60
森と水辺の生態系保全／特定外来生物オオキンケイギクを駆除して在来種の堤防風景に！／ECO35 田んぼの活動と環境学習会	
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイト	62
企業緑地の再生と緑地を活用した貢献活動	
トヨタ車体株式会社	64
ふれ愛パークを拠点とした産官学民の連携による地域に根付く生物多様性保全活動	
チーム YMO（（公財）名古屋市みどりの協会、(株)山田組、(株)オオバ）	66
農とみどりのわくわくマイパーク	
株式会社山田組（グッドプラクティス1件を含む）	68
東谷山・天空のアグリパーク／地元建設業者による学校・児童館などでの継続的な環境出前講座の実践	

グッド
プラクティス

アイシン精機株式会社	70
ウッドフレンズ共同企業体	70
角文株式会社	71
積水ハウス株式会社 中部第一営業本部	71
中日精工株式会社	72
株式会社デンソー	72
戸田建設株式会社 名古屋支店	73
豊田合成株式会社	73
トヨタ自動車株式会社	74
トヨタ自動車株式会社 上郷工場	74
トヨタ自動車株式会社 衣浦工場	75
トヨタ自動車株式会社 堤工場	75
トヨタ自動車株式会社 貞宝工場	76
株式会社豊田自動織機（2件）	76
トヨフジ海運株式会社	77
ブラザー工業株式会社	77
三菱電機株式会社 名古屋製作所	78
農業生産法人みどりの里	78
横浜ゴム株式会社 新城工場	79
リンナイ株式会社	79
FM いちのみや株式会社	80

教育機関

ベストプラクティス3件／グッドプラクティス11件

ベスト
プラクティス

愛知商業高校ユネスコクラブ	82
ミツバチと創る持続可能な地域と未来～未来へつながる10年の軌跡とこれからの歩み～	
豊田市立五ヶ丘東小学校	84
自然と人が共生するふるさと“五東の里”をつくろう	
愛知県立南陽高等学校	86
生物多様性保全を目指した地域と社会に貢献するSDGsの取組	

グッド
プラクティス

愛知大学 地域政策学部 学生地域貢献事業団体「森の子」	88
犬山市立池野小学校	88
愛知県立木曾川高等学校 総合実務部	89
愛知県立佐屋高等学校 生物生産科 作物研修班	89
豊田市立滝脇小学校	90
中部大学 応用生物学部南基泰研究室	90
愛知県立知立東高等学校 自然科学部	91
人間環境大学 生物クラブ	91
春日井市立東高森台小学校	92
富士文化幼稚園	92
名城大学附属高等学校 自然科学部	93

行政・その他

ベストプラクティス 4件 / グッドプラクティス 19件

ベスト
プラクティス

命をつなぐ PROJECT	96
命をつなぐ PROJECT	
豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会	98
葦毛湿原大規模植生回復作業	
なごや生物多様性保全活動協議会	100
なごやの生物多様性保全活動	
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会	102
藤前干潟クリーン大作戦・流域交流と「ごみと水を考える集い」	

グッド
プラクティス

岩倉市	104
榎前環境保全会	104
岡崎市 (2件)	105
春日井市	105
春日井市少年自然の家	106
幸田町	106
江南市 環境課	107
サギと高速道路の共生を考える会	107
新城市 (鳳来寺山自然科学博物館)	108
瀬戸市 環境課 (2件)	108
豊川市赤塚山公園	109
豊橋市	109
豊橋市自然史博物館	110
東浦町	110
碧南市	111
三河湾環境チャレンジ実行委員会	111
矢作川感謝祭実行委員会	112

愛知県と名古屋市の取組

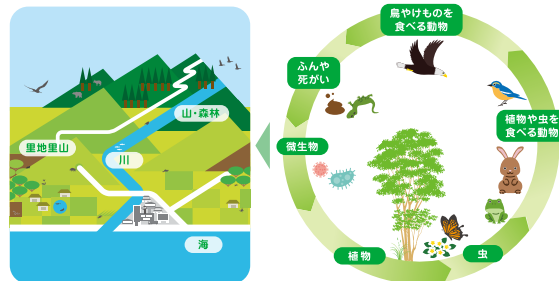
愛知県の取組	114
名古屋市の取組	118

生物多様性とあいち・なごや生物多様性ベストプラクティス

生物多様性とは

生物多様性とは、生きものや生態系の豊かさを表す言葉です。地球上には様々な自然の中に、それぞれの環境に適応して進化した多様な生きものが存在し、相互につながり、支えあって生きています。私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定など、生物多様性がもたらす恵み（生態系サービス）によって支えられています。

●自然環境と生きものつながり



生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10)

多様な生きものや生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用するための国際条約「生物多様性条約」の 10 回目の締約国会議「COP10」が 2010 年 10 月に愛知県名古屋市で開催され、179 の締約国、関連国際機関、NGO 等から 13,000 人以上が参加しました。

会議では、遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) に関する名古屋議定書や、2050 年に「自然と共生する世界」を実現するため、2020 年までの具体的な行動目標として、「愛知目標」が採択されました。



生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) 写真提供：日本政府

戦略目標 A	各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する。
戦略目標 B	生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。
戦略目標 C	生態系、種及び遺伝子の多様性を保護することにより、生物多様性の状況を改善する。
戦略目標 D	生物多様性及び生態系サービスから得られるすべての人のための恩恵を強化する。
戦略目標 E	参加型計画立案、知識管理及び能力構築を通じて実施を強化する。

愛知目標

SDGs (持続可能な開発目標)

2015 年 9 月の国連サミットでは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」において 2030 年を目標年とした持続可能な開発目標 (SDGs) として、17 の目標と 169 のターゲットが定められました。

生物多様性を含む環境の目標は社会・経済の目標の土台となるもので、これら 17 の目標は相互に関連し、不可分のものであることから、環境・経済・社会の 3 つの側面から統合的に取り組む必要があります。

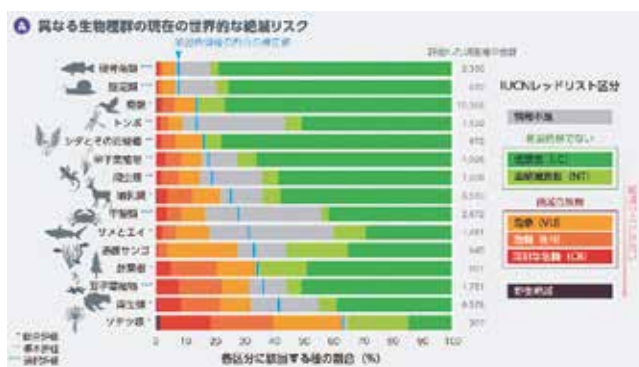


SDGs の 17 の目標

生物多様性の状況

愛知目標の達成に向け、様々な取組が行われてきました。こうした中、2019 年に生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学・政策プラットフォーム (IPBES) が発表した「生物多様性及び生態系サービ

スに関する地球規模評価報告書」によると、生物多様性と生態系サービスは人類史上これまでにない速度で減少し、100万種以上の生物が絶滅の危機に瀕しているなど、愛知目標の達成は困難であり、2030年以降の目標の達成に向けて、経済、社会、政治、技術全てで変革が求められるとされています。



生物多様性と生態系サービスに関する評価報告書 政策決定者向け要約より

ポスト 2020 生物多様性枠組み

愛知目標は、2020年が目標最終年となっています。2021年に開催予定のCOP15では、ポスト2020枠組み（目標）が採択される予定となっています。

2020年以降の世界的な目標の内容は、2050年と2030年のゴールなどについて具体的な数値目標が定められるほか、IPBES地球規模評価報告書で必要性が指摘されている社会変革が生物多様性の保全及び持続的な利用の解決手法として重視される見込みです。

あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスについて

愛知目標達成に向けた生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組を総括し、さらなる取組の促進につなげるため、COP10以降に愛知県内で行われた取組事例を募集しました。

応募のあった取組事例の中から選定委員会の審査により、特に優れた事例を「ベストプラクティス」として、優れた事例を「グッドプラクティス」として選定しました。

募集・選定結果

【募集期間】 2019年12月18日～2020年4月16日

【募集対象】 次のいずれかに該当する取組事例のうち、愛知県内において2011年以降に行われたもの。

- (1) 生物多様性の保全
- (2) 生物多様性の持続可能な利用
- (3) その他（普及啓発、学習、教育等）の取組

【応募総数】 160件

【選定結果】 ベストプラクティス 20件
グッドプラクティス 123件

【選定委員会】

役職	氏名(敬称略)
静岡大学特任教授	武田 穰
名古屋大学教授	夏原 由博
日本福祉大学教授	千頭 聡
ビオトープ・ネットワーク中部会長	長谷川 明子
一般社団法人中部経済連合会 防災・環境部長	祖山 薫
愛知県環境局環境政策部自然環境課担当課長	兒玉 真由美
名古屋市環境局環境企画部主幹	森 匡司

選定委員会委員長 講評

今回、「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」には合計 160 件の応募がありました。生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）以降の 10 年間で生物多様性の保全や持続可能な利用に関する新しい取組が多く生まれたことは大変喜ばしく、市民団体をはじめ企業、教育機関、行政などの各主体において生物多様性に関する取組がしっかりと根づいてきていると強く感じました。

選定委員会では、応募事例について、①事業の趣旨 ②波及効果 ③創造性 ④地域性 ⑤継続性・発展性 ⑥規模 ⑦連携 ⑧専門性 ⑨実績 に基づき総合的に評価を行いました。どの事例も素晴らしい内容であり、日ごろの地道な取組には頭が下がるばかりで審査には大いに悩みました。特に、主催団体によって取組の目的や方法が異なっており、例えば、自治体の助成金等も活用された大規模な取組、大企業の工場等における緑化活動等と市民団体の自主的な継続活動をどのように比較するのかが大きな課題となりました。今回のベストプラクティスの選定にあたっては、自分の団体だけではなく、他の活動団体や住民とつながりを持ち活動の輪を広げているか、新しい仕組みを作り出しているか、環境以外の他分野の課題解決にも貢献しているかなどの点について特に評価し、選定しました。

現在、世界では愛知目標の次の世界目標が検討されており、中国昆明市で開催予定の COP15 において採択が見込まれています。その中の議論においては、希少動植物種の保護・増殖といった従来型の手法に加え、様々な社会課題を解決しなければ生物多様性の損失には対応できないとの危機感が示され、社会変革の必要性が強く意識されています。

あいち・なごやにおける「自然と共生する社会」を実現するためには、この事例集に示された多くの取組をさらに推進するだけでなく、周辺の各種団体と協働した取組や自治体の枠を越えた共同作業等を行うことが必要です。生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組まれている団体の皆様におかれましては、ぜひこの事例集を活用していただき、これまで以上に様々な主体との協働や他分野の課題の同時解決を日ごろの活動の中で意識していただきたいと存じます。個々の問題では団体間で意見が異なることもありますが、小異を捨てて大同に付く精神で、一緒に活動をすることで、見えてくるものも多いと思います。皆様の活動がより活性化し、あいち・なごやから日本及び世界に波及することを確認しております。



あいち・なごや生物多様性
ベストプラクティス選定
委員会委員長

武 田 稯





市民団体・NPO

特定非営利活動法人 表浜ネットワーク

愛知県のウミガメ産卵地保全活動 「ウミガメの為の砂浜づくり」

活動期間 2005年～

活動場所 表浜海岸（豊橋市小島町 等）

web <http://www.omotehama.net>



ポイント

アカウミガメの産卵行動を長期間にわたって熱心に調査し、産卵の障害やその改善対策などを考えています。計画に基づいて効果的な活動を実施し、親子や企業など様々な人々が参加し、大きな規模でアカウミガメ保全活動を実施しています。

背景・経緯

表浜海岸は、太平洋の外洋に面する海岸で、伊良湖岬から浜名湖までの約 50 キロの遠州灘海岸を地元の人は、親しみを込めて「表浜海岸」と呼んでいます。この海岸は、海から砂浜、砂丘、丘陵、崖森、農地、空へと緩やかに続く連続性が残る稀有な海岸です。遠州灘海岸は、県絶滅危惧種 IB 類（EN）に指定されるアカウミガメの繁殖地としても重要な海岸であり、その理由は、北太平洋のウミガメは唯一日本で産卵するからです。

2000 年初頭から、全国各地で海岸の開発が進むなどの理由で、アカウミガメの産卵地が失われ始めたことをきっかけに、表浜海岸のアカウミガメ産卵調査を開始しました。さらに気候変動などにより台風もますます強くなり、海岸に設置された波消しブロックによる産卵障害が目立ち始めたため、アカウミガメの産卵行動を記録しました。この活動を始めるに至った背景には、このようなアカウミガメの置かれた厳しい現状があり、この状況を現場から伝えることが最も重要であると考えています。

目的

表浜海岸は長大な砂浜を誇り、背後にそびえ立つ海食崖が海岸線と平行し弧を描く姿は全国でもまれに見る景観を有します。しかし、その一方で人間活動が、野生動物の活動を妨げているという現状もあります。表浜海岸の現状を正確に伝えることは非常に重要であり、現状を踏まえて私たちができることとして継続し、未来に伝えることを目的とします。

取組内容

アカウミガメのための砂浜再生プロジェクトでは、季節風で飛ばされる砂を留めるため、堆砂垣と呼ぶ長さ 3メートルほどのフェンスを砂浜にいくつか設置して、砂を受け止めることとしています。堆砂垣の材料には、海岸に自生するメダケを使い、活動時の参加者が多ければ堆砂垣を 20 基以上も作るができます。これは砂防を目的とする伝統的な手法であり、堆砂垣の効果は大きく、地域の知恵や砂浜の重要性を次世代に伝える方法として有効です。自然の中で、皆が汗を流して協力して堆砂垣を作り



たいさぎき
堆砂垣づくり

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

上げるプロセスは貴重であり、子ども、親子、企業、海岸利用者といった様々な立場の人が活動を行って来ました。

当会はこれまで、渥美半島の5か所（豊橋市4か所、田原市1か所）で活動し、大手企業や海岸利用者グループと継続的に活動を行って来ました。豊橋市でも3,000人以上、田原市ではこれまで1,500人以上の人が活動に参加しています。この活動により、赤羽根海岸は礫浜が砂浜に再生しました。小島海岸での活動はエコ・コースト事業地において行っており、様々な団体との協働という形で自然再生が進んでいます。



多くの堆砂垣

北太平洋のアカウミガメは、繁殖地の北限が日本だということはあまり知られていませんが、ここ表浜海岸では毎年数十回の産卵がされています。当会では、アカウミガメを砂浜環境の指標とし調査を行っており、アカウミガメと砂浜の調査・研究をベースに様々な活動を展開しています。

また、アカウミガメ関連事業として、出前授業を含むアカウミガメや漂着物に関する環境講座を地元の各学校や表浜館で、小中学生や一般の方を対象に行っています。

さらに、日本自然保護協会が開催するシンポジウムや全国で行われるウミガメ会議に参加して、全国の最新の情報を入手したり、表浜海岸での取組内容を全国に発信しています。

海岸清掃と海ごみ調査では、海岸にあるごみを細かく分別し、どんなものが漂着するのかを調べます。

表浜海岸は、南海トラフ大地震による津波到達時間が短いとされ、海岸利用者や地元住民の安全を図るため、海岸防災にも取り組み、避難路を作る活動を行っています。

今後の展望

高潮などで海岸にもたらされる被害は年々増しており、人工化する海岸とどの様に向き合うかが課題です。県にはアカウミガメに配慮した自然再生事業を行ったという全国的にも珍しい事例があります。県の海岸保全における良い事例として、さらに広げられるようこれからも積極的に活動したいと思います。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



田中美奈子さん

特定非営利活動法人 表浜ネットワーク

砂浜には一見何も生息していないと思われがちですが、アカウミガメのような大型の野生動物や微生物という多くの生きものが生活しています。堆砂垣づくり活動にはこれまで多くの方々が参加し、砂浜の劣化が野生動物などに与える影響について伝えてきました。この活動を通して、今後も海の生きものに負荷を与えない県の海岸保全のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

環境ボランティアサークル 亀の子隊

きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト

活動期間 1998年～

活動場所 渥美半島（田原市）

web <http://www.kamenoko.org>



きれいな海を守りたいという子どもたちの思いが活動を動かしていて、子どもたちが活動の発表を行うなど発信力もあります。

ポイント

この活動への参加人数もとても多く、田原市内を中心に様々な団体と連携して活動しています。

背景・経緯

1998年に田原市立亀山小学校の4年生たちが渥美半島にある西の浜に出かけたときに、あまりのごみの多さに驚き、ごみ拾い集めを開始しました。ごみ拾い集めを通じ、自然環境を守っていくことの重要性に小学生たちが気づき、この小学校区の西側に位置する西の浜を見つめ直し、校区の自然に目を向け、ごみのない美しい西の浜にしていく活動を開始しました。この活動は、小学生たちが中心となって自分たちの生活する地域と自然を愛する心を持ち、主体的に活動する趣旨を明確にするため、1999年に「環境ボランティアサークル亀の子隊」を設立し、現在に至っています。

目的

渥美半島は3方を海に囲まれています。亀の子隊が活動する西の浜は、三河湾・伊勢湾に面しています。この海からは、多くのごみが西の浜に流れ着きますが、内陸地に生活する多くの人々はその海の現状をあまり理解していません。現在、人々の生活は海から離れ、子どもたちは海で遊ぶことが少なく、その海から多くの恵みを得ていることを実感している子どもは少ないのが現状です。

そこで、クリーンアップ活動と合わせてさまざまな体験的環境学習「海の環境を学ぶ会」を通して、「海のよさ」、「海の大切さ」を感じるにより、永く将来にわたって海を大切にしていくこと、守る心を育て、守りたいという心を育て、広げることを目的としています。

取組内容

主な活動として、西の浜クリーンアップ活動を毎月1回のペースで行っています。この活動には、亀の子隊のメンバーだけでなく様々な企業の社員が参加しての特別活動も含まれています。具体的な取組実績や成果として、2019年の西の浜クリーンアップ活動を15回ほど行いました。延べ1,008人の参加者があり、ごみの総重量は3,230キログラムで、ペットボトルの蓋の数は4,425個でした。

また、海の環境を学ぶ会の活動では、①スナメリ観察会、②磯遊びの会、③スノーケリングの会、④タッチングプールの会、



クリーンアップ活動

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

⑤海水からの塩づくりの会、⑥水族館見学会、⑦干潟観察会、⑧栽培漁業センター見学会などを、各回でテーマを決めて、海の良さや大切さを知る体験的環境学習を行っています。

海の環境を学ぶ会は、2019年には8回実施し、延べ300人の参加者がありました。エコツアー活動では、環境学習だけではなく、渥美半島そのものを学び、渥美産の魚介類などの食材を食べる活動を通じ、食などの様々な視点から環境保護を見つめなおしています。エコツアーは、2019年には2回実施し、参加者11人でした。



海の環境を学ぶ会

なごや環境大学共育講座への参加者も募り、2019年には2回実施し、33人の参加者がありました。

ごみが排出される上流の人々に向けて、様々な機会を捉え積極的に情報発信をしています。

2019年7月の渥美まつりでは東日本大震災被災地の東北支援のためのパネル展示、10月の田原市民まつりでは南三陸町物産展、三河湾大感謝祭ではパネル展示・ワークショップを行いました。また、11月の「エコアクション in あいち」、2020年1月の「あいち・なごや生物多様性 EXPO」では、パネル展示・ワークショップを行いました。2月の東三河ボランティア集会では、「きれいな海を守る心を広げたい」と活動発表をしました。

この会の活動は、インフラメンテナンス大賞の優秀賞としても表彰を受けたこともあります。さらに、チャリティ活動として、南三陸町社会福祉協議会へ渥美半島産の野菜を送っています。

今後の展望

生物多様性を基本に、「SDGs14 海の豊かさを守る」という目標に視点を置き、『きれいな海を守る心を広げるためのプロジェクト』をより実りのあるものにするために、多くの人と連携して活動を継続していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



鈴木吉春さん

環境ボランティアサークル 亀の子隊

「きれいな海を守る心を広げる」ことを目的に、海の環境を守るための自然美化活動としての「西の浜クリーンアップ活動」、海のよさ・大切さを学ぶ体験型環境学習「海の環境を学ぶ会」、気づきを伝えるための「想いを広げる広報活動」という活動をしています。今後、あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスとして、より多くの人に想いが広がることを期待します。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

島を美しくつくる会

もば 藻場の再生（アマモの移植活動）

活動期間 2001年～

活動場所 西尾市一色町佐久島

web <https://sakushima.com/island/beautifulisland>



ポイント

佐久島の中学生が中心となり、来島者も受け入れて活動を行っています。

漁業など他の産業とも協働した島を守る活動であり、自然環境だけでなく地域経済にも貢献できています。

佐久島在住の全島民が会に参加しており、強い連携力があります。

背景・経緯

佐久島は、三河湾に三島ある有人島（佐久島、日間賀島、篠島）の中で面積が最大の島です。風光明媚な三河湾の島しょ景観の中心として、三河湾国定公園に指定されています。

佐久島は、古くから漁業を生活の糧として暮らしてきた場所です。自然環境の変動や生物多様性の劣化の影響で、近年は水産資源が減少し、島の生活にも影響を与えています。そのような状況の中で、一人の中学生が、「魚の繁殖場所であるアマモがずいぶん少なくなっている。」という漁師の言葉から、「魚やアサリがいっぱい捕れるように、佐久島の海を豊かにしたい」という想いを強くもちました。これがきっかけとなり、2000年より中学校の総合学習で「アマモを増やしてアマモ場を再生する活動」が始まりました。この活動に賛同した島の漁師たちが協力を申し出て、2004年から「島を美しくつくる会」も応援を始め、島を挙げた活動となりました。当会の会員は、2020年時点で佐久島在住の全島民223人になります。

目的

「島を美しくつくる会」は、佐久島の資源（自然、風土、歴史、産業など）を発掘して磨きをかけ、島の活性化を進めていくために設立された、島民による自主活動組織です。島の子どもたちや島外ボランティアとも協働しながら活動を推進しています。

当会では、「アートと地域の協働」（アートによる島おこし）をテーマに、「ひと里」、「美食」、「漁師」、「いにしえ」の4つの分科会を核に活動をしており、漁師分科会において、藻場再生（アマモの移植）を行っています。

多くの生きものにとっての餌場であり、育成場でもあるアマモ場の群落を増やし、佐久島周辺の自然環境を取り戻し、生態系あふれる豊かな海を取り戻すことが目的です。教育機関や観光、漁業など、多様な主体が連携することで、自然環境だけでなく産業や観光面も守り続けられるようにします。

取組内容

アマモは、水深1mの沿岸砂泥地に自生する海藻の一種で、魚類の産卵場所や幼稚魚の生息場所になるとともに、水質浄化の面でも重要な役割を果たしています。島のアマモ場を増やす主な取組内容として、次の活動を行っています。

アマモの移植ボランティア活動では、2008年から毎年6月頃に島に残された天然のアマモ場から、浅瀬

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

に株を移植して、アマモ場の拡大を図る活動を行っています。アマモは、北半球の温帯から亜寒帯にかけての水深約1メートルの沿岸砂泥地に自生する海草の一種です。日本の各地に分布し、雌雄同株で多年生の顕花植物であり、孢子で増える藻類ではなく、海中に生える種子植物です。アマモ場は潮流を和らげ、外敵からの隠れ場ともなるため、魚類や頭足類の産卵場所、又は幼稚魚や小型動物の生息場所となります。また、富栄養化のもととなる窒素やリンを吸収し、水質浄化の面でも重要な役割を果たしています。活動には島民だけではなく、島外のボランティアも参加し、参加者数200名余りでの活動を行っています。この活動において、島の中学生がアマモについての活動発表から作業説明までを行っています。

植栽マットの活用による実生移植活動では、島の中学生が中心となって行っています。植栽マットとは、鉄の枠に麻のマットを挟んだもので、麻の上に泥と混ぜたアマモの種子を敷き海底に沈め、アマモの増殖を図るものです。また、環境学習の推進活動では、磯の清掃活動、里山の間伐作業、農作物の栽培などの活動を島外からの観光客に行ってもらい、都会の生活圏と海までのつながりを考えてもらう体験活動も行っています。



藻場から株を採取



地元中学生の活動発表

今後の展望

今後も多様な主体が連携し、漁場、環境の改善及び保全、地域社会と経済の活性化に成果を上げていきます。島外からの体験希望者や観光客にもさらにアピールできるようにします。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



鈴木喜代司さん

島を美しくつくる会

豊かな海の恵みを受け、島のほとんどの世帯が漁業に携わる220名余りの人々が暮らす佐久島は、人口減少が急速に進んだことから、アートを使って島を元気にしてきました。おかげ様で若い世代の認知度も上がり、島を美しくつくる会の活動である藻場の再生活動、里山活動なども島外の若い力に支えられて現在まで続いています。これからも本来の自然の姿に近づけるよう、啓発と活動を続けていきます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

ネイチャークラブ東海

絶滅危惧種「ギフチョウ」の 保全保護活動（環境学習プログラムとして）

活動期間 2011年～

活動場所 愛・地球博記念公園内（長久手市）

web -



ポイント

環境や自然保護を行う人材を育成することを目的に、知識優先の環境学習ではなく、行動がともなう活動を行っています。設立初期に参加した方が、活動をサポートする側として活躍するなど、世代交代も着実にできており、長期間にわたって活動を行っています。

背景・経緯

当会は、2010年に愛知県尾張建設事務所の「愛・地球博記念公園森林再生プロジェクト」を受託し、3年間、公園内で森づくり作業の傍ら森づくりボランティアの人材育成を行いました。その後、ここで育成したボランティアが活動主体となり、当地でギフチョウの保護や湿地の再生活動などを行ってきました。

また、活動に際して、幼児期における自然体験を重視して、このフィールドを活用し、幼児から小学生の親子を主役とした体験型自然環境教育を実施しています。

目的

生態系保全や自然保護活動を通じて、その知識や認識を持ってもらうことを目的としています。目的達成のために、次世代の自然環境を守る人材の育成と絶滅危惧種の保護活動を行っています。知識優先の環境学習では「行動」が伴わないので、本当の意味で自然を守ることができないと言えます。自然保護活動を通じて、環境のために行動できる人材を育成することを目指しています。

取組内容

現在、当会の活動内容は、ギフチョウの保護、シラタマ湿地の再生、ハルゼミの保全活動などを行っています。参加者は主に小学生親子と一般県民の方々を対象としています。

ギフチョウの保全活動では、2011年の最初の調査で産卵数が35個程度だったのが、2019年の調査では約10倍以上の360個ほどに増えていました。産卵数だけでなく、ギフチョウの個体数も確実に増えました。産卵数の調査活動は、主に3月から5月にかけて行いました。

主な作業として、生い茂った雑木林の間伐から、ササの刈り取り、カンアオイの移植と増殖活動、吸蜜のためのツツジの増殖作業などを継続的に行っています。吸蜜のためのツツジの増殖作業には、増殖のために周囲の日当たりを確保する準備活動も行っています。また、生息環境の確認のために周辺のギフチョウの繁殖地の観察や、ギフチョウの飛来のための低木下草の刈り取り作業も行っています。ギフチョウだけでなく、野鳥のための巣箱の設置や実のなる樹木の植樹活動など、生物多様性保全のための環境整備活動も行っています。



現地の状況確認

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

活動場所の一つは、北東斜面で尾根から谷まで約 150 mほどある場所です。頂上の尾根には平らな場所があり、日当たりが良いコバノミツバツツジの群落があり、ギフチョウにとっては、吸蜜の格好の場所になります。薄暗い林の中に、蝶が往来できる空間を作るために、子どもたちは間伐に取り組みました。最初は木を伐ることに抵抗があった子どもたちも、里山や雑木林の仕組みを理解するにつれて、抵抗感が無くなっていきました。

シラタマ湿地の再生活動では、愛・地球博記念公園内にあるシラタマホシクサの生育地「シラタマの湿地」が上流からの土砂の流入と、イノシシの掘り返しによる被害で危機に瀕しているため、他の場所にシラタマ湿地の復元を行いました。具体的な活動として、水路の点検と水の確保の定期整備などを行い、他の場所においても発芽することを確認し、元の場所から移しかえていき、別の場所でも生育できることを確認できました。50㎡ほどのシラタマ湿地を再現することができ、新しい場所のシラタマ湿地にハッチョウトンボも飛来していることを確認できました。

松林が繁殖場所であるハルゼミは、松林の減少により危機に瀕しています。ハルゼミを保全するために松の植林ではなく、松の純木育成による自然再生作業を行っています。2011年から5年近く経て、当初から4倍ほどの松へと生長しました。



伐採作業

今後の展望

単に生物を守る活動ではなく、環境や自然を守る人を育てる活動を目指しています。当会は活動を長く継続して行い、活動初期の参加者たちはすでに社会人として、現在はこの活動をサポートしてくれています。今後も引き続き、人材育成を行っていきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



篠田陽作さん

ネイチャークラブ東海

私たちの環境学習の基本は3～9才の児童に自然体験型の環境学習を実施することで、環境や自然に対する「感性」を養うことが目的です。環境や自然を大切にすると言っても、自然や環境を見た時に「感じる感性や心」が無ければ守る行動はできません。あれはダメこれもダメと言われた事のみをやっていても環境は守れません。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

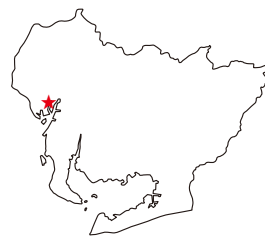
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

藤前干潟の保全活動

活動期間 1984年～

活動場所 名古屋市

web <http://fujimae.org>



ポイント

20年以上継続して干潟の保全活動を続けており、埋立計画の中止から干潟の保全という政策転換を促しました。また、次世代のための人材育成にも力を入れています。

背景・経緯

1984年、名古屋市が廃棄物の最終処分場として庄内川河口の「西一区」の干潟を埋め立てる計画を立てたことに対し、そこが渡り鳥の重要な中継地であり、多様な生物の生息地であることから保全活動をはじめました。15年にわたる活動の末、埋立計画は中止され、干潟は保全されるとともに名古屋市はごみ減量に取り組み、環境重視の政策に転換しました。

目的

直接的には干潟の保全が目的です。埋立計画の主因となったごみ問題の解消や、干潟とつながる河川や海域の環境改善など、総合的な「環境重視型社会」への転換をめざす活動でもあります。

取組内容

当初は野鳥の生息場所を保全するというで始まり、その後底生生物なども含めた生態系全体の保全活動に拡大しました。干潟での観察会の実施をはじめ、シンポジウムや学習会の開催、メディアを通じての啓発活動など多岐にわたる取組を行い、全国、さらには国際的な世論とも協力しながら保全にむけての機運を高めました。

特に当会が行った生物調査で水質浄化力の大きさを確認したことや、各地の湿地保全団体と協力して湿地・干潟の重要性の認識を広めたことなどは、保全を実現するうえで大きな役割を果たしました。

藤前干潟の保全はさまざまな主体の協力があって実現したもので、当会だけの業績と言えるものではありませんが、少なくとも当会が活動を続けていなければ実現しなかったとはいえると思います。

国内でも希有な自然保護活動の成功例であり、名古屋市の政策転換のきっかけとなったという意味でも大きな意義があります。「生物多様性条約第10回締約国会議」の開催や名古屋市が生物多様性の保全に取り組むようになったのも藤前干潟保全が発端となったものです。



生物多様性 COP10 名古屋会議にてブース出展

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

今後の展望

藤前干潟の保全は実現しましたが、生物の減少や漂着ごみ・マイクロプラスチック、源流の森の荒廃、伊勢湾の貧酸素問題など、解決すべき課題は山積んでいます。今後もこれらの干潟をとりまく問題への取組を継続していきます。



干潟での観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

グッドプラクティス

ガタレンジャー養成事業

活動期間 2002年～

1999年の藤前干潟埋立計画の中止、2002年のラムサール条約登録を受けて現地見学の需要が大幅に増加し、案内人の確保が急務となりました。4日間・約30時間の生物や鳥類についての知識、インタープリテーション等の技術、さらにごみや外来種問題等の講座を実施し、実際に現地で案内・解説ができる基本を身につけた修了者を「ガタレンジャー」として認定しており、毎年1回、累計18回の講座を実施し、2019年までに126名が修了しました。

ガタレンジャー Jr. プログラム

活動期間 2009年～

2000年代に入り、藤前干潟保全活動の記憶が薄れ、関わった人たちも高齢化していく中で、次世代への継承を目的として、「ガタレンジャー Jr. プログラム」を開始しました。

小学校4年生から中学生までを対象に、年間7日間の活動を基本とし、野外体験とグループワークを通じ、その中で自分がどう行動するか考える講座を行っており、2019年までに11期実施し、169名が修了しました。

取組キーワード

河川

湿地

海岸

環境教育・普及啓発



干潟ガイド活動実習

河川

湿地

海岸

環境教育・普及啓発



ヨシ原での観察活動

ベストプラクティス
受賞団体コメント



亀井浩次さん

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

私たちはもともと、貴重な自然環境としての干潟を守りたいという目標をもって活動してきました。埋立計画は中止され、ラムサール条約登録も実現しましたが、環境の劣化は続いています。活動をこのような形で評価していただくことは励みになりますが、私たちのめざす良好な干潟環境の保全はまだ道半ばです。今後も努力を続けていきます。ご支援・ご協力よろしくお願い致します。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ

地域の子どもたちによる昔の様子聞き取り調査

活動期間 2010年～

活動場所 名古屋市 等

web 山崎川グリーンマップ <http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/>

「あいちの海」グリーンマップ <http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/>



ポイント

環境の変化によって見られなくなった生きものの情報はほとんど残っておらず、それを聞き取り記録として残していくことは非常に重要です。

子どもが聞き取りを行うことで地域の世代を越えたつながりを生み出しています。

背景・経緯

日本では、第二次世界大戦後の七十数年間に開発や都市化、外来種問題、そして近年では、温暖化により、環境の変化が著しくなっています。そして、これらに伴う生物の生息状況も変化が激しく、地域によってはすでに絶滅して見られなくなった生きものも多くいます。

戦前、戦後直後の時代には、生きものはいて当たり前であり、科学的な調査や存在が確実にわかる写真もほぼ存在していません。

私たちは、生きもの調査、外来種駆除を行う中で、地元のお年寄りから子どもころ遊んだ思い出を聴く機会が多々ありました。お年寄りたちの話には、今ではいなくなってしまった生きものたちの貴重な情報が盛りだくさんです。これらは、科学的な裏付けはほぼ採ることはできませんが、後世に残しておく価値があるものです。

目的

山崎川や身近な海の話、生きものが時代とともにいなくなっているという話、それを記録として残すだけでなく、次世代に伝えたいと考えています。それができる有効な方法として、地元の子どもたちがお年寄りを訪ねて聞き取りをするという方法をとりました。環境や生物保全の問題は、長い時間が必要であるため、若い世代に環境変化によっていかに生物がいなくなっているのかを伝えたいと思いました。

取組内容

山崎川とその周辺の生物調査・外来種駆除を行う中で声をかけてくれた地域のお年寄りなどを中心に、地域の子どもたちが昔話を聞いて、生きものに関わることを中心としてまとめました。絶滅した生きものについては、証拠となる写真、標本が存在しておらず、科学的証拠がないものがほとんどですが、諸状況を調査し、絶滅の可能性が高いものは絶滅として掲載しました。

聞き取り者は、瑞穂区汐路、豊岡、陽明小学校と南区菊住小学校の在籍生と卒業生であり、数年をかけて行いました。特に2015年度は、なごや環境大学共育講座として活動を行っています。



聞き取りの様子①

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

海については、南知多町大井・片名地区において、山崎川の聞き取り調査が完了した 2016 年度より開始し、2018 年度に完了しました。こちらの聞き取り者は、南知多町大井小学校の児童及び師崎中学校の生徒、また、名古屋市立大学及び名城大学の学生です。

山崎川とその周辺の昔の聞き取り調査は、2015 年度末に完了しました。その結果を「山崎川いま・むかし 総集編」として 38 ページの冊子とりまとめ 1,000 部作成しました。3 月 6 日に名古屋市立大学本部棟 4 階ホールにおいて、「山崎川いま・むかしセミナー」を開催し、冊子を配布しました。このセミナーには、参加者及びスタッフの合計 148 名が参加しました。

南知多町大井・片名地区については、2018 年 1 月に聞き取りが完了しました。その結果を「大井・片名いま・むかし その2」として 30 ページの冊子に取りまとめ、500 部作成しました。

また、2019 年 1 月には、南知多町師崎中学校生徒全員を対象に中学校前のアマモ場の生物調査及び昔の聞き取りの発表を行いました。



聞き取りの様子②



完成した聞き取り集

今後の展望

2020 年度は、2019 年度より始めている聞き取り調査と実際の調査をベースにした、山崎川のレッドデータブック及びブルーデータブックの作成を予定しています。

また、2021 年度から 2022 年度は、南知多町師崎中学校学区内での昔の様子の聞き取り調査を実施する予定です。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



大矢美紀さん

山崎川グリーンマップ、 「あいちの海」グリーンマップ

COVID-19 収束後の社会を考えたとき、地域密着、周りにある自然環境との共生は、一つのキーワードになるかと思います。開発や地球温暖化によって失われた自然は取り戻すことは出来ませんが、若い世代が作り出す未来は確実に訪れます。新しい未来を形づくるときに、過ぎ去った地域の移り変わりの姿が参考になればと願うばかりです。それが聞き取りに協力してくれた大人たちの総意だと思えます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

特定非営利活動法人 アースワーカーエナジー

天使の森プロジェクト

活動期間 2008年～

活動場所 岡崎市東河原町 等

web <http://www.ewe.org/>

岡崎市において、水源地の自然豊かな奥山作り、里山から街、海に至る河川流域の環境と産業のバランスのとれた地域を築くことや、子どもを主体として市民が参加する活動が必要とされていました。そこで、自然の大切さを知り、自然への配慮と環境共生型ライフスタイルを市民が身につけられるように、2008年に天使の森プロジェクトが発足しました。

生きものの豊かな奥山作りのために未利用の産業林を伐採し、地域在来種による植樹活動をしています。また、一般の方も参加できる勉強会やセミナーを開催したり、企業における自然環境を学習する研修会も行いました。ほかにも、天使の森プロジェクト展の開催では多くのメディアにも取り上げて頂きました。今後は、環境学習の場を整備するとともに、2035年を目処に、自然林の転換を目指していきます。また、有識者の方達との連携を図り、環境と産業のバランスのとれたまちづくりに寄与していきます。

取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



天使の森での植樹



天使の森山頂での環境学習

あいちエコヤギネットワーク

生物多様性の主流化に向けたエコ除草推進事業

活動期間 2016年～

活動場所 新城市 等

web <https://ecoyaginnw.wixsite.com/aichi-ecoyagi>

酷暑の中で人力で草刈を行うことは重労働です。また、過疎化の影響もあり、耕作放棄地は年々増加しており、自然保全活動を行う担い手も不足しています。耕作放棄地の増加は生物多様性の劣化にもつながるため、従来の燃料を使用した機械による除草ではなく、ヤギを期間放牧することで環境負荷の少ないエコロジー除草を行っています。

耕作放棄地等の維持管理が困難な農地で、従来の燃料を用いた機械式除草よりも環境負荷の少ないヤギの期間放牧によるエコ除草活動を行うことで、高齢化や人口減少等により農地の保全の担い手が不足する地域社会に、環境負荷の少ない持続可能な除草事業モデルを提供しています。また、ヤギミルクの加工体験を通じた環境学習や成果報告会の実施など、普及啓発活動に努めてきました。SDGsの取組普及を目指す企業においても、化石燃料に頼らないエコヤギ除草に注目しています。今後は企業緑地においてもエコ除草が広めていくように活動していきます。

取組キーワード

里山

農地

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献



エコ除草風景



ふれあい体験企画

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

あいち海上の森フォーラム実行委員会

あいち海上の森フォーラム

活動期間 2017年～

活動場所 あいち海上の森（瀬戸市海上町）等

web <https://sites.google.com/kaisyoforum.com/kaisyoforum/>

2016年に多様な主体が参加して当会を組織しました。愛・地球博から10年間開催された「人と自然の共生国際フォーラム」の取組を継承するため、「人と自然の共生」を分かりやすく、かつ幅広く発信することを目的とし、2017年から「人と自然が共生する社会づくり」を目指した活動を行っています。その中で、シンポジウムやセミナーの開催、多様な主体が実施する活動との連携やネットワークづくり、報告書の発行などを行っています。

シンポジウムは、専門家を招き、「人と自然の共生の途」や「SDGsにおける生物多様性・生態系保全」などをテーマに開催しました。また、共生ネットワーク促進事業として、自然観察会、田んぼの学校・稲刈り体験、海上の森自然ウォッチング、ネイチャーゲーム体験等を行い、人と自然の共生教室では名古屋市の水辺の生きもの調査や海上の森収穫感謝祭へ参加しました。今後も専門家の講演だけでなく、個人や団体・企業などの活動発表や取組紹介も行い、各団体とも連携し、様々な取組を発信していきます。

取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発

協働



海上の森自然ウォッチング



第1回シンポジウム

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 愛知環境カウンセラー協会

三河湾環境再生ワークショップ

活動期間 2012年～

活動場所 三河湾流域

web -

当会は、「愛知県・三河湾環境再生プロジェクト推進委員会」のメンバーとして参画するとともに、三河湾再生のキーワードとして「上流と下流の連携・協働」を重視し、普及啓発活動を行うとともに、「三河湾環境再生ワークショップ」を継続的に開催してきました。

主な活動として、三河湾の現状を把握し、流域レベルの環境保全活動の事例に触れつつ、三河湾浄化に向けた活動の推進に貢献しています。三河湾流域全体で環境保全、環境再生、生物多様性保全に関わる取組を活性化し、山間地域から沿岸につながる流域レベルでの情報発信を強化しています。「上流・下流の連携・協働」の重要性を認識し、現場で実施するワークショップとして、海域や海浜の視察や河川流域を巡り、流域内の環境保全活動に触れることにより、参加者に対して三河湾の現状把握と課題の認識、整理を行ってきました。また、生物多様性の保全やSDGsの観点とのつながりもわかりやすく伝えられるように心がけています。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

協働



ワークショップの結果概要



三河湾の現状調査

愛知守山自然の会

名古屋市自然遺産であるマメナシを次世代に残すための取組

活動期間 2011年～

活動場所 名古屋市

web -

愛知県・岐阜県・三重県のマメナシの自生地での現地調査を会の設立当初の2004年8月から行ってきました。しかし、移植や植栽が拡大する中で、本来の生育場所と植栽の実態を把握する必要があり、自生地の行政や管理者と連携して2011年9月からマメナシ再調査ツアーを実施し、自生しているマメナシを全国で80か所350株、守山区では150株が確認できました。

守山区では、自生するマメナシ150株のうち80%が公共の公園で管理されており、これらを次世代に残すための活動をしています。2012年以降、小幡緑地はじめ守山区周辺の樹勢調査を、2016年には「マメナシを知る会」を開催し、地元住民ほかマメナシのある桑名市等からも100名以上の方が参加しました。2016年から2018年まで行政・大学・市民団体・地元住民による守山事業を立ち上げて区内のマメナシの樹勢調査を再度実施し、樹名板による個体識別を行いました。2017年には、「蛭池のマメナシを守る会」を発足させ、継続して春・秋の観察会を実施しています。2018年には、地元の2団体や桑名市等にも呼びかけマメナシサミットを開催し、100名以上が参加しました。

取組キーワード

里山

湿地

公園

地域貢献

協働



実生のマーキング



マメナシの保全講座

特定非営利活動法人 愛猟

鳥獣被害の啓発及び狩猟者育成活動

活動期間 2019年～

活動場所 つげの活性化ビレッジ（新城市黄柳野）

web <https://aichiairyowixsite.com/wildworks>

当会は、一般の市民に対して、鳥獣被害や駆除について情報発信や啓発のための広報・講演・教育活動、加えて狩猟者の育成に関する事業を行い、鳥獣被害に関する理解の浸透や狩猟者数の拡大などに寄与するための活動をしています。

野生動物と人間社会のバランス関係に変化が生じ、農業被害、自動車や列車との追突事故、希少種の喪失、感染症問題などが心配されています。また、狩猟者は高齢化により減少しており、そのため狩猟技術の維持や継承が必要です。アースデイしんしろでの出展では、鳥獣被害などの写真を展示し、野生動物の駆除活動の情報や被害情報の啓発を行い、鳥獣害対策の必要性を参加者へ情報提供しました。また、野生動物クイズラリーや有害駆除活動で駆除されたイノシシやシカを使ってのアクセサリーやペンダントづくりの体験事業、模擬銃及び狩猟で使用するわなの展示を行いました。今後も鳥獣被害を社会全体の問題として捉え、広く情報を普及させ、狩猟者の担い手を育成していきます。

取組キーワード

森林

里山

生物多様性に配慮した製品

環境教育・普及啓発



模擬銃を使った啓発活動の様子



皮を使ったクラフト品の販売及び体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 渥美半島ハイキングクラブ

渥美半島の里山保全とハイキングコースの活用

活動期間 2002年～

活動場所 あつみトレイル「渥美半島横断ハイキングコース」(田原市)

web <http://atsumihanto-hc.seesaa.net/>

地域住民もかつては^{きのこ}茸や薪・炭の材料を得るため山に入っていました。社会構造の変革により、徐々に入山回数も減り、その影響で里山も荒れていきました。そこで、子どもの頃は身近な遊び場だった山道を、里山の自然歩道として甦らせる活動を始め、かつての自然環境に恵まれた渥美半島に近づけるように活動をしています。

歩道整備は、貴重な生きものが生息できる、環境負荷の小さい方法で取り組んでいます。活動当初は、自然歩道の整備や登山教室を開催しました。現在は、自然歩道の手入れ、ハイキングイベントの開催やハイキングマップの発行、地域の市民イベントにも出展しました。また、自然環境保護の啓発、自然観察・清掃登山開催事業や渥美半島の登山道の維持、整備事業、渥美半島の自然の保護・復元、広報事業などを行っています。今後も自然環境の保護と地域のまちづくりのため、行政、企業、NPO や市民などと協働し、活動を実施していきます。

取組キーワード

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



渥美半島 10 名山



自然に親しむハイキング

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

石原林道協議会

子どもの自然体験案内

活動期間 2018年～

活動場所 岡崎市額田地区 等

web -

山林に囲まれた岡崎市額田地区の子どもたちでさえ、環境学習の機会は限られています。林道を管理し森林を保全する当団体は、子どもたちが森林への理解を深め、森林の伐採現場や活用状況を見学し、生態系保全に関する学習を行う必要性を感じていました。そこで、2018年から子どもたちを森林に招き、自然環境をとらえる出発点となる学習活動を開始しました。

初年度の活動は、地元小学校の児童と一緒に、自然体験の中で「歩く」、「聞く」、「作る」、「食べる」の4テーマに取り組みました。次年度は、地元小学校だけでなく、額田地区4小学校の児童、保護者にも参加を呼びかけ、森林の活用を重点に、自然体験を「訪ねる」、「比べる」、「活かす」、「調べる」、「親しむ」の5テーマを設定して、幅を広げた取組ができました。水源の森を訪ね、昔と今の林業を比べ、トヨタテクニカルセンター下山で生態系保全の大切さを学び、製材工場を見学して材木で造られる橋を見学しました。今後は額田地区で活動する他の団体とも連携し、環境学習の活動を継続します。

取組キーワード

森林

里山

生物多様性に配慮した製品

環境教育・普及啓発

地域貢献



倒れた大木を避けて通る体験



額田産木材の橋建設現場見学

一宮平成ホタルの会

ホタルも生息できる環境づくり

活動期間 2000年～

活動場所 大野極楽寺公園野鳥園（一宮市浅井町極楽寺）

web <http://www.hotaru138.com/>

当会は、ホタルも生息できる環境や自然がどうあるべきかを考えています。多様な生きものが生息できるよう、私たちの身近な自然環境を改善、保全、活用し、それを守り育て、会員相互の親睦を図ることを目的としています。2000年に「ホタルが舞う姿をもう一度、私たちのまちに、子供たちに」を合言葉に、「市民参加のまちづくり」の一環として活動を開始しました。

主な活動は、ホタルも生息できる水辺環境の創出・保全のほか、ホタルの飼育、観賞会の開催や啓発活動、河川等の清掃ボランティア活動への参加です。地道に活動を続け、今年で活動20周年を迎えました。その結果、園内の環境が改善し、ヘイケボタルの自生が確認されるようになり、合わせてヒメボタルの数も増えました。また、他のNPO団体や学校等に対し、ホタルの譲渡やホタル飼育の指導を行うなど、ホタル関係のネットワークを形成し、ホタルを通じた環境活動をリードしています。ホタルの幼虫の放流体験や市民向けのホタル観賞会を毎年開催し、ホタルを通じた環境保全の啓発、意識向上にも寄与しています。

取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



観賞会（ホタル観賞の夕べ）



暗闇の中で幻想的に光るホタル

特定非営利活動法人 犬山里山学研究所

犬山水生生物園整備事業

活動期間 2011年～

活動場所 犬山市大字善師野平谷

web <http://www.satoyama-gaku.jp>

犬山市には東海丘陵要素植物が多く自生していますが、年々湿地の陸化と乾燥化等によって、湿地の衰退や自生種の減少が進み、このままだと絶滅する種も多数出てくると予想されました。そこで、湿地生物等の種の保存のために「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の助成金を活用して、犬山市善師野地区における耕作放棄地の湿田を利用し、絶滅危惧にある湿地生物種の保護のための活動を2011年12月から開始しました。

最初は耕作が放棄され湿地化していた場所に、繁茂していた笹やヨシなどを除去して湧水の動きを改善するための水路溝を掘り、犬山市内に自生している湿地性植物等の移植及び播種をしました。播種にあたっては谷間の微気象条件を考慮し、現地に育苗棚を設置して発芽させ、個体数を増やして定植する方法をとりました。また、湿地の保護と観察を容易にするため木道を設置し、学童、一般市民向けの観察会、環境学習の場として活用できるようにしました。今後とも在来種の保護活動や環境学習、作業体験を通じて、一般市民の憩いの場として利用できるようにしていきます。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



湿地性植物の観察会



湿地性植物の保護整備活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

岩崎里山の会

岩崎広場（里山）の自然を活かし・親しみ・楽しみ・癒される場の復活

活動期間 2005年～

活動場所 岩崎広場（豊橋市岩崎町）

web -

未来に残せる自然を活かした里山の復活や、自然環境づくりを目指し、郷土の自然を理解して、人と自然の新たな共生関係を見つけるとともに、自然環境保全に貢献するための活動を豊橋市と協働で行っています。

人の手が入らず放置されて荒廃した里山や森林部分において、不要な樹木の除間伐と下草刈り及び植樹を行い、庭園部分は景観保持として花木の剪定と育成や定期的な雑草刈りを実施しています。また、散策路の安全確保のため毎月一回巡回し、枯木・倒木処理と清掃を実施するとともに、除間伐した不要になった竹木を活用し、炭焼き・椎茸栽培に取り組んでいます。雑木林の整備活動では、陽光と風を潤沢に取り入れて貴重な林床植物の保護育成に努めました。今後、次世代のボランティアとなる人材を育成しながら、里山保全活動の大切さを普及啓発していきます。

取組キーワード

里山

公園

地域貢献

協働



花壇の植替作業中



庭園の草取り

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

大高竹の会

大高緑地の竹林の保全整備と竹炭づくり

活動期間 2004年～

活動場所 名古屋市

web -

2001年、緑区のボランティア養成講座の中から、花水緑の会が発足し、そこから2004年に竹林の保全整備等を行う大高竹の会が発足しました。健全な竹林の維持や整備で排出される竹材を原料にして竹炭を作ることなどを目的に、竹林整備活動や作った竹炭をイベント時に住民の方に配布する等の活動を行っています。また、一般参加の体験講習会やイベントにおける竹切体験等を実施しています。

大高緑地 猪根の森
森づくり基本構想に基づくプラン作りと保全活動

活動期間 2015年～

活動場所 名古屋市

取組キーワード

里山

公園

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



大高竹の会集合

里山

公園

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



大高竹の会森づくり

COP10以降、生物多様性に配慮した森づくりを意識して活動しています。2013年の「メタセ広場周辺の竹林・雑木林の保全整備」等を通じた課題認識を経て、2015年から現在までの植生や各種記録を基に公園の魅力を高める健全な森の育成を目的に指針や森づくり基本構想と施業マニュアルを策定しました。現在、定例の森づくり活動及び一般参加者を募った自然観察等のフィールド講座を実施しています。

おかざき湿地保護の会

湿地保全活動と湿地を活用した環境啓発

活動期間 2007年～

活動場所 北山湿地（岡崎市池金町）等

web <https://genki365.net/gnko/mypage/index.php?gid=G0000958>

2002年頃、岡崎市内の北山湿地及び小呂湿地において、植生の遷移が進み消滅のおそれを確認したため、地元住民による周辺林の除伐や草刈りなどの保全活動を開始しました。その保全活動を引き継いで、2006年に失われつつある湿地の特殊な環境と絶滅が危惧される希少種をはじめとした湿地生態系全般の保全を行うため、「おかざき湿地保護の会」を設立し、現在に至るまで様々な湿地の保全活動や将来の担い手育成を行ってきました。

現在は、両湿地での毎月2回の保全活動を実施するとともに、定期的に一般参加の観察会を実施しています。また、ギフチョウなどの捕獲防止の観点から希少種の保護パトロールを行っています。活動にあたっては、植物や昆虫の専門家の指導を受けつつ、活動の裾野を広げ、将来の担い手育成の観点から、地元の教育機関（中学校から大学まで）や地元企業の活動の受け入れを行っています。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



企業からのCSR活動受け入れ



湿地の定期観察会

乙北ため池クリーンの会

ため池クリーン & かいどり作戦

活動期間 2015年～

活動場所 葭池（半田市南大矢知町）等

web -

地域間交流と小中学生との世代間の交流促進を図り、あわせて「環境整備・環境教育」と「生息生物調査と観察会」、「外来種駆除による生態系保全」を楽しみながら力を合わせて実施し、一体感・達成感を醸成するために、2015年から事業を開始しました。

ため池の水抜きによる水質改善を図り、ため池内外のごみ除去を行う環境整備活動では、ミニバイク、自転車、浴槽、洗濯機、タイヤ等大型ごみの他、空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻、菓子袋等プラスチック類を多数回収し、環境意識の向上を図りました。また、生物の生息調査と観察会を行い、生物学習の場としたり、外来種の駆除を行い生態系の保全を図ることも行っています。捕獲魚類については、いずれの池もヘドロが1m近く堆積しており、アカミミガメ、アメリカザリガニ、ウシガエル等は、ヘドロ内に隠れてしまい捕獲が難しいのですが、捕獲・駆除に努めています。この活動を通じて在来種のフナ類、エビ類、モツゴ等を多数捕獲しており、生態系が保全されていることが確認できました。

取組キーワード

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



外来種駆除と生息生物調査風景



池内外より回収されたごみ類

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

尾張サンショウウオ研究会

尾張地区のヤマトサンショウウオの保全活動

活動期間 1999年～

活動場所 名古屋市

web -

名古屋市内の東部丘陵地帯に生息するヤマトサンショウウオは、開発による生息数の減少が懸念されている一方、個体数が把握できていなかったため、市民活動家を中心に1999年から調査を開始すると同時に産卵地の整備や遺伝学的研究に取り組んできました。

生息数の動向観察、生息地の保全活動、保全への助言やレッドリスト作成等に向けた調査データの提供、さらには、遺伝的多様性保全の観点から、各生息地点における集団の遺伝的多様性のモニタリングも実施し、尾張地区からヤマトサンショウウオが姿を消さないよう努めています。

産卵期の2月から3月を中心に活動し、生息数把握のための調査や産卵地の整備を行ってきました。また、生息数の少ない集団では、卵から幼生の期間に生息域外保護飼育を行い、保全活動を行ってきました。遺伝的解析では、幼生を用いて、本地域の個体群の遺伝的多様性を明らかにし、この成果は名古屋市版レッドリストの基礎資料として活用されています。

取組キーワード

森林

里山

湿地

野生生物の保護

その他：遺伝学的研究調査



ヤマトサンショウウオ♀



ヤマトサンショウウオ卵囊

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

一般社団法人 ガールスカウト愛知県連盟

ジュニアホップステップ・キャンプ

活動期間 2019年～

活動場所 愛知県民の森（新城市鳳来寺）

web -

野外活動を通し、体験プログラムの中で、「森の大切さ」、「森林保全」などの意識を高め、環境問題への視野を広げることや、「愛知県民の森（新城市鳳来寺）」という豊かな地域の自然にふれ、地域への貢献を考える必要があると考え、当会としてこの活動を行うことにしました。

県民の森の自然を体感し、木の生態や、川の様子を調べる課題に取り組むことや、グループごとに竹を利用してカヌーを制作したり、実際に川でカヌーに乗る体験活動を行いました。また、野外炊事・キャンプファイヤーを実施しました。その結果、ジュニアスカウト（小学生4年生～6年生）が課題をこなし、自然の中で森・水の大切さを知り、身近な自然に目を向けられるようになりました。今回の体験活動を通し、自分で考えて行動する力を身につけることもできましたので、さらに活動の幅を広げていきたいと考えています。

取組キーワード

森林

環境教育・普及啓発



風穴までハイキング



キャンプファイヤー

かすがい里山自然楽校

市民憩いの森づくりプロジェクト

活動期間 2019年～

活動場所 春日井市潮見坂平和公園（春日井市）等

web -

春日井市潮見坂平和公園では産業廃棄物や家庭ごみが散見される状態でしたが、公園内でオオタカやメダカ、ツマグロキチョウ、ヒメタイコウチなど希少種の生息が確認されました。これらの生息地保全と地域のための体験学習の場として整備することを目的に「かすがい里山自然楽校」を2012年に設立しました。

春日井市潮見坂平和公園内で、湿地や水辺の整備を通じて、ヒメタイコウチやヘイケボタルの保護に成功しました。また、ヒメカンアオイやスズカカンアオイの成長を確認できるまでに整備を進めることができました。環境学習の場として年8回共育講座を開き、親子の自然環境体験・学習会を実施したり、地元の幼稚園児や子ども会の児童を招待して里山の自然体験活動を行っています。今後は、過去の実績を踏まえ、体験型活動ができる公園整備に努め、多くの市民が参加できるフィールドを整えるとともに、希少種の保護活動を行っていきます。

取組キーワード

里山

湿地

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



竹明かり「ナイトハイク」



雑木林の枝打ち作業

刈谷環境支援員の会

外来生物の駆除（除草）と啓蒙活動

活動期間 2016年～

活動場所 発杭川（刈谷市）等

web -

繁殖力の強い特定外来生物であるオオキンケイギクが、日本の在来植物（カワラナデシコ、カワラサイコ等）の脅威になっています。希少な植物を守るために、駆除活動を通して環境保全の必要性を市民とともに体験してもらうために、当会を設立しました。

主な活動として、オオキンケイギクの駆除を通して特定外来生物の現状を理解し、環境保全活動を体験してもらっています。また、非常に繁殖力の強いアカミミガメが、在来のニホンイシガメの生息場所を奪ったり、ホタルの幼虫や昆虫や水草等を食べてしまい、生態系や農業に被害が出ている現状を市民に知ってもらう啓発活動を行っています。

今後も地元企業や市と協働して活動を行い、各公共施設等に告知ポスターの掲示依頼や、支援員による地域住民へのポスティングによる普及活動を行っていきます。

取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発



恩田川沿いの駆除活動



発杭川沿いの駆除活動

環境学習ネットワークグループ

ギフチョウのすめる里山環境づくり

活動期間 2012年～

活動場所 みろくの森（春日井市巡間町高森）

web -

当会は小学生の環境教育の支援を主活動にしていましたが、2012年から自主的な活動として春日井市の指定希少野生動植物種であるギフチョウの保護活動をすることにしました。

ギフチョウの保護活動として、自然環境保全活動推進員の協力の下に、里山の樹木の混和状態を除伐により緩和し、枯れ木・倒木を処理しています。これにより、ギフチョウの吸蜜・食草植物の繁殖促進を図り、より良い環境を整備し、ギフチョウの増殖を計画・実施しています。

このような里山の管理を実施した結果、場所により林内が明るくなり、吸蜜・食草植物が成長し、増殖するようになりました。また、ギフチョウの卵数調査・幼虫調査、成虫の頭数を調査した結果、2016年では卵数・幼虫数69個だったものが2019年には162個となりました。今後とも吸蜜植物の繁殖の促進活動や環境教育の場として活用できるように、活動を進めていきます。

取組キーワード

里山

野生生物の保護



スズカカンアオイ株数調査



間伐・除伐作業の様子

間伐こもれび会

森林の整備活動で取り組む三河湾の生物多様性の保全

活動期間 2016年～

活動場所 県有林（豊田市羽布町）等

web <https://kouboukomorebi.jimdofree.com/>

林業の衰退は全国的な課題ですが、愛知県の林業も同様に停滞しており、森林の持つ森の生物多様性の維持、水源の源、大気の浄化、天然のダム、災害の防止といった公的機能などが低下しています。また、三河湾は、森林から供給される豊富な栄養素と良質な砂が、アサリ、ガザミ、クルマエビなど、全国有数の水揚げ高を誇る魚種を育み、豊かな生物多様性を作り上げてきました。しかし、森林が荒廃すると栄養素を供給できなくなり、森林から流出する土砂により、良質な砂で形成された干潟が流出土砂に覆われてしまいます。また、開発等により三河湾の約41%の干潟が失われたとされています。

当会は、森林を健全に保つため、継続的な森林の間伐・整備活動をする団体として設立されました。森林の間伐整備活動は、岡崎市額田地区私有林及び愛知県県有林などで、年間約50日取り組んでいます。また、森林の間伐・整備の重要性の啓発や木育を目的に、間伐材で「積み木」や「間伐材アイテム」を制作し、地域の保育園に寄贈したり、地域イベントに出展しています。

取組キーワード

森林

生物多様性に配慮した製品



森林の間伐作業



間伐材搬出作業

清田地域環境保全会・免々田川を守る会

地域の宝 免々田川のゲンジボタルに託す夢 - 竹炭による水質浄化 -

活動期間 2006年～

活動場所 免々田川一帯（田原市山田町）等

web -

「豊かな自然環境・みんなに愛される地域・みんなで作る」をテーマとし、子や孫の世代まで豊かな地域の姿を共有し合うため、免々田川の清流に生息するゲンジボタルを保護する活動を2006年から開始しました。

ゲンジボタルの幼虫の餌カワニナは清流に生息し、亜硝酸、アンモニアが検出されない水質状態を保つとされています。また、竹炭は多孔質で亜硝酸、アンモニアの吸収率も高く、それ自体が好気性でバクテリアの優れた濾材ともなり、さらに水中のミネラルやマイナスイオンを放出するとも言われています。そこで、里山を荒らす原因ともなっている孟宗竹を炭にして川に設置し、水質浄化に有効活用を図ることにしました。

川面に飛び交うゲンジボタルの数は年々増加し、生息域も下流に広がり、鑑賞者も増えてきました。これからも、自然を愛し、自然とともに生きる地域づくりに取り組んでいき、あわせて環境保護に関して主体的に取り組める人材の育成を行います。

取組キーワード

里山

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



新しい竹炭との取替



竹炭づくりに励む小学生

特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海

ホタルの生息環境づくりと次世代継承の取組 ～未来へつなぐ子供たちの夢～

活動期間 1997年～

活動場所 内山川（豊橋市岩崎町）

web <https://ja-jp.facebook.com/uchiyama.firefly>

内山川（豊橋市東部）は、昭和30年代前半までゲンジボタルがたくさん舞う環境でしたが、1996年の河川改修工事以降、ホタルが見られなくなりました。そこで、かつての自然環境とゲンジボタルの舞える生息域を蘇らせるため、1999年に「内山川ホタルを守る会」を設立し、「未来へつなげよう私たちの川」をスローガンに、河川及びその周辺環境の改善の取組を始めました。

1997年から地域の自治会が河川の清掃を開始し、2004年からは内山川ホタルを守る会としてコンクリート側壁両岸に溶岩パネルを張り、その後は豊橋市や地元小学校の協力を得て、パネルを張る作業を継続しました。その結果養殖・放流を一切せず、2008年には、発生区間約600mに1,500匹ほどのホタルが舞うのが確認されました。さらに2019年には、発生区間約1.4kmに約3,000匹が確認されました。また、小学生たちの協力により、溶岩パネルを張る作業が継続され、環境学習の場としても活用されています。5年後、10年後にはさらに多くのホタルが舞うことを目指し、活動を継続します。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



溶岩パネルの裏面に描いた夢



溶岩パネル張り作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

鞍掛山麓千枚田保存会

自然環境保持・環境学習・生きものと共生したコメづくり

活動期間 - 活動場所 新城市四谷 等
web -

四谷の千枚田は、日本棚田百選に選ばれており、鞍掛山の湧水が棚田を潤し、山地特有な気象条件を生かした稲ハザも魅力的で、日本三大石積みの棚田でもあります。耕作をすること自体は厳しいですが、多様性に富んだ生きものの空間としての条件は優れています。当会では、人の手で壊した自然環境の再生「手心を加えれば再生は可能」を合言葉に活動しています。

生きものと共生した体に優しいコメづくりの実践や稲作体験、モリアオガエルの移植、地元小学校、高校等の環境学習（稲作体験）の受け入れ、企業にも参加を呼びかけてのビオトープ造成、管理などに取り組んでいます。また、諸外国からの中山間地域農業研究生の視察対応も行っています。地元の自然科学博物館の観察会や夏季における四谷の千枚田をテーマにした特別展も開催されました。今後も、この自然に恵まれた四谷の千枚田の保全活動を継続していきます。

取組キーワード

- 里山
- 農地
- 野生生物の保護
- ふれあい活動の整備
- 地産地消
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献



稲刈り体験活動



四谷の千枚田の全景

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

劇団シンデレラ

COP10 ガールズ

活動期間 2009年～2012年 活動場所 名古屋市 等 web <http://www.dozira.net/>

ミュージカルは、難しい内容であっても子どもから大人まで楽しみながら多くの人に分かりやすく伝えることができます。生物多様性をわかりやすく多くの人に伝えるため、COP10に合わせて劇団内に「COP10 ガールズ」というユニットを結成しました。会議開催の1年前からCOP10を広く市民にPRし、会期中には「生物多様性交流フェア」において公演を行い、多くの来場者に生物多様性の重要性を伝えました。

取組キーワード

- 森林
- 里山
- 湿地
- 海岸
- 環境教育・普及啓発



琵琶湖での公演

ESD ミュージカル

活動期間 2011年～2014年 活動場所 名古屋市 等

COP10と同様に2014年11月に愛知県名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の3年前より、多くの人に「ESD」と「生物多様性」の重要性を伝えるため、「ESD」及び「生物多様性」を盛り込んだ「ESD 生きものミュージカル」等を制作して上演活動を開始しました。2011年～2014年の間に日本各地、マレーシア、タイなどアジア各地で約120回もの公演を実施しました。

- 森林
- 里山
- 湿地
- 海岸
- 環境教育・普及啓発



久屋大通公園での公演

さがらの森もりクラブ

さがらの森 整備保全

活動期間 2005年～

活動場所 さがらの森（蒲郡市）

web <https://miyasatoyama31080.themedia.jp>

2003年にさがらの森の管理が愛知県より蒲郡市に移管され、地元大塚地区自治会が管理していました。それを引き継ぐかたちで、さがらの森の運営や保全活動を行うためにさがらの森もりクラブを発足しました。

故郷の里山であるさがらの森における貴重な自然環境の保全を図るとともに、多くの人々がさがらの森を身近にある里山の森として楽しみ、自然の持つ四季の変化から動植物の様子についての学習や体験の場として活用しています。さらにボランティアの活動の場とし、自然を通じた交流を深めるためにも活動しています。

具体的には、さがらの森の除草等整備作業（ささゆり群生地保護等）や竹炭焼き作業（里山荒廃対策で間引きした竹を材料にした竹炭焼き）を行っています。また、例年4月下旬にさがらの森で行われる「森の文化祭」の会場整備や体験教室の実施（竹炭焼き体験、キャンプ体験等）、倒木を利用したキャンプ用の薪作り、四季の花を楽しむ花壇づくりを行っています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



炭焼きの作業



除草作業

森林インストラクター会“愛”

子どもも大人も樹木博士&なぞとき樹木探偵

活動期間 2008年～

活動場所 名古屋市 等

web -

森林インストラクターは、森林や林業に関する知識を伝え、森の案内などを実施する指導者であり、1995年より愛知県民・市民の方々を対象に生物多様性など森の役割についての森林環境教育等を実施してきました。

生物多様性の認知には子どもの頃から“森を楽しむ・森を知る”体感・体験が基本と考え、都市を中心に「森を楽しむ、森に親しみをもち」から「森から学び、森の恵みを知り、森の大切さを感じ取る」、「森への感謝と行動に繋げる」と一貫性のある森林環境教育を実施しています。

樹木博士講座は、2008年より毎年各々のテーマで、毎回、樹木10～15種を巡り環境植生や活用・樹木の名前の由来などを3回の講座で学ぶもので、海上の森、東山植物園等で開催しています。また、「なぞとき樹木探偵」は、森に親しむ独自の環境学習プログラムで都市公園等で約10種の樹木をクイズ形式で解説をするもの、希少種エリアを含む季節・場所などに沿ったもの等があり、年間1,500名以上が参加しています。

取組キーワード

森林

里山

公園

環境教育・普及啓発



樹木博士の樹木解説



樹木探偵の樹木解説

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

親林会

森林整備による地域貢献プロジェクト

活動期間 2003年～

活動場所 やまじの森県有林（瀬戸市東山路町）

web <http://www.wa.commufa.jp/forester/>

健全な森林の維持造成は、喫緊の課題となっています。そこで、2003年に「海上の森の里山学びと交流の森づくりパイロット事業」に参加し、森林の現状を少しでも改善できるよう、海上の森だけでなく他の地域に活動範囲を広げられるように、親林会を設立して活動を開始しました。

県有林で間伐・除伐・下草刈りによる森林整備を進め、明るい森へ整備し、生物多様性の回復を図る活動を行いました。

「やまじの森」は、東海自然歩道との隣接エリアで、明るい森創出により、多様性に富んだ植生を生み、散策者・登山者のふれあいの場としての環境を整備してきました。

また、愛知県医療療育総合センターでは枯損木・危険木の整備、除伐により、森林の活力と生物多様性の回復を図っています。

引き続き、間伐・除伐・下草刈り等の実施による森林整備を進め、作業を通じて環境保全活動の人材育成に力を入れていきます。

取組キーワード

森林

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



高所作業の実施



常緑高木の伐採

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

瀬竹会

愛知の竹藪を美竹林に！ 里山保全意識の向上と実践

活動期間 2013年～

活動場所 瀬戸市 等

web <http://www.ne.jp/asahi/nakamura/setikukai/>

近年、竹林が管理放棄され、里山の樹木も侵食されて枯死し、里山景観が破壊されています。これを阻止するため、竹藪を整備し管理竹林化することで里山の再生、景観改善で地域環境の保全に寄与しています。

主な活動として、孟宗竹や多種竹藪を整備し、管理竹林化をはかり里山の継続的な環境保全活動を、瀬戸市内、名古屋市内などで毎年少なくとも10回近く活動し、毎年延べ70人近くの参加者があります。また、整備竹林を利用してイベントでの竹細工作りや地域小学校での環境学習への参加を通して、世代の垣根を越えて森と緑の環境意識の啓発を図っています。今後も竹林整備活動を継続実施し、管理竹林化を図り、里山の環境保全活動を継続していきます。また、環境学習と整備された竹林を利用したイベントの開催を継続し、世代を超えて永続的な環境意識の醸成をはかり、竹林整備の重要性を認識してもらう活動を展開していきます。

取組キーワード

里山

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



環境学習



竹林整備

瀬戸椿の会

瀬戸赤津・凧山つばきの森の環境整備

活動期間 2010年～

活動場所 瀬戸市凧山町

web <http://setotsubakinokai.web.fc2.com/index.html>

瀬戸市の花「つばき」で「瀬戸市を日本一のつばきの街にしよう」ということで、市内の各所を調査しました。その結果、放置された里山と休耕田のある凧山町の一部を確認し、地権者の協力のもと2010年から16,000㎡の土地を借用し、2012年「瀬戸赤津・凧山つばきの森」を開園しました。

四季を通じて自然を守り、かつ楽しむ環境づくりを行うため、孟宗竹の侵入を防ぎ、ナラ枯れ等で人も近づけなかった里山を整備しています。また、景観を大事にし、対岸の古刹雲興寺からの景観も考慮した森づくりも行っています。記念植樹による思い出づくりということで、植樹に合わせ陶板に思いの言葉の焼き付けもしています。その他、治水対策を実施し、池の流れづくりと水路もつくり、遊水池を4か所に分けて水草が育つ環境を整備し、小動物、昆虫、鳥などの生活圏を確保しました。今後も、自然の草木との共生ということで、従来からのあるヤマザクラ、ホオノキ等に交じってツバキ、ヤマアジサイ等を植樹して自然豊かな森づくりを行っていきます。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



凧山竹チップ処理



湧水池観察

佐布里の里山を美しくする会

森と緑の育成活動事業 里山ビューティー事業

活動期間 2018年～

活動場所 知多市佐布里

web -

当会は、昔の里山を取り戻し、自然とのふれあい体験・学習の場を提供することで、子どもたちが自然との共生の大切さを学ぶための活動を行っています。里道・広場を整備して子どもたちの里山での野外観察に役立てることや、水路を整備して水辺での体験・学習の機会を与えるために、『あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業』の助成金を受けています。

竹を伐採してできた広場では、タケノコほり体験を地区の小学3年生たちを対象に実施しました。また、散策路を整備するため竹・雑木の間伐、伐採も行いました。ほかにも、2012年ころからホタルの幼虫を放流し、観賞をしてきましたが、現地が狭いため、池を清掃し、ヘドロを処分したり、水路（せせらぎ）を延長して水辺の自然とふれあいやすくもしました。なお、池・水路（ビオトープ）の整備について、県により専門家の派遣を受け、指導を受けることもできました。保育園児らへの環境学習活動として、ホタルの幼虫の放流及びホタル観賞を行いました。今後は、里山散策路や広場の整備をし、当会の世代交代も念頭に活動を進めていきます。

取組キーワード

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



タケノコほり体験



散策路の整備（竹の伐採）

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

ちごりんの里山

小牧市の花 ミツバツツジの保護と里山保全、
自然観察、森の遊び、ツツジの植樹会事業

活動期間 2015年～

活動場所 愛知県県有林（小牧市大字大山）

web -

小牧市の花であるミツバツツジの自生地の保護と整備、動植物の調査や観察会、森の遊びを中心に自然体験活動、ミツバツツジとモミジの植樹会を開催することを目的とし、2009年より県有林を借用して活動してきました。

市内におけるミツバツツジの自生は珍しかったですが、自生地を確認し、除伐や立ち枯れ松などの伐倒処理を行いました。

また、春にはミツバツツジの観察会、親子や小学生を対象に除伐体験などの環境活動を行いました。ほかにも、ネイチャーゲームなどを通じた環境活動なども行いました。

小学生や親子で活動を行うことで、森の大切さを知ってもらい、ミツバツツジの観察会を通じ、当会の保護活動を知ってもらえました。県内でミツバツツジが自生していることが珍しくなってしまう、今後とも保護活動などを通じて広く情報を発信していきます。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



除伐体験



植樹体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

中日森友隊

段戸「中日森友隊の森」での
持続可能な森作り・森林環境の学び

活動期間 1996年～

活動場所 設楽町 等

web <http://chunichi-shinyutai.cocolog-nifty.com/homepage/>

1997年以降、中日新聞社の後援により、段戸原生林に隣接する国有林で苗の植樹や夏の下草刈り、除伐や枝打ちなど、様々な育林活動を行ってきました。2010年からは独立し、メンバー同士で協力して、自主的に森作りを開始しました。スギやヒノキなどの人工林の育林活動だけでなく、ブナの原生林と常に対比しながら、木漏れ日が地表まで届き微生物の豊かな土壌になるよう除伐・間伐を行っています。また、一般の方、特に若い人に関心を持って活動してもらえるように呼びかけ、森林環境保全への思いを広げています。

森林管理事務所の指導を受けて「将来木施業方式」という伐採方式を採用し、将来の森の様子を想像しながら間伐を行っています。あわせて、都市周辺で里山の環境が残る中日青葉学園の環境整備も毎年実施しており、原生林や人工林、里山林の多様な森での活動を体感しています。企業や大学との協力も得られ、一般の参加者も増えた結果、広く啓発活動も行えるようになりました。

取組キーワード

森林

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



学生ボランティアと除伐作業



中日青葉学園にて園内の環境整備作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 てほへ

奥三河の森林生態系保全活動 蒼の森、のき山学校軒山整備事業～志多らの曲が生まれる森～

活動期間 2012年～

活動場所 のき山学校（北設楽郡東栄町）等

web <https://tehohe.com/>

奥三河地域は、約90%とほとんどが森林で、多様な動植物を育んできましたが、戦後の針葉樹の植林によって、森林の生態系は大きく変化しました。外国産の輸入木材の増加により、国産林の需要は大きく落ちこみ、森林伐採が低迷し、間伐などが行われずに森林が放置され、生態系が大きく影響を受けることになりました。当団体は、森林の間伐整備活動を通じて、都市住民へ森林の持つ機能の重要性を伝え、間伐や木材搬出に参加してもらうことで、奥三河の森林生態系の保全とともに、森林文化を守る活動をしています。

具体的な活動は、チェーンソーの取り扱い方や搬出技術習得のための機械操作などの勉強会、市民参加による間伐放置木材の搬出作業を行っています。また、専門家による森林講演会、チェーンソーアート体験、木工体験など森林ワークショップを毎年開催しています。さらに、YouTubeなどで地域情報を発信しているのき山放送局で、奥三河地域の森林生態系保全活動団体の活動記録を放映しています。今後とも、都市住民向けに森の現状と森林文化継承の重要性を知ってもらうために様々な活動を行っていきます。

取組キーワード

森林

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



間伐材搬出作業



志多らの曲が生まれる森

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 土岐川・庄内川サポートセンター

源流の森から下流域まで流域一体の取組で体験を通して水と緑の大切さと山・川・里・海のつながりを知る。

活動期間 2006年～

活動場所 矢田川・庄内川流域（名古屋市）等

web <http://npots.jimdofree.com>

都市部に住む人たちに、土岐川・庄内川源流域の森の健全性とその維持をしている森の民の生活や源流、下流環境の見学・体験・交流を図ります。また、自然と触れ合うことの楽しさや、自然を守っていくことの大切さを知ってもらい、流域圏が一体となった地域づくりを図るため、当会ではイベントや広報を実施し、市民・企業・行政間などのパートナーシップの確立を図りながら、公益の増進に寄与しています。

上下流交流として源流水源の水生生物の調査、椎茸原木作り、間伐の森の見学を行いました。また、年に数回、地域や企業の催しに参加し、間伐材での箸作り、竹ぼら、ぶんぶんゴマ作り等、体験の機会を提供しました。その他、支援事業として、毎月第3日曜にみずとぴあ庄内で開催される朝市での親子体験教室（間伐材を使った箸作り等）、施設周辺と活動流域の草刈等整備活動、流域関連団体の協力を得て庄内川流域の外来植物、外来水生生物の調査を行いました。また、庄内川河川事務所から受託して、小学校、幼稚園、保育園の子ども達の河川体験を実施しました。

取組キーワード

森林

河川

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



マイ箸作り



保育園児の河川体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 富岡まちづくり協議会

森林整備から食育まで - 健康な森づくり -

活動期間 2016年～

活動場所 新城市富岡

web <http://tomioka-aichi.jp>

2014年度より五葉まつりイベントに出展し、椎茸の菌打ち体験に試験的に伐採した木材を活用したところ、イベント参加者に好評で瞬く間に原木がなくなり、伐採と食育の両方の観点から本活動を行うことを思いつきました。間伐期を逸した森林環境を良好なものにし、自然資源の活用策として椎茸の菌打ち体験をすることで、環境整備活動が食育にまで直結することを学習し、自然保護の民意形成に貢献するために、当会の活動を開始しました。

コナラ林の間伐活動の後は、作業道を散策の小道として残し、植物のほかに昆虫や小鳥などに関する学習の場として利用しています。また、毎年行う椎茸の菌打ち体験イベントには、椎茸菌打用原木を毎年約300本を細断して搬出し、富岡区外からも約半数の方々が参加し、栽培から食卓へのつながりについてを家庭内で実感し、「食育」の体験を促しています。今後も、森林整備からはじまる地産地消の活動を通じて、持続可能な活動の大切さについて次世代につなげていきます。

取組キーワード

森林

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発



ホダ木を広場に集積し養生



細断ホダ木を運搬車で搬出

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

豊明エコキッズ

豊明環境体験学習事業 ～触れて 知って 伝えよう！～

活動期間 2004年～

活動場所 二村山緑地（豊明市）等

web -

豊明市には住宅地だけでなく、河川や森林、里山もあります。しかし、子どもたちが身近な自然や生きものに触れあったり、学んだりする機会があまりないのが現状です。そこで、「エコを考え、心豊かに、キラキラと、繋がれ、ズッシリ体験」を合言葉に、親子で自然を大切にすることを育んでいく活動を行い、環境保全活動や自然体験、環境学習を通して、子どもたちが水や豊かな緑やそこに生息する生きものや環境の大切さを知り、その自然や環境保全の重要性を考え、広く伝えていく活動を行っています。

月に1回程度、身近な地域の川（皆瀬川）のクリーン活動を行っています。また、年に一度、川の生きものや水質調査を行い、レポートにまとめています。その他、減農薬野菜の栽培やエコクッキングで地産地消について考えたり、地域の緑地（二村山）で、自然観察会や落ち葉を集めてのビートルベットづくり（整備）を行い、自然体験や環境学習の活動に取り組んでいます。今後も引き続き、様々な団体と連携しながら、子どもたちが主体となって企画し、楽しめる活動を目指します。

取組キーワード

里山

河川

湿地

環境教育・普及啓発

地域貢献



皆瀬川の水質パトロール



二村山で夜の虫探し

豊田市自然観察の森

湿地保全学習モデル校の取組によるラムサール条約湿地の保全及び生物多様性の学習機会の創出

活動期間 2018年～

活動場所 矢並湿地（豊田市）等

web -

市内の矢並湿地、上高湿地及び恩真寺湿地は、2012年にラムサール条約に登録されて以降、市民や小学生向けの観察会などを行ってきましたが、普段は一般に公開されていないため、認知度は低い状況でした。そこで、子どもたちが豊田市の貴重な自然環境を知ることで、主体的・対話的で深い学びを促し、湿地保全の輪を広げていくため、湿地での学習プログラムを行う学校を「湿地保全学習モデル校」として指定し、小学校の授業で豊田市のラムサール条約登録湿地を題材とした環境学習の機会を創出しています。

上鷹見小、矢並小、根川小及び則定小の4校を湿地保全学習モデル校に認定しており、各湿地で年間の学習スケジュールを組み、学校での事前学習と現地の湿地での学習、成果発表をセットにして進めています。各湿地の特徴や動植物の生態について、自然観察の森のレンジャーや保全団体等から学び、保全作業や自然マップの作成、一般市民向けの湿地ガイド、研究発表会などを実施し、湿地を通して、生物多様性保全の大切さを伝えています。

取組キーワード

湿地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



矢並小学校こどもおもしろナビゲーター



則定小学校湿地ガイド学習

とよた下山林業応援隊

森林の育成及び自然に親しむ活動

活動期間 2015年～

活動場所 豊田市大沼町 等

web <https://www.facebook.com/toyota.shimoyama>

当会は、自然に親しみつつ間伐等を行うことにより健全な森林を育成するとともに、ミツバチの飼育、キノコ栽培など自然の恵みの体験活動を行っています。これを通じて自然との調和の実現のため、とよた森林学校の受講生が中心となり間伐等を行うことにより、災害に強く多様な植物が繁茂する健全な森林を作ることを目的とした会です。

自然観察、木材加工、林業、農業、山歩きなどそれぞれの興味分野を共有しながら活動を行っています。毎年0.5haほど間伐を実施しており、林床に日光が入り、多様な植物が生育するとともに、災害に強い山に変化していくのを実感しています。また、間伐材を利用して丸太椅子や花台、コースター等を作り、都市部でのフリーマーケットに参加して、間伐の必要性、自然の大切さなどを説明し、啓発活動を行っています。間伐前には植生調査を実施し、林道沿いに樹木名のプレートを設置しています。今後も間伐活動を基本とし、植生調査や自然観察の機会も増やしていきます。

取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発



間伐後の森



森林での植生調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

中志段味の自然を次世代に伝える会

才井戸流の自然保全と湧水自然公園の造成

活動期間 2011年～

活動場所 名古屋市

web -

才井戸流は、湧水に支えられた昆虫、希少植物、古くから生存してきたホタル、東部丘陵から往来する鳥やトンボなどが繁殖できる自然環境です。今後も保護していくため、地元住民を中心に生物多様性の維持と市民・学生との協働で行う活動を2011年から始めました。

活動の中で、ホタルは5種類の生存を確認し、毎年保護活動と観察を続けています。そして今年に入り諏訪坂上の道路造成に伴い、ヒメボタルの保護のため幼虫を捕獲・移動させました。これまでも水路を7本整備して、小池も3か所造成し、昆虫たちの生存条件を改善しました。現在は、才井戸流在来のオグラノフサモを繁殖させる作業を継続中で、清掃作業・竹などの整理・草刈りは1年を通して行っています。また、神社斜面の希少植物をコドラート調査で10種類以上確認し繁茂させる条件を模索中です。

今後、多くの市民に参加してもらえるように、永く広く活動していきます。

取組キーワード

湿地

野生生物の保護

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



蟹原湿地の造成



守山高校と作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

長篠開発委員会

豊かな森づくり事業

活動期間 2005年～

活動場所 大部川里山公園（新城市長篠）

web -

この地域では過疎化が進んでおり、里山を手入れする人が少なくなり、山も荒れて、自然環境が以前より悪化し、地域の活気も無くなりました。地元里山の自然との共生、自然の大切さを理解し、潤いのある町作りのために、当会では里山公園を整備し、自然学習会を開くことにより、地域住民に多数参加してもらい、この地域の自然の良さや里山の必要な役割を知ってもらうことで、地域の活性化を目指しています。

民間の里山の持ち主の協力を経て、間伐等を行い、大部川の周辺に里山公園を作り、遊歩道などを整備し、隣接している林道も定期的に草刈などをし、ウォーキングコースを整備しました。また、間伐材を利用した休憩小屋を作り、小川には間伐材で橋をつくり、公園内にベンチなども設置しました。年に2回ほど講師を呼んで、地域の子どもや保護者を対象にした自然観察会を開いたり、広報誌を発行しました。草刈機などを使用するための安全講習会を開催しました。今後も地域の多くの人々に参加してもらい、里山の魅力を伝え、自然環境保全と過疎化の歯止めに尽力したいです。

取組キーワード

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



親子での植樹体験



小川でのマスつかみ体験

なごや外来種を考える会

「外来種を捕る会」「外来種を食べる会」

活動期間 2018年～

活動場所 名古屋市

web <http://nagorai.org/>

2016年より外来種啓発のため「アメリカザリガニをゆでておいしく食べる会」を開催してきたところ、参加者から「捕るところから一緒に活動したい」と要望されました。そこで2018年より「捕る会」と「食べる会」を連続で開催しました。「おいしく食べてあげる」ことにより親子連れにもいやな気分させず外来種の駆除活動を完結することができています。

取組キーワード

湿地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

その他：外来生物の駆除



外来種を捕る会

外来樹木に塩を吸収させて枯死させる「塩盛法」の実験

活動期間 2012年～

活動場所 名古屋市

外来樹木のうち、「ハリエンジュ」「トウネズミモチ」など再生力の強い樹木を駆除するには「食塩」が有効であることが分かりました。樹木を伐採した切り口に食塩を盛り、断面の師管から根に塩分を吸収させて枯死させる方法です。環境負荷もなく安価で簡単なので、駆除率の向上に向け、検証を続けています。

里山

公園

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献

トウネズミモチ駆除実験（ひこばえ・実生）

テープ巻法



塩綿巻き法



塩綿巻き法

特定非営利活動法人名古屋シティ・フォレスター倶楽部

人工林における 多様な生物が暮らせる森づくり

活動期間 2019年～

活動場所 ひざわの森県有林（豊田市御作町）

web <http://ncfc.jp/>

里山における手入れが不十分なため、生物多様性が失われ、集中豪雨等による災害面での課題が増えてきました。人工林内での雑木などの地表植生が繁茂可能な改善を図るとともに、今後の林内において落葉広葉樹との調和を図ることで、林内の植物相を豊かにしていくことが重要になっており、本会の取組を開始しました。

人工林における多様な生態系豊かな森づくりを目指して、人工林内の地形と地質、人工林、落葉広葉樹の状況を把握し、落葉広葉樹の状況を踏まえた森づくりの森林整備方針を立案しました。また、人工林内に落葉広葉樹の育成の可能性を図るための調査フィールドを整備し、落葉広葉樹を育成し、稚樹の移植を試みました。その他、調査フィールド周辺の落葉広葉樹幼木にタグを設置し、樹種と樹高、幹の太さを計測しました。今後ともモニタリング調査を継続的に行い、必要に応じて、森林整備方針の見直しも行いながら、生物多様性があふれる森林環境整備を目指します。

取組キーワード

森林

里山

環境教育・普及啓発



集合写真



樹種樹高などの調査活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

なごやの生き物調査の会

夜の東山の森で虫たちを灯火採集（14年間）

活動期間 2006年～

活動場所 名古屋市

web -

なごや東山の森は東山公園と平和公園からなる約400haの森です。2006年から名古屋市内5か所（後に6か所）で毎年、緑地の昆虫の灯火採集による同時多点調査を始めました。2009年から調査地を東山の森に限定して市民参加調査を続けています。調査は東山の森の2地点で灯火採集された昆虫の種類や数からわかる環境の違いの経年変化を追います。昆虫の種の同定には専門的な知識等を要することから、毎年講師を招いて調査スタッフの専門性を高め、森に棲む昆虫を通して人も自然の一員であることを忘れず、自然を活かしたまちづくりを提案したいと考えています。

市民参加の事前学習会、灯火採集、標本づくり及び報告会からなる年4回の講座を行うとともに、調査スタッフによる標本づくりや市民同定会の開催、年ごとの標本展示をしています。希少種の記録や外来種の出現など、採集される種の変化が明らかになっています。2015年には灯火採集9年間のまとめを行い、残されている水辺環境の維持充実の必要性などの提案をしました。

取組キーワード

森林

里山

公園

環境教育・普及啓発



市民同定会



灯火採集ついて説明

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 なごや東山の森づくりの会

人と自然の生命（いのち）輝く「なごや東山の森づくり」（17年）

活動期間 2006年～

活動場所 名古屋市

web <http://higashiyama-mori.sakura.ne.jp>

名古屋市の東山の森は、大半が樹林地で水辺や湿地も点在し、多様な動植物が生息しています。この森を次世代に受け継いでいこうと「なごや東山の森づくり基本構想」（2005年策定）に基づく協働組織「なごや東山の森づくりの会」が2006年に設立され、2015年4月に特定非営利活動法人となりました。

①里山を保全・再生する、生きものの多様性を高める、②自然とのふれあいを増やす、活動拠点をつくり情報を広く発信する、③生活に活かす・学習に活かすことで自然を活かしたまちづくりを提案し、持続可能な共生社会を目指します。具体的には雑木林や竹林、湿地の手入れを行うことにより多様な動植物が生息できるように整備しています。また、森の植生、水質等の観察と調査を行うとともに、森づくりのスキルアップと仲間づくりを目的とした講座や次世代を担う子どもたちが森と親しみ、森づくりを学ぶプログラム、自然との触れ合い体験を行っています。さらに、広報紙「東山の森だより」を発行したり、環境デーなごや等地域イベントなどで森づくり活動を紹介し、仲間を増やす交流活動を行い、年間4,000人以上が参加しています。

取組キーワード

森林

里山

湿地

公園

農地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働

その他



森で汗をかく・森で学ぶ・森で遊ぶ



水辺保全ウシカガエル除去 土壌動物調査

西沢川森づくりの会

西沢川里山保存プロジェクト

活動期間 2017年～

活動場所 東海自然歩道（新城市豊岡）等

web -

当会では、地元周辺で面積の80%以上を占めるスギ・ヒノキ人工林と山主及び地域と森林の関係が切れ始めている状況を憂慮し、子どもの頃に楽しんだ里山を再生し、地元住民、田舎を訪れる人々の心安らぐ生活空間の一部を保存すべく活動を開始しました。

未整備で疲弊した森林環境を整備し下層植生を育てることで、水系上流の保水能力や防災力の向上、野鳥の飛来による自然萌芽、人の安全の確保、里山に親しむ環境整備、間伐材の薪利用を進めています。また、間伐により採光を取り戻し、森林に入る人の安全確保のための道沿いの危険な木々を取り除いています。林道沿いの森林を間伐し、木漏れ日が入り、木々の隙間から青空を眺められる環境へ変化しました。道沿いの枯れ木、倒木の恐れのある大径木の伐採を続けています。雑木を伐採して光を大量にいれ、下層植生の今後の推移を期待できるようになり、小鳥の飛来による鳴き声も増加してきました。今後はさらに間伐を進め、ファミリーで自然を楽しめる場を提供します。

取組キーワード

森林

里山

河川

環境教育・普及啓発

地域貢献



下げ荷技術研修会集合



ロープ、機材の設置作業

西三河野鳥の会

西尾いきものふれあいの里における探鳥会の実施

活動期間 2013年～

活動場所 西尾いきものふれあいの里（西尾市家武町）等

web -

当会は、野鳥に関する知識を深め愛護思想の普及に努めることを目的に1973年に設立されました。それ以来、探鳥会や例会の開催、機関紙の発行などの活動を行っています。

2013年4月からは、一般の方にも身近な自然に触れながら気軽に参加できる探鳥会に取り組んでいます。毎月第一土曜日に活動を行い、西尾いきものふれあいの里を起点に周辺の農耕地、須美川、小草池から万燈山へ続く散策路などの様々な環境を含むコースを歩きながら観察しています。一般の方には、探鳥会担当者などが望遠鏡を用いて、野鳥の姿や様子を実際に見てもらいながら興味、関心を持ってもらえるような説明を行うことを心掛けています。毎月の観察記録は、当会が毎月発行する機関紙に掲載され、西三河各地の公立図書館をはじめ県内の関係団体にも寄贈し、一般の方にも閲覧してもらえるよう公開しています。今後も、企業や学校、地域の団体などを対象に野鳥のことを知ってもらえる活動を継続していきます。

取組キーワード

里山

環境教育・普及啓発

その他：地域の野鳥観察記録を蓄積し残す



探鳥風景



観察種、数の確認（鳥合わせ）

日本スパルティナ防除ネットワーク

特定外来生物 スパルティナ属の国内根絶を目指す活動

活動期間 2011年～

活動場所 梅田川（豊橋市）等

web <https://jpnet-prev-spartina.jimdofree.com/>

スパルティナ属の植物は、特定外来生物に指定されている大型のイネ科植物で、河口付近の干潟に侵入し、希少種を駆逐したり、干潟を草原化・陸地化することにより、干潟の生態系そのものを破壊してしまうおそれがあります。当会では、スパルティナ属の危険性の認知度を向上させ、分布拡大を防止し、国内から根絶するとともに、新たな侵入を防止することを目的に2011年から活動しています。

豊橋市内に約10,200㎡（2011年）あったスパルティナ属の分布面積は、地域市民、研究機関、行政、市民団体等と協働した駆除活動により、2017年には、ほぼゼロとなり、地元の高中生と最終防除を実施しました。また、2018年に碧南市でもスパルティナ属の侵入が確認されましたが、駆除活動を行うことにより、2019年には管理可能な状態になりました。

こうした成果を、各機関紙等への投稿や市民を対象とした勉強会により発信し、国内外のスパルティナ属の防除活動を実施する各主体のネットワークを構築しており、今後も継続的にモニタリング、普及啓発を行っていきます。

取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



干潟の自然観察会



最終防除イベント

一般社団法人 日本土壌肥料学会中部支部

土の不思議に迫る！ 「土の中の生き物探しを始めとした土壌観察と実験」

活動期間 2006年～

活動場所 豊田市自然観察の森（豊田市東山町）

web <http://jssspn.jp/edu/>

市民に土壌の重要性を啓発するための活動の一環として、2005年に親子を対象に土壌観察会を実施したことを契機に、学会中部支部が独自の取組として、「土壌観察会 ～土の不思議に迫る！～」を毎年継続して開催してきました。

主に小中学生を対象とした活動では、土の中の生きもの大切さや土の不思議さを体感してもらい、高校生以上を対象とした活動では、「土が地球上の多様な生命を維持する要であること」を理解してもらっています。その中で、土の大切さをテーマとし、農業・植物・環境とのつながりを伝える独自のプログラムを工夫しながら活動を継続してきました。森の中での土壌や植生の観察、実験用の土壌の採取、屋内での土にまつわるクイズや話、土の中の生きものの観察や名前調べ、土壌呼吸などの簡単な実験・工作を通じて、一日中、土と触れ合うことができます。今後とも活動を継続し、あわせて日本土壌肥料学会土壌教育委員会ウェブサイトに取り組内容を掲載するなど、普及啓発活動に努めていきます。

取組キーワード

森林

里山

農地

環境教育・普及啓発

地域貢献



生きもの探し



土の採取

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

一般社団法人 日本ボーイスカウト愛知連盟

体験で学ぶ森と緑づくり

活動期間 2015年～

活動場所 開催年によって変わります

web www.scout.aichi.jp

ボーイスカウトでは、日頃から森と緑づくりにつながる取組を意識して活動しています。また、社会貢献事業として、ボーイスカウト以外の子どもたちに対しても、身近な森での体験学習や環境学習の機会を提供しています。

2015年からは、小学校低学年の児童を募集し、都市公園等において「体験で学ぶ森と緑づくり」事業を実施しています。森で遊ぼう（木材を使った仮設の橋を渡ろう。）、森で探そう（森の中で自然のものを見つけよう（ネイチャービンゴ））、森で作ろう（木材を使ったキーホルダーを作ろう。）、森で働こう（のこぎりで丸太を切ってみよう。）という、4か所のコーナーを設置し、児童が保護者と一緒になって各コーナーを回りながら、環境学習を体験してもらいました。2015年の愛・地球博記念公園を皮切りに、岡崎市、春日井市、常滑市などの県内において毎年活動をしており、年間約850人が参加しています。今後も継続的に活動を行い、自然環境保護を担う若い人材を育成し、社会貢献を行っていきます。

取組キーワード

森林

公園

環境教育・普及啓発



のこぎりで丸太（間伐材）を切る体験



木材を使った仮設の橋を渡る体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

日本野鳥の会 愛知県支部

コアジサシの営巣地創出の活動

活動期間 2017年～

活動場所 知多市 等

web <http://wbsj-aichi.org/> 他

コアジサシは、日本に4月頃に繁殖に訪れる鳥類ですが、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられ、絶滅が危惧されています。近年、海岸や河川の営巣適地が開発行為により減少し、営巣場所には建設予定地の裸地が利用される傾向にありました。しかし、この裸地でさえ建設工事が終わればなくなってしまう。そこで、2017年から企業の協力を得て、空き地にコアジサシのデコイ（おとりに使う鳥の模型）を置き、習性（集団性）を利用して代替地となる恒久的な営巣地を創出し、繁殖をサポートする活動を行っています。

コアジサシを呼び込むデコイは、大量生産できるようにデコイ作成用の金型を作成し、環境にやさしいバイオプラスチックで作成しています。また、デコイの色塗りイベントを開催し、参加者へコアジサシを通じた自然保護に関心を持ってもらいました。

デコイは、県内3か所で約300体を設置しました。2019年は、コロニー形成には至りませんでした。1か所でペアの飛来が確認されました。引き続き、コアジサシの繁殖サポートと啓発活動を行っていきます。

取組キーワード

海岸

野生生物の保護

生物多様性に配慮した製品

環境教育・普及啓発

その他：営巣地創出



デコイの色塗り会の様子



色塗り後のデコイ

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

公益財団法人 日本野鳥の会 豊田グループ

サシバのすめる森づくり

活動期間 2004年～ 活動場所 豊田市自然観察の森（豊田市東山町）等 web <http://toyota-shizen.org/information/ranger.html>

豊田市自然観察の森の里山保全計画では「サシバのすめる森づくり」をテーマに、2004年まで繁殖していたと思われるつがいの復活のため、餌資源の力エル類を増やすために休耕田に水を張る事業を開始しました。自然観察の森に関わる様々なセクターの方が、日本野鳥の会と協力し、休耕田に水を張る事業と並行して、サシバの餌資源調査やサシバをテーマとした啓発活動を開催しました。今後は農家とも連携し、直接支払い制度を活用した農地の保全を行いながら、サシバの生息地保全を展開します。

ラムサール条約湿地登録から湿地のワイズユース（賢明な利用）

活動期間 2003年～ 活動場所 豊田市自然観察の森（豊田市東山町）等

世界的にも重要な湿地環境である東海丘陵湧水湿地群の保全・活用に取り組んできました。2018年には日本湿地学会でのシンポジウムを開催し、2019年には湧水湿地研究会の事務局として東海地方の湧水湿地の全体像をとりまとめた調査報告書「東海地方の湧水湿地」を発行しました。今後は報告書の普及版を発行し、研究者向けのデータベースを作成します。

取組キーワード

里山

湿地

農地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



市貝町サシバサミット

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



東海地方の湧水湿地

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

日本ワシタカ研究センター

希少種を含む傷病猛禽類の保護活動

活動期間 1982年～ 活動場所 日本ワシタカ研究センター（尾張旭市旭ヶ丘町） web <http://www.jfcenter.org>

当センターでは、1982年の団体設立当初からワシ、タカなどの猛禽類を対象とした様々な保護活動を実施しており、その一つとして、愛知県などの行政機関からの要請に応じて、傷病猛禽類の収容、治療、保護飼養、野生復帰に向けたリハビリテーション、完治した個体の放鳥を行っています。

傷病により保護される猛禽類には、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサなどの「種の保存法」対象種や環境省のレッドリストに掲載されているサシバやオオタカなどの絶滅危惧種が含まれています。救護した個体を治療して野生復帰させることができれば、生息数の維持に貢献でき、野生復帰した個体がある後子孫を残せば、次世代の種の保全にもつながります。

搬入された傷病鳥は、診断、手術等の治療を行い、リハビリテーション後に、完治した鳥を放鳥します。放鳥後はGPS発信機による行動追跡も一部の個体で実施しています。収容後に死亡した個体は、教育や基礎研究に利用しています。活動内容は、専門誌や国内外で開催される猛禽類保護に関する会議、学会、シンポジウムや市民講座等で発表しています。

取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



翼の骨折治療中のハヤブサ



外傷が完治したオオタカの放鳥

二村山豊かな里山づくりの会（旧称：二村山環境保全推進協議会）

二村山緑地里山保全整備 ～生物でにぎわう里山をめざして～

活動期間 2005年～

活動場所 二村山緑地（豊明市沓掛町）

web <http://kankyo-toyoake.sakura.ne.jp/hutamurayama-top.html>

二村山の雑木林は竹の侵入や常緑樹の繁茂により荒廃していました。当会は、市民と豊明市が協働して二村山緑地の自然を保全・育成することを目指して2005年1月に発足し、同年4月に市と協定を締結して、二村山を多様な生きものが生息できる自然環境に改善するための保全整備活動を始めました。

里山保全活動では、雑木林の保全整備（竹の伐採や常緑樹の間引き、外来種駆除、下草刈りなど）や小湿地の維持保全活動を行っています。また、春の自然観察会や、フジバカマの栽培とアサギマダラ観察会を実施したり、豊明市が開催するグリーンフェスタに豊明二村山自然観察会と共同で出展し、ドングリ工作などを楽しんでいただきながら里山保全整備の大切さをPRしています。ほかにも、豊明エコキッズが二村山で開催する行事への協力、樹名板や巣箱の設置・保守活動を行い、地元小学校の「地域に学び・語り継ぐキャリア教育」推進事業の題材にもなりました。竹の伐採地にヒヨドリバナが復活するなど少しずつ成果もあがっています。今後とも「生物多様性にあふれた里山」を目標に、専門家の助言を生かしつつ、計画的で質の高い保全活動を目指していきます。

取組キーワード

里山

湿地

公園

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



観察会でのカブトムシ幼虫探し



常緑樹の間引き作業

ふるさとの自然を愛するスズサイコの会

新郷瀬川の河川改修工事に伴う半自然草地の保全活動

活動期間 2015年～

活動場所 新郷瀬川（犬山市）

web -

新郷瀬川の堤防には、国の準絶滅危惧種であるスズサイコ等が生育する良好な半自然草地が見られます。当会では1995年より新郷瀬川の植物や鳥類の観察・記録を続けています。また2015年からは、新郷瀬川の河川改修工事に合わせて、当会をはじめとする地域活動団体・関係行政・学識経験者・専門業者と連携し、持続的に堤防草地の維持・保全ができる体制づくりを構築しています。

河川改修工事範囲に生育するスズサイコ等1,190株を、工事の影響を受けない堤防草地に移植しました。移植後はモニタリングを行い2020年3月時点では、約4割の生存が確認できています。また移植株の枯損に備えて、現地で種子を採取し、ポット苗の育成を行っています。育てたポット苗の一部は、工事によって作られた堤防法面に植栽を行い、約6割の苗の生存が確認されています。河川改修工事により豊かな草地が衰退・消失するのではなく、工事の実施と共に草地環境の維持・保全を実施し、河川改修工事が終わった後も昔からあるふるさとの自然、風景、宝物を子や孫に残せるよう継続して活動していきます。

取組キーワード

里山

河川

野生生物の保護

地域貢献

協働



スズサイコ等の移植を行った移植会



種子から育てたポット苗の植栽会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

特定非営利活動法人 みよしの自然環境を守る会

里地・里山の生態系保全と自然環境意識を高める市民体験活動

活動期間 2014年～

活動場所 みよし市黒笹町 等

web <https://npo-miyoshino-shizen.jimdofree.com/>

みよし市では都市化が進み、多くの緑地が失われてきました。黒笹町付近の自然環境を守るべく、市の掲げる「環境共生都市みよし」にふさわしく、生物多様性に富んだ町づくりに貢献するために会を結成しました。当初の会員は30名でしたが、現在では90名近くの会員がいます。

里山の間伐や湿地の整備活動を行い、生態系の保全を図りました。耕作放棄水田を活用して田んぼビオトープを造成するとともに、冬水田んぼで減農薬等の稲作を行い、好ましい水辺環境の創出に努めています。また、親子や大学生などにも参加してもらい、里山保全活動や自然観察会、稲作体験活動を行ってきました。ほかにも、小学校の学習支援も兼ね、区域一帯の生きもの調査を継続して行っています。結果として希少種の保護にもつながっており、ミカワツツジが活生し、ヘイケボタルも自然発生しました。市民の環境意識も高まっており、今後も活動を継続し、あわせてみよしの生きものを写真展示したイベント開催なども開催していきます。

取組キーワード

里山

湿地

農地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



稲刈り体験活動



水中生物観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

守山リス研究会

名古屋市に生息する野生のニホンリス・ムササビ等の調査保全活動

活動期間 1990年～

活動場所 名古屋市

web <http://risuken.sakura.ne.jp/>

1990年から名古屋市東谷山を中心に生息する野生のリス等の哺乳動物とその生息地の調査・保全を目指しています。野生動物が持続的に自活できるようにすること、そのための環境教育として「体験学習」、「発見学習」、「課題解決学習」の座学・フィールド活動を公開実施するとともに、同じ東谷山で活動するNPO法人えこども・尾張野鳥の会とともに地域の自然、歴史、文化を含む東谷山周辺の保全を住民、学校、農家、関係団体と協同で実施しています。

具体的な取組として、定期調査は、毎週一回湧水計測、給餌残数計測、センサーカメラによる定点調査、林床の日照・温湿度・風速計測、指定樹木の長期胸高直径計測を行い、月一回リス捕獲調査をして個体記録・発信機装着などを行っています。巣や行動をテレメ調査するとともにフィールドの変化を記録したり、エサとなる樹木の調査、植樹を森林公園ゴルフ場他団体とも協力し実施しています。そして、30年間にわたり年間20匹以上の安定的な繁殖を継続してきた成果を2010年のCOP10のフォーラム・ブース展示等や2012年国際リス学会において発表しました。

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



デンドロ計測



リス捕獲計測・保定器

家下川リバーキーパーズ

川遊びイベントの開催、家下川流域での生物の生息環境の保全

活動期間 2009年～

活動場所 家下川（豊田市上郷）等

web -

家下川は流長5キロメートル程度の小河川ですが、豊かな水辺環境を有し、トウカイコガタスジシマドジョウ等の希少生物の生息地となっています。しかし、地域の関心は高くなく、汚れた川という印象を持つ住民が多い状況でした。こうした中、流域の水路での水田魚道の設置活動を契機に、川遊びが好きな地区在住者が中心となり「実体験から地域の川の面白さを伝える」「様々な立場の人と問題を共有しながら生きものの生息環境を保全する」の2点を活動のテーマとして、2009年に本会を立ち上げました。

市民団体キッズプランナーとの共催により、親子を対象とした川遊びイベントとして、2009年から家下川たんけん隊活動、矢作川たんけん隊活動を実施しています。また、魚の棲む水路を作ろう計画を実施し、ビオトープづくりや生きもの調査、ヨシ刈り等の河川環境整備作業を行っています。今後も多くの地域住民や関係団体、矢作川流域の人々と協働しながら取組を行い、地域の河川の魅力を発信していきます。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発



水路での生息環境造成活動



整備場所でのかいぼり調査

矢田・庄内川をきれいにする会

ウナギ登リアシスト ～日本初、既設魚道に適應したウナギ専用魚道の設置の試み～

活動期間 2013年～

活動場所 名古屋市

web <http://www.yadashounai.org/>

ニホンウナギは、日本人にとって貴重な食料資源ですが、漁獲量は近年減少しており、環境省は2013年に、国際自然保護連合は2014年に絶滅危惧IB類に指定しました。そして、水産資源の保護、生物多様性保全の観点から生息地の連続性のある再生が求められているため、河川に設置されている魚道にニホンウナギの遡上を手助けする器具（イールラダー：ウナギ専用魚道）を取り付ける日本で初めての試みを、庄内川、矢田川で実施しています。

イールラダーは、魚道の形状に柔軟に適應するブラシ型のもの、海苔の養殖に用いる「海苔網」を活用したもの、水草の「ヤナギモ」を模したロープを取り付けたものの3種類を各魚道（階段式魚道や棚田式魚道など）の構造に合わせて設置し、効果の検証を行いました。また、イールラダーを設置する際、一般市民参加型イベント「ウナギを呼び戻そう」を開催するとともに、魚道管理者、漁業関係者と現地視察「庄内川水系・魚道視察団2020」を行い、本取組についての情報共有や意見交換を行いました。なお、イールラダーの効果を検証する調査では、実際にニホンウナギの遡上を確認することができました。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

生物多様性に配慮した製品

地域貢献

協働



ウナギのぼりアシスト設置活動



遡上したウナギやエビなどの生物

矢作川水族館

川イベント開催・まちなかでの移動水族館

活動期間 2007年～

活動場所 矢作川とその支流（豊田市）等

web <https://yahagigawa-suizokukan.jimdofree.com/>

当館は、2007年の設立以来、川遊びのイベント等に水槽を展示したり、軽トラックを使用した移動水族館を出展してきました。2015年に豊田市中心部のまちなか広場に移動水族館を出展したことを契機に、川に関心の無いファミリーに「矢作川の実力と魅力」を知ってもらう必要性を認識し、矢作川感謝祭、まちなかおいでん、ラグビーワールドカップ関連イベントなど、様々なイベントに移動水族館を出展するようになりました。

この活動を通して、川に関心の無いファミリー向けに川の魅力や矢作川に多くの生きものがいることを伝えてきました。また、川遊びや魚捕りの講座・イベント、川を楽しく学ぶワークショップにより、川にいる多くの生きもの（川の実力）や、川の楽しさ（川の魅力）を知ってもらい、河川環境を守る意識を高めることを啓発してきました。

今後も活動を通じて、川に関心をもってもらうことや川の楽しさを伝えるだけでなく、山、川、海がつながっている流域意識を高めることで、自然環境の重要性を多くの人々に伝えていきます。

取組キーワード

河川

ふれあい活動の整備

環境教育・普及啓発

協働



支流で開催した川遊び大会



まちなか広場での移動水族館

山法師の会

生物多様性と森の生産物のリサイクルに配慮した地域福祉型花いっぱい里山整備

活動期間 2000年～

活動場所 大興寺社叢林（知多市大興寺）

web -

大興寺社叢林は、長年整備されず放置され、竹の繁殖等で荒れ放題となっていました。そこで、自分達で里山を守ろうと有志で、2000年にボランティアグループ「山法師の会」を設立しました。会の名称はその時に植樹した（ヤマボウシ）にちなみます。

竹の放置林などを整備し、植栽木を育成して観賞性の高い里山や、地域住民のいこいの森にするための活動を行っています。また、生物多様性の観点から、在来種の天然実生の育成を増やしています。散策道や休憩施設を整備したり、在来種ヤブツバキの天然実生を数百本ほど育て、低木層には天然実生で多数の鑑賞価値の高い植物を育成しました。住民が森の中を回遊できるようになり、鑑賞会を行うなど地域住民の交流の場を提供しています。今後も竹の間伐材を利用した竹細工や竹灯籠づくりを行うとともに、地元小学校の児童を対象に、「総合的な学習の時間」で竹灯籠づくりを指導していきます。

取組キーワード

里山

環境教育・普及啓発

地域貢献



過密林の間伐作業



竹間伐材で灯籠作り

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

渡し場かもめ会

ふるさとの美しい海をふたたび

活動期間 2012年～

活動場所 高浜市芳川町

web -

江戸時代から対岸の東浦町の藤江とを結ぶ渡し舟がありましたが、1956年の衣浦大橋の完成とともに廃止されました。そこで、地元の有志により渡し場の文化の継承と付近の環境保全並びに福祉を目的として渡し場かもめ会が設立されました。

主な活動として、海の環境保全と浄化、地域文化の継承、福祉への貢献を掲げています。環境整備事業では、毎月第一日曜日に芳川町地内の海岸線の約1.5kmの清掃を行っています。また、環境啓発活動では、小学校の児童を対象に、海の浄化をテーマとした標語を募集し優秀作品を表彰したり、市内の小学校児童を対象に「高浜の干潟の生きもの調査」、「衣浦の海の世界教室」を実施しています。地域文化の継承と福祉活動では、かつての渡し場を地域の文化遺産として後世に伝えるため、往時を偲び「花嫁行列・嫁入り舟」をまつりで再現する活動も行っています。環境活動を通じて、子どもたちの環境への問題意識が高まり、地域住民の海に対する愛着を深めることができました。今後も継続して活動を行います。

取組キーワード

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献

その他：地域の歴史文化（藤江渡し跡）の継承



海岸清掃



高浜の干潟の生きもの調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

Longhill Net

黒メダカを守ろう

活動期間 2013年～

活動場所 ビオトープながおか（稲沢市祖父江町）

web <http://longhillnet.web.fc2.com/kuromedaka.pdf>

「ビオトープながおか」で、「住民目線」で活動する市民活動団体 Longhill Net を2009年に立ち上げました。木曾川用水を入れた池で、黒メダカを見つけ、ビオトープの管理をしながら、食物連鎖に影響を及ぼしている人優先社会から生きもの優先社会への枠組みを変えていく重要性についての発信を考えています。また、環境学習をビオトープ観察から始めて、メダカ里親事業へと広がり、自然環境を守る意識が地域の全ての年代層に芽生え、生物多様性保全に取り組む活動の礎になればと考えています。

環境学習の指導者を育成するため会員が、ビオトープ管理士やこども環境管理士の資格を取得しています。毎年8月の第1土曜日に「ビオトープながおか生きものしらべ」を開催しています。2018年に愛知県環境局自然環境課の生物多様性マッチングシートに応募し、企業から注水管理やイベントのボランティア支援を2019年から受けています。今後も企業やボランティア団体とも連携しながら活動を続けていきます。

取組キーワード

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



参加者・関係者一同の集合写真



上池での生きもの調査場面



企 業

愛知製鋼株式会社

つなぐ・つながる・大きく広がる 愛知製鋼の生物多様性保全活動

活動期間 2006年～ 活動場所 中新田緑地（東海市東海町）等

web <https://www.aichi-steel.co.jp>



ポイント

企業活動と整備したビオトープを活用した環境教育などの社会貢献活動が両立されています。自社内の活動だけでなく、植樹やビオトープ造成などを通じて、知多半島や愛知県、企業連合体、学生や市民団体などあらゆる団体とも協働し、中心的な役割を果たしています。

背景・経緯

2005年の愛知万博開催による環境保護への機運向上を受け、2006年からNPO法人などと連携し、森林整備活動を開始しました。また、2010年のCOP10開催を受け、2011年に知多半島生態系ネットワーク協議会に入会し、その取組の一環である「企業の森 命をつなぐ PROJECT」の活動にも参画しました。

2013年には自社緑地（中新田緑地）の整備活動を開始し、その過程では各種団体と連携した取組を行ってきました。2015年より「オールトヨタ自然共生ワーキンググループ～オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト～」に参画し、2018年には「美浜町竹林整備事業化協議会（モリビトの会）」、2019年には「東浦自然環境学習の森 保全・育成の会」との連携活動も開始し、自社活動だけでなく地域やグループ会社などと一体となって取組を行っています。

目的

当社は生物多様性の重要性を認識した上で、地域・社会の持続的な発展を目指し、企業活動や社会貢献活動と同時に、生物多様性の保全活動に積極的に取り組んでいます。また、活動に際しては、自社内の活動のみではなく、地域の方々や行政・NPO・企業などとの連携を図り、オール知多半島・オール愛知・オールジャパン、そして世界へつながる活動展開を目的に活動しています。

取組内容

2005年に東海市東海町の当地22,000㎡を取得し、2012年から知多半島を代表する自然生態圏を目指し、生物多様性の整備を開始しました。活動としては、毎年の植樹、「水辺のビオトープ」、「いきものマウンド」の整備などです。植樹は「どんぐりの樹」などを中心に、多様な種類の樹木2,000本を従業員、家族、地域の方々と植えました。

定例イベントの開催では、従業員・家族向けに自然環境について学べるイベントを毎年開催しています。そのテーマとして、①生物多様性についての学習会・生物観察会、②植樹・植樹した樹木の育成（除草など）、③苗木づくり（地域種のどんぐりを拾



東浦自然環境学習の森との連携

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

い苗木づくり)、④在来種のメダカの放流、⑤自然に親しむ催事として、春の七草の苗植え体験や小麦植え体験(冬の水田活用)、ネイチャークラフト、⑥他社の先進事例見学会などを行っています。

社会貢献事業として、業務扱いで行っていた会社近隣の道路の清掃活動に、中新田緑地の整備活動を追加し、自然に興味の薄いメンバーや、「中新田緑地」を訪れたことのない多くのメンバーに参加してもらい、生物多様性保全へのキッカケ作りの場としています。

地域向けイベントとして、2012年から年1回ほど、企業緑地の見学会や環境学習イベントを開催し、当社の中新田緑地を開放して地域の子供達と家族が学べる場を提供しています。また、学生との連携活動では、「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」と連携し、知多半島地域の緑地での整備活動を毎年計画的に行っています。その過程では、連携して年間活動計画の作成を行い、年に4回の生物モニタリング調査なども行っています。

当社の連携活動は、さまざまな団体と協力して行っています。愛知製鋼(株)の自然共生ボランティア団体「もりもりサポーターズ」、絶滅危惧種の「コアジサシ」の営巣地確保に関する連携活動として「日本野鳥の会愛知県支部」、同じ知多グリーンベルト内の企業同士で希少種の保全について協力しあうことで、知多の緑地をともに保全しています。

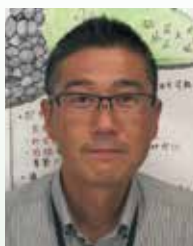


中新田緑地自然共生イベント

今後の展望

今後も、知多半島でさらなる連携をすすめ、自然共生活動を知多半島からオール愛知、そして日本・世界につながる活動へと推進していきます。また、オールトヨタでの連携活動も展開していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



名桐悟さん

愛知製鋼株式会社

愛知製鋼株式会社では「つなぐ・つながる・大きく広がる」を合言葉に、これまで多くの団体様と連携させて頂き、生物多様性の保全活動を行って参りました。

これからも自社緑地の充実のみならず、従業員・家族をはじめ、地域の方々や各種団体との連携を図り、オール知多半島・オール愛知・オールジャパン、そして世界へつながる自然共生活動の展開を目指して参ります。

株式会社加藤建設

エコミーティング ～建設業から見た生物多様性保全～

活動期間 2009年～

活動場所 県内はじめ、全国の工事現場

web <http://www.kato-kensetu.co.jp/eco.html>



県内はじめ、全国の工事現場



ポイント

環境保全を会社の責務として捉え、ビオトープ管理士の資格取得を会社全体で推進しています。
工事を進める上で、社員全体によるエコミーティングを通じて、環境に配慮した取組に力を入れています。

背景・経緯

当社は、道路、河川、公園等の公共工事を中心に、地域に根差した社会基盤整備事業を営んでいます。建設業というと、生物多様性保全よりむしろ破壊の存在と思われがちです。しかし、工事現場という自然が一番近いところで仕事をしている建設業だからこそできることもあります。また、豊かな自然や生きものを守りながら、工事をを行い、「ものをつくる責任」があると考えています。そこで、建設業の負のイメージの払拭と自然との共生社会の実現を目指し『エコミーティング』活動を2009年から開始しました。

目的

工事現場において自然環境への配慮を行い、未来に豊かな自然と暮らしやすい街を提供し、人と生きものが笑顔で暮らせる生物多様性に富んだ環境の創出を目的としています。

取組内容

エコミーティングとは、①自然環境配慮、②住民環境配慮、③コミュニティづくりの3つのポイントで、受注した工事現場においてどのような配慮・工夫ができるかを工事担当者だけでなく営業、事務、技術社員も含めた多様な視点で、検討・実施するものです。特に注力しているのが①自然環境配慮です。エコミーティング活動をするにあたり、社内でビオトープ管理士の資格取得を推進し、専門知識の習得と現場における対応力の強化を行いました。2020年2月現在において、全社員の約半数にあたる172名がこの資格を保有し、活躍しています。



エコミーティング（現場視察）

活動内容としては、工事現場の生態調査（水生生物・野鳥・植物・他）、環境掲示板を用いた啓発、在来種の保護及び外来種の駆除、設計変更による生物多様性への配慮（自然再生、希少種保護）などを行っており、具体的な保全活動事例は次のとおりです。

実施例1：水路の生物保護では、農業用水路改修工事において、絶滅危惧種のトンガリササノハガイなど、多くの水生生物が見つかったため、工事着手前に捕獲保護を行い工事影響外の同水系河川に放流先を選定し、選定場所の水質が生きものに適しているか1週間試験飼育を行った後に放流を行いました。

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

実施例 2：ヨシ原の復元と希少種対策では、河川の橋脚補強工事において、現場に残置された玉石によりヨシ原の生育エリアが分断されていたため、発注者への提案と設計変更により玉石を撤去しました。その結果、ヨシ原の連続性が確保されたと同時に、絶滅危惧種であるタコノアシの繁茂エリアも増大しました。さらに、撤去した玉石を護岸として活用することで、廃棄物発生防止と多孔質な護岸の形成による生物多様性の向上にもつながりました。



水路の生物保護

実施例 3：コアジサシ営巣地保護とモニタリングでは、宅地造成工事において、現場内に絶滅危惧種のコアジサシが確認され、数十単位のペアが営巣していることがわかりました。工事を継続すると営巣環境に影響を与えることから、工程調整を行うとともに保護エリアを設け、巣立ちまでをタイムラプスカメラで 24 時間モニタリングすることで無事に見守る事ができました。

最近では、他社（元請業者・下請業者）とともに活動する機会も増え、活動の広がりを実感しています。近年では、SDGs の機運も高まり、自然の大切さを一般の方に伝える重要性を意識しています。そこで、自然観察会の実施（なごや環境大学共育講座：夏期・冬期）や環境イベント（環境デーなごや、あいち・なごや生物多様性 EXPO）への出展の推進、さらには生物多様性への取組推進を目的とした研修での講師依頼など、未来を見据えた生物多様性の啓発活動や担い手育成に貢献しています。

今後の展望

『エコミーティング』を建設業界のスタンダードにすることを目標に、同業他社や関係機関へのさらなる普及啓発を推進し、今ある豊かな自然を後世にも残す担い手づくりに、より一層注力していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



久坂耕さん

株式会社加藤建設

弊社では COP10 とほぼ同時期の 2009 年より、建設業における環境活動『エコミーティング』を開始し、生物多様性の保全に注力して参りました。次のステップである 2050 年に向け、“生物多様性の保全”と人々の命を守る“インフラ整備”の両立した『自然と共生する世界』を目指し、今後も環境活動の実践・啓発を続けて参ります。

株式会社三五

森と水辺の生態系保全

～自然と共生する企業を目指す株式会社三五～

活動期間 2006年～

活動場所 名古屋市 等

web <https://sango.jp/csr.html>



35万本の植樹を目指し、愛知県内だけでなく世界中で森づくりを展開し、近隣企業や地域にもその活動の輪を広げています。

ポイント 植樹された場所は生態系の回復が図られ、地域の環境学習や希少種の保全に活用されています。

背景・経緯

企業の基本理念に「環境づくり」を掲げ、35万本の植樹を目指した森づくりを展開しており、国内外の工場で植樹祭を開催し、従業員とその家族で苗木を植栽しています。特に自然共生の拠点となっているエコサンゴ ECO35は、かつての工場跡地であり、見つかった土壤汚染を2年かけて浄化、その後2年間のモニタリングを経て、環境に少しでもいいことをしたいという考えから、2006年から植樹活動を始めました。名古屋の真ん中でありながら、森と水辺、田んぼや水路などの里山環境を復元し、多くの生物が生息する都会の中のアオアシスとなっています。

目的

植樹活動やビオトープ保全、自然共生活動によって、森と水辺の生態系を保全することを目的としています。

取組内容

三五グループの植樹拠点は、国内11か所、海外8か所でこれまでの植樹数は2020年2月末までの実績で、28.8万本となっています。

三五では、自社の植樹と並行して、地域や他企業に植樹活動を広めています。例えば、東日本大震災の津波被災地に森の防潮堤をつくるため、東北で採取された木の種子を頂き、三五の各工場ですべて2年程度苗木に育てています。毎年、宮城県岩沼市の海岸にて行われる千年希望の丘植樹祭に提供し、2019年までに延べ2万本の苗木を送りました。また、各工場の育苗担当者が実際に現地に赴き植樹活動にも参加しています。



ECO35の森とビオトープ

愛知県内では、みよし市と地元ボランティア団体と協働活動として、同市の公園整備の一環で植樹祭を行うための企画と植樹祭にむけての指導を行い、2019年2月に植樹祭を実施しました。未来に本物の森を残したいという思いから、子ども中心の植樹祭としました。

さらに、周囲に森づくりを行った名古屋市のECO35とみよし市の八和田山工場の調整池では、ビオトープを創出しています。ECO35ではヘイケボタルを指標種として自生を目指した活動をしています。八和田

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

山工場のビオトープでは東海丘陵要素植物のシラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケ等希少種を保全しています。

今後の展望

自然と共生する企業を目指して国内外の工場2か所でビオトープ創出を計画中です。



社員とみよし市民の森づくり協働作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

グッドプラクティス

特定外来生物オオキンケイギクを駆除して在来種の堤防風景に！

活動期間 2016年～

三五三好工場裏の砂後川堤防は、特定外来生物のオオキンケイギクで覆われます。一方で、チガヤ、ツリガネニンジン、ワレモコウ等の在来植物が確認できます。そこで、オオキンケイギクの分布拡大を防ぎ、在来種の河川堤防を復元するため、社員や地元自治会 250 名ほどで毎年オオキンケイギクを除去しています。

はじめは、みよし市役所と三五で駆除活動を実施していましたが、その後、東郷町役場と東郷町の企業にも賛同いただき、活動が広がっています。

ECO35 田んぼの活動と環境学習会

活動期間 2010年～

『見る、触れる、体感する』をメインに、子どもたちにもものづくりのすばらしさや自然共生の重要性を楽しく知ってもらうイベントを実施しています。

名古屋の真ん中で里山環境を復元した ECO35 での田植え、稲刈りの体験やミニビオトープを作り生態系を観察する環境学習会を通して、自然環境を五感で体験してもらっています。

取組キーワード

外来種対策

地域貢献

協働



オオキンケイギク駆除の様子

里山

環境教育・普及啓発

地域貢献



名古屋市内の小学生による田植え体験

ベストプラクティス
受賞団体コメント



高野薫さん

株式会社三五

この度はベストプラクティスに選んでいただき誠に嬉しく思います。当社は、本社である名古屋市熱田区の ECO35 で 2006 年から森づくりを始め、その後ビオトープや田んぼを整備しました。今では都会の真ん中に自然豊かな生物のオアシスができています。これからも、より良い地球を未来に残していくために、国内外の工場でも森づくりやビオトープ整備といった自然共生活動に邁進していきます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイト

企業緑地の再生と緑地を活用した貢献活動

活動期間 2008年～

活動場所 ソニーの森（額田郡幸田町）

web <http://www.sony-global-mo.co.jp/>



ポイント

ソニーの森を通じて、在来種の苗木づくりとそれを活用した植樹活動など様々な社会貢献が行われています。活動期間も長く継続しており、地域の他の企業や地元の保育園、小学校とも協力して活動しています。ほかにも、在来種の苗木づくりなど、目標期間を設定し、計画的にテーマを持って活動を行っています。

背景・経緯

山を平地にするため山の70%削り工場棟や駐車場が建設されました。赤土になっているところに、社員が樹木を植え始めたことが始まりで、社員の憩いの場にもなる「緑豊かな公園工場」の活動が始まりました。隣接する森を「ソニーの森」と名付け、遊歩道や展望台を設置しました。その後、在来種を意識した植樹で緑の質を上げ、創出した緑を利用した社会貢献活動や、緑を創出する仲間を増やす活動へとステップアップしています。

目的

緑地が自然のままに残り、生態系が変化しないように維持する必要があります。「フクロウの棲む森づくり」で森の生態系を維持し、「在来種の苗木づくり」で昔からある地元の森を維持し、「環境学習の場の提供」で社員とその家族、近隣の子どもたちが緑地の重要性を知り、協力して元気な森を維持できる活動を行っています。

取組内容

ソニーの森を中心に、様々な取組を行っています。フクロウの棲む森づくり活動では、2008年から活動を開始しました。毎月、社員のボランティアで間伐を行い、フクロウの餌になる小動物の棲み家を作ったり、フクロウの巣箱を作って木に掛けました。2016年にフクロウが誕生し、その後毎年誕生しています。

社員を中心とした活動が実を結んだことや、誕生に至るまでに得た知識や経験は、情報発信をすることで他の地域の環境活動にも活かされると考えています。活動に携わった社員たちは、フクロウだけでなく周辺環境整備の必要性も認識でき、活動を通じて生態系や生物多様性についても学習することができました。在来種の苗木づくり活動では、2011年から在来種の苗木づくりの活動を開始しました。3年計画で、1年目はドングリを拾って発芽させ、2年目で近隣の子どもたちに苗木を渡し、子どもたちが1年間かけて育てるという里親制度を行いました。3年目で、子どもたちから苗木を返してもらい、ソニーの森や近隣の学



ソニーの森の説明

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

校、公園、里山に植樹する活動を行いました。初回の3年計画では、コナラやアベマキの苗木づくりを行い、2回目の3年計画ではヤマザクラを加えて苗木づくりを行いました。単に苗木づくりや植林活動を行うだけでなく、計画性と過程を重視し、地元子どもたちが愛着を持って苗木を育て、植林後も愛着を持ってもらい、継続的な活動により里山づくりにも貢献することができます。環境学習の受け入れでは、ソニーの森に様々な団体の受け入れを行っています。

2015年・2016年に「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の企業活動研修を受け入れ、学生から環境整備に関する提案を受けて、改善活動を行いました。ほかにも、幸田町立坂崎小学校の総合学習にも活用してもらうために、2019年度には4年生60名を受け入れ、ソニーの森についての勉強や、在来種の苗木づくりの体験、野鳥の観察会などを行いました。



フクロウの巣箱作り

今後の展望

今後も現在の活動を継続し、環境学習の受け入れでは坂崎小学校のほかにも様々な団体の受け入れを行っています。また、在来種の苗木づくり活動は、3年周期から毎年の活動に変更し、苗木づくりの頻度を増やすことで、活動のさらなる普及促進と植林を通じた里山づくりに貢献していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



加藤雅親さん

ソニーグローバルマニュファクチャリング & オペレーションズ(株)幸田サイト

四季を感じる緑地と白い工場の調和を考えた整備を行っています。隣接するソニーの森の整備活動は社員のボランティアで行っており、社員の作ったフクロウの巣箱を利用して5年連続でフクロウの赤ちゃんが巣立っています。フクロウの誕生を確認した時は整備している社員の士気が上がり、「来年も誕生したらいいね」とがんばっています。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

トヨタ車体株式会社

ふれ愛パークを拠点とした産官学民の連携による地域に根付く生物多様性保全活動

活動期間 2011年～

活動場所 トヨタ車体 刈谷 ふれ愛パーク（刈谷市東境町）

web <https://www.toyota-body.co.jp/>



ポイント

ふれ愛パークのビオトープでは、呼び込む生物の目標を定め、計画的に管理し、質の高い環境を実現しています。ビオトープを活用しながら、環境学習活動を実施し、環境人材の育成と環境活動に取り組む体制づくりが行われています。

背景・経緯

当社は地球規模の環境問題に対し、長期視点で環境負荷削減にチャレンジする「トヨタ車体 長期環境ビジョン」を策定しています。そのビジョンの実現に向けた実施事項として、5年毎に定める環境取り組みプランを「低炭素社会の構築」、「循環型社会の構築」、「環境保全と自然共生社会の構築」、「環境経営（マネジメント）」の4本柱で、トヨタ車体グループ一体となって取り組んでいます。その中の1つである環境保全と自然共生社会の構築活動では、2000年初頭から森林整備活動を国内外で展開し、第5次トヨタ車体環境取り組みプラン（2011～2015年）の中で「自然と調和する工場づくり」を掲げ、自然共生社会の充実を図っています。

本社・富士松工場の周辺環境でも、市街化が進み、生物多様性の劣化が危惧されていました。そこで、愛知県と連携しながら刈谷北部の生態系ネットワーク形成の拠点づくりを目指し、2014年に、雑木林、鎮守の森、果樹園、田畑等を兼ね備えたビオトープである「ふれ愛パーク」をオープンしました。

目的

失われつつある刈谷北部の自然を、当社の自然共生活動により取り戻し、人と自然の共生を確保することを目的としています。この活動を通じて、従業員、地域住民の生物多様性保全意識を醸成し、環境と調和がとれた持続可能な事業活動を目指しています。

取組内容

ふれ愛パークづくりには、①場づくり、②人づくり、③組織づくりの3本柱で行っています。

場づくりでは、ふれ愛パークがビオトープとして成長する段階ごとに、地域から呼び込む生きものを数値目標として短期（パーク施工から3年間）42種、中期（パーク施工から5年間）53種、長期（パーク施工から10年間）63種、超長期（パーク施工後の11年目以降）70種と定め、順応的な管理をしながら生きものの生息空間づくりを行っています。現在ではクロイトトンボ、シオカラトンボ、シジミチョウ、ニホンカナヘビ、トノサマガエル、カワセミ、カシラダカなどが生息しています。（目標種70種のうち46種の生息を確認）このビオトープづくりは、施



ふれ愛パーク ビオトープ

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

工計画から専門家の指導を受けて、刈谷周辺の水辺環境をモデルに、ウキヤガラ、ヤナギタデなどの在来植物、刈谷に生育しているアベマキ、コナラの落葉樹を植えました。生息状況の確認として、毎年モニタリングを行い、自然の推移を見ながらビオトープの維持管理を環境変化に応じ、メンテナンスを行っています。

人づくりでは、地域の自然を復元したビオトープを活用しながら、生きた教科書として生物、植物、外来種を題材にし、従業員や地域の子どもたちに環境教育を行っています。現在は、愛知県



愛知教育大学コラボ環境教育

環境学習行動計画 2030 に示されている「持続可能社会を支える人づくり」に貢献すべく、多様な主体と連携しながら「生きる力を培う教育」にも力を入れています。これまでに、延べ 2,900 人の子どもたちに環境学習を提供し、小学校から大学生までのあらゆる年齢層に学びを提供しています。2018 年度から愛知教育大学と協働事業「先生の卵を育てるプロジェクト」として、近年の自然離れにある将来の先生になる大学生に対しての環境学習活動にも役立てられ、愛知教育大学の正式な授業として承認されました。

組織づくりでは、持続可能なビオトープづくりが課題であることを認識し、「当社のビオトープ」から「地域の皆さまのふれ愛パーク」として、地域の方々に愛され続けるふれ愛パークを目指して活動しています。当社は地域や教育機関、行政などと連携し、2013 年から「地域連絡会」を発足しました。地域連絡会の活動として、東境土地改良区の方から出た意見をきっかけに、地域に生息している外来種「アカミミガメ」の駆除活動があります。この活動は継続的に行われており、民間企業が主導している外来種駆除活動として環境省からも注目されました。

今後の展望

ふれ愛パークの活動をモデルケースとし、トヨタ車体グループ各社と連携を図り、各拠点の地域に波及させ、トヨタ車体環境ビジョンの「人と自然が共生する社会づくり」を達成し、各拠点で地域と協働しながら生物多様性の主流化が社会に浸透することに貢献していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント

トヨタ車体株式会社



志水剛さん

トヨタ車体は、環境との調和がとれた持続可能な事業活動を目指しています。地域の皆様とともに協力し、地球規模の環境問題に対し長期視点で取り組み、自然と調和する工場づくりを通じ、さらなる自然共生社会の充実を図っています。今後も刈谷ふれ愛パークにおける、場づくり、人づくり、組織づくりの活動を充実させ、生態系の保護、生態系ネットワークづくりに貢献していきます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

チーム YMO（（公財）名古屋市みどりの協会、（株）山田組、（株）オオバ）

農とみどりのわくわくマイパーク～農業文化園・戸田川緑地における里山的自然空間の保全とそれを活用した環境学習プログラムの実施～

活動期間 2018年～

活動場所 名古屋市

web <http://bunkaen-todagawa.jp/>



ポイント

行政と市民が協働で作った「とだがわの森」やビオトープ、体験農園を活用し、市民団体、企業団体、教育機関など多くの団体に関わり、保全活動、環境学習、農業体験など様々な取組が行われています。

背景・経緯

名古屋市南西部にある公園「農業文化園・戸田川緑地」は、戸田川を挟み南北 2.5km、東西 0.5km、約 30ha の敷地面積をもつ、市南西部では最大の公園です。指定管理者チーム YMO は、農業公園である「農業文化園」と都市公園である「戸田川緑地」を一体的に管理運営しています。

農業文化園は、農の情報発信や農業体験などにより、農に親しみ、学ぶことができる施設です。戸田川緑地は健康とスポーツの里がテーマの公園で園内には「とだがわの森」「とだがわ生態園（ビオトープ）」「農業科学館」「フラワーセンター」「体験農園」「体験水田」「花と野菜のにじ色農場」などの施設が整備されています。

市民・企業・行政の協働による「なごや西の森づくり」事業は、園内で植栽・育樹がはじまって 20 年目を迎え、20 年前に植えた苗木は 10m を超える樹木もあり、様々な生きものの棲み処となりつつあります。

目的

「農業文化園・戸田川緑地」における在来生物の保全と外来生物の対策に取り組むとともに、市民活動や環境学習の場として、都会の新たな里山的自然空間の提供と持続的な活用を行っています。

取組内容

農業文化園・戸田川緑地は公園の基本的な価値に加え、「農とみどりのわくわくマイパーク」という目標像を掲げ、訪れるすべての人々が豊かな環境の下で楽しく過ごす時を提供し、人々の交流を通して、地域の個性と愛着を育み、「公園が私のライフスタイルの一場面となる」公園文化の実現を目指しています。

農業公園と都市公園という役割の異なる公園が融合するこの環境を、都会の新たな里山的自然空間ととらえ、名古屋市内の『生物多様性拠点』として、市民ボランティアや企業、行政との連携や、構成メンバーのそれぞれの専門性を活かし、質の高い管理運営を行っています。



なごや西の森づくり事業

具体的にはニホンタンポポの保護や外来生物の駆除をはじめとする生物多様性の保全や親子参加の稲作体

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

験、ビオトープ管理士の研修の場の提供、自然観察など環境教育に関する取組を数多く実施しています。その他、農とみどりに関する幅広いジャンルの講座、ワークショップ、展示会、イベントなどを数多く開催しています。

また、園内の剪定枝のチップ化と園路舗装への利用や、落ち葉を利用して堆肥を作るなど、園内資源の持続可能な利用にも取り組んでいます。

現在、市民ボランティア・企業・行政による継続的な協働により、「とだがわの森」「とだがわ生態園（ビオトープ）」はカブトムシ、ノコギリクワガタ、アサギマダラ等が生息する、生物多様性に富んだ森やビオトープに育ちました。また、当園には年間延べ約110万人以上の方が訪れます。実践する多様な企画（ボランティア活動、教育機関と連携した環境教育、農に関する講座・研修、イベントなど）の開催は年間延べ200回を超え、これらへの参加者は年間5,000人を超えています。また最近では、特に昆虫や生きものに関する講座・プログラムの人気は高まっており、公園の自然度が成熟するとともにこれらの講座・プログラムが増加しています。



田んぼ体験しよう！～昔ながらの農具を使って

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

今後の展望

名古屋の大都市内にあっても野鳥や昆虫など多様な生物が生息する園内の自然環境の維持・育成を市民・企業・行政のパートナーシップによって進めていきます。

さらには専門家の指導を得ながら、生物の生息環境の多様化を図るため、森の野鳥や昆虫が好む植物の保護・育成、生態園での水生生物の保護・調査に取り組み、在来種が定着できる環境を整えていきます。「とだがわの森」で子どもたちがカブトムシ、クワガタムシ、アサギマダラなどの昆虫に出会うことができ、さらにアオバズグが頻繁に飛来するような都市近郊の里山的自然空間の成熟をめざします。また将来の夢として、「とだがわ生態園」や戸田川にコウノトリが飛来できるような園内環境整備に取り組むとともに、広域的な環境保全への啓発と連携に取り組んでいきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



佐藤充男さん

チーム YMO ((公財) 名古屋市みどりの協会、(株)山田組、(株)オオバ)

農業文化園・戸田川緑地という里山的自然空間の保全とそれを活用した環境学習プログラムの実施は、多くの方のご支援・ご協力の上に成り立っており、関わっていただいた皆様方のおかげで受賞できたことを大変うれしく思います。

今後も“農とみどりのわくわくマイパーク”という目標のもと、公園を訪れる皆様方とともに生物多様性の保全と環境教育活動に取り組んで参ります。

株式会社山田組

東谷山・天空のアグリパークにおける生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場の創出

活動期間 2012年～

活動場所 名古屋市

web <http://www.berry-good.sblo.jp/>



建設業における環境保全では先駆的な活動のひとつで、化学肥料や農薬をできるだけ使用しない農産物を生産しながら、農業や環境を体験できる場として活用されています。

ポイント

また、有機肥料の開発、障害者の就労体験などの他の分野へも活動を広げています。

背景・経緯

名古屋市守山区東谷山周辺は名古屋市における農業地帯で、特に果樹が盛んな地域ですが、一方で耕作放棄地や遊休農地は増加の一途をたどっています。株式会社山田組は都市農業の重要性に着目して、2012年10月に名古屋市で初めて守山区にある農地を利用権設定して農業参入し、この農地を「天空のアグリパーク」と名付けました。

この「天空のアグリパーク」は名古屋市で一番高い山である「東谷山」のふもとにあり、元々生物多様性豊かな土地柄です。その中であって「天空のアグリパーク」は都市農業の自然環境保全機能の一役を担える農法を行うことを理念のひとつとしています。

目的

生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場を創出し、継続的に活動していきます。

取組内容

「天空のアグリパーク」は東谷山周辺の豊かな自然環境に配慮してブルーベリーや梅などの果樹を中心とした、化学肥料や化学農薬をできるだけ使用しない農産物を生産しています。加えて農業や環境を楽しく学び、体験できる場として活用して、生物多様性を重視した環境保全型農業の実践とそれを普及啓発する場として様々な体験・学習ができる事業を行っています。

農業については、化学農薬をほとんど使用せず、物理的、生物的な防除対策を組み合わせる IPM（総合防除）の手法を駆使して生物多様性豊かな環境を維持し、自然が本来有する生産力を尊重した方法で生産する「環境保全型農業」を行うことで、結果的に化学農薬不使用を実現し、収穫量もある程度落とさず行っています。

また、名城大学環境土壌学の村野宏達先生や学生、企業とともに、腐植土を使用するブルーベリーに適した有機肥料開発の研究を始めました。具体的には、廃棄されるコーヒー粕を使った「コーヒー粕を使った酸



梅の収穫体験

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

性土壌を好む植物の有機肥料の開発の検討」を行い、地域の資源循環に寄与すべく調査研究を行っています。

また、梅やブルーベリーが実るのにはミツバチによる受粉が欠かせませんが、そのミツバチが生息する自然環境を守るために、自分たちがどう行動すればいいかを考える環境イベントを守山生涯学習センターとともに年に数回行っています。

その他、障害者の就労体験の受入れや、観光農園として都市住民への農や自然体験の機会の提供、東海食育ネットワークへの登録や農業女子プロジェクト参加による情報収集や発信を行っています。



コーヒー粕を使った有機肥料の開発

今後の展望

今後はこれらの活動をさらに活性化すべく、公益財団法人名古屋市みどりの協会が管理する東谷山フルーツパークと連携し、周囲の農家などとも協力体制を構築して都市農業を盛り上げ、東谷山周辺の生物多様性豊かな環境をもっと広域的に保全していける地域ぐるみの活動や仕組みづくり、人材育成を行っていきます。

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

グッドプラクティス

地元建設業者による学校・児童館などでの継続的な環境出前講座の実践

活動期間 2005年～

株式会社山田組では本業の生産活動での環境配慮と並行して、2000年頃から積極的に社会や教育現場との接点を増やして、工事現場の見学会や環境出前講座などを実施しています。現在では年間講座数は20回を超えて1,000人以上の子どもたちが参加し、環境意識の向上と建設業が実践する環境活動への興味・関心を高めています。

取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



不用品を活用したエコ工作講座

ベストプラクティス
受賞団体コメント



山田厚志さん

株式会社山田組

都市内農地の保全や活用の場として「天空のアグリパーク」を開園して8年が経ちました。以来、今日まで多くの皆様のご支援・ご協力をいただいていたことに感謝いたします。6月からは農地の利用権を公益財団法人名古屋市みどりの協会に移譲した上で、引き続き活動を継続していきます。次代を担う子ども達への環境出前講座の実施も、今回の受賞を励みにさらに教材の充実を図っていきます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

アイシン精機株式会社

アイシングループによる地域と一体となった環境保全活動

活動期間 2007年～

活動場所 ビオトープ（半田市）

web <https://www.aisin.co.jp/>

アイシングループでは、COP10以降、水に関わる自然の保護活動を行ってきました。全国のグループ会社を核として、地域の自然保護活動と連携を図り、子ども達へ生物多様性の教育等を行うとともに、小学校、官公庁その他専門機関とネットワークを構築して活動の活性化を図ってまいりました。

工場排水を100%利用したビオトープであるアイシンの森（半田市内）では、地域環境との調和を図るべく、知多半島在来種による植生を形成しています。2007年からは、当地で小学生を対象とした環境教育を行っており、約3万人（350校）が受講しています。2013年からは、生きもののモニタリング調査を実施しています。また、カワバタモロコ（国及び県の絶滅危惧IB類）の保全・育成を地域の専門家と連携して実施し、順調に繁殖に努めております。

今後も、NPOや地域、小学生にも参加していただき、プログラムを拡大して、子どもたちへの環境学習活動に貢献、また、先駆的企業としての企業モデルの確立も目指します。

取組キーワード

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献



地元小学生の体験型環境学習



矢作川下流の生きもの観察・清掃活動

ウッドフレンズ共同企業体

愛知県森林公園における自然観察会の実施 および自然をしらせるメール情報紙の発行

活動期間 2011年～

活動場所 愛知県森林公園（尾張旭市新居）

web <https://aichishinrin.jp/>

愛知県森林公園の植物園施設は大都市近郊に位置し、数か所の湿地や雑木林、大きな池など多様な自然環境が残されています。中高年世代を中心に、自然に関する学習への要求が増大していることを受けて、自然観察会を実施しています。森林公園指定管理者である私たちは、自然観察会を実施することで、多様な自然環境の存在とその大切さを啓蒙し、その内容などをメール情報紙として発信することで、より環境への関心を高めてもらいたいと考えています。

「森林公園・自然ウォッチング」と表した自然観察会を毎月第二金曜日の午前中に実施し、季節によって変化する昆虫、植物などをウォッチングしています。また、その内容や自然の奥深さを紹介するメール情報紙「コンペイトウの森通信」を毎月発行しています。加えて、「森林公園・野の花めぐり」「森林公園・なるほど森歩き」などの月例自然観察会を実施しています。

取組キーワード

森林

湿地

公園

環境教育・普及啓発



自然ウォッチング集合風景



冬の花 カンアオイの観察

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

角文株式会社

「持続可能な環境経営」
～社会貢献と事業の両立をめざして～

活動期間 2003年～ 活動場所 角文ビオトープ「逢妻の郷」（刈谷市泉田町）等
web <https://www.kakubun.com/>

都市開発が進み自然が失われる中、都心に住みながら自然を感じたいとのお客様の声や、ホテルが飛び交っていたふるさとの自然を地域の子も達へ見せてあげたいとの思いから、ホテルの生態研究を開始し、『環境共生マンション』を企画開発しました。

社会貢献活動を全社員が楽しみながら参加することにより、社員の環境意識が高まり、そこから生まれる独自の環境技術や知識を自社の環境事業へ進化させ、社会に還元することで、社会貢献を行っています。小中学生や地域住民を対象にホテルの飼育指導や幼虫放流会を実施し、ホテルが生息できるビオトープを造成し、飼育生態観察やビオトープ構造の研究を実施しました。また、水質調査から生きもの採取、外来種調査、ごみの分類調査まで、身近な自然観察から生物多様性や環境を考えるきっかけづくりを支援しています。ほかにも、森林保全活動では、豊田市北部の自社所有の山林にて森林保全活動を社員と家族で実施し、環境共生マンションの企画開発では、ホテルが飛び交うビオトープ付マンションを建設しました。

取組キーワード

- 森林
- 河川
- ふれあい活動の場の整備
- 環境教育・普及啓発
- 地域貢献



間伐体験



ホテルの幼虫放流会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

積水ハウス株式会社 中部第一営業本部

「5本の樹」計画

活動期間 2001年～ 活動場所 学校、分譲地 等
web https://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/environment/biodiversity_1/index.html

庭づくりでは、「美しさ」や「景観」にこだわり、「園芸種」や珍しい「外来種」の植物を珍重する傾向が見られます。また、都市化の進行や農薬利用による昆虫の減少などにより、生物多様性も劣化が進んでいます。当社は、日本で一番多くの住宅を提供するハウスメーカーとして、庭づくりを介してこの状況を変えていきたいと考えています。

ヒートアイランド現象緩和の観点から、冷暖房に頼らず、緑化を利用した街づくりが注目されています。当社は、住宅を通じた自然環境の保全に向け、「里山本来の姿」を手本に2001年から生態系に配慮した庭づくり・まちづくりの提案として、“3本は鳥のために、2本は蝶のために、日本の在来樹種を”という思いをこめて、生きものたちが利用しやすい在来樹種を中心に庭づくりの提案をする「5本の樹」計画を進めてきました。

初年度である2001年度の年間植栽本数は約55万本でしたが、2013度には約106万本にまで増加し、累積の植栽本数は、1,500万本を達成できました。あわせて、樹木やその樹木に集まる鳥や蝶の情報が入手できる「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを開発し、普及に努めています。

取組キーワード

- 森林
- 里山
- 野生生物の保護
- 外来種対策
- 環境教育・普及啓発



「5本の樹」社内研修



「5本の樹」社内研修

中日精工株式会社

三河産間伐材、廃木材を利用した環境にやさしい消臭剤「消臭木」の開発・製造

活動期間 2005年～

活動場所 豊川市 等

web <https://www.rakuten.co.jp/syousyumoku/>

当社は、自動車、農業機械用の歯車専門企業です。2005年開催の愛知万博を機に、愛知県とともに間伐材や廃木材を利用した木質100%の工業用の成形品を作る研究開発を進めてきました。この開発過程で、成形品の原料である木材自体が消臭効果を発揮することを発見し、三河産間伐材や廃木材を利用し、天然素材の香りと消臭効果を特徴とした商品開発をすすめました。

現在は、県産間伐材の利用促進、廃木材の再資源化による環境負荷低減を図るため、三河産間伐材、廃木材チップを活用し、天然素材の香りと消臭効果を特徴とした「消臭木」及び「ふわり森のかほり」を開発し、東三河の店舗や道の駅などで「消臭木」を販売することで地産地消を推進しています（販売累計数15万個）。地元開催のイベントなどへ出店し、消臭木チップの詰め放題など子ども達に木にふれあってもらう木育活動を実施しました。一般的な消臭剤はプラスチックを使用していますが、「消臭木」は木材でできているため、プラスチック使用量の削減に貢献しています。今後も販路拡大を目指し、地元イベントでも広報し、県産材利用の促進、プラスチック削減など環境負荷低減に貢献します。

取組キーワード

森林

生物多様性に配慮した製品

地産地消

地域貢献



消臭木



蒸煮工程

株式会社デンソー

社員食堂でのサステナブルシーフードメニュー導入

活動期間 2019年～

活動場所 会社の全社員食堂（30か所、20年4月時点）

web <https://www.denso.com/jp/ja/>

SDGsへの取組が加速するなかで、特に社員のサステナビリティ意識を高めることが重要と考えていました。しかし、業務で多忙な社員に従来型の教育研修を実施することは難しく、時間をかけずにSDGsを浸透させる方法を模索していたところ、このサステナブルシーフードによる活動の存在を知りました。身近な「食」から海洋での環境問題（SDGs目標14）を認知することができ、また「サステナブルシーフード」普及への貢献につながることから、当社ではこれを活用した活動を推進することとなりました。

社内の全社員食堂において、月1回のイベントメニューとして提供しました。「サステナブルシーフード」導入には各食堂ロジスティックを含む認証取得が必要であり、その認証取得の関係のために最初は1か所からでしたが、2020年4月からは会社の全食堂（30か所）にてメニュー提供を開始しました。この活動を通じて多くの社員へSDGsを浸透することができました。今後はさらに社内売店・販売機で植物由来のペットボトル飲料へ切り替えて販売するなど、拡充していきます。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

その他：社員へのサステナビリティ・SDGs浸透



食事提供カウンターに並ぶ社員



サステナブル・シーフードPR

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

戸田建設株式会社 名古屋支店

新東名高速道路額田トンネル工事における環境保全活動

活動期間 2008年～2014年 活動場所 岡崎市烏川町 等

web <https://www.toda.co.jp>

当社は、建設工事による環境への影響を最小限にするため、希少動植物の保全、矢作川水系の清流への汚濁水流出防止、鳥類への公害対策、二酸化炭素排出量削減を目的として、工事全般に環境対策への取組を導入しています。

当該事業は、大規模造成を伴う建設工事は着手前に環境影響評価法に基づき、生態系などの環境へのリスクの評価が実施され、工事区域周辺には希少動植物（ナガレホトケドジョウ、ネコギギ、オオタカ、ゲンジボタル、シカクイなど）が確認されていました。工事範囲は延長約3kmに及ぶ広範囲であり、建設工事に伴う環境負荷の影響軽減が求められていましたので、里山森林整備活動への参加、希少動植物の移植、ゲンジボタルの保護活動、工事区域からの粉じん飛散防止、矢作川水系の清流への汚濁水流出防止、鳥類への公害対策、CO₂排出量削減、希少動植物を題材とした環境教育等を実施しました。専門家のご指導をいただき、地域の環境保全活動に積極的に取り組むことにより、地域の方々のご理解を得て無事に工事が完了できました。

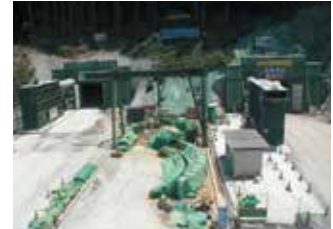
取組キーワード

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



トンネル坑口



濁水処理設備と竹ソダ式沈砂池

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

豊田合成株式会社

豊田合成グループ自然共生活動 「地球上の命の源である水で活動をつなぐ」山～川（工場）～海のエリアでの取組

活動期間 2009年～ 活動場所 愛知県内事業所（清須市春日長畑） 等

web <https://www.toyoda-gosei.co.jp/>

COP10開催を契機に持続的で計画性のある活動とするため、愛知目標に対する自社活動内容を評価し、愛知目標達成に寄与できる「豊田合成グループ中期自然共生活動計画」を立案しました。スローガンである「地球上の命の源である水で活動をつなぐ」のもとに、豊かな森で豊かな水をつくる、絶滅しそうな生きものを育てる、地域の生きものを守る、生きものを育む綺麗な海を守るを目的とし、山、川（工場）、海のエリアで自然共生活動を推進し愛知県の生物多様性に寄与しています。

山での活動としては、水源である木曽川流域の荒廃した里山を水源涵養、CO₂の吸収が可能な里山に整備しました。川（工場）での活動としては、地域潜在植生種を地域住民と協働で工場に植樹し「工場の森づくり」を推進し、また工場内にビオトープを設置して、地域在来種、希少種生物の保全などを実施しました。海での活動としては、従業員および家族がボランティアで、藤前干潟クリーン活動へ参加しました。今後は、これらの活動を自社だけでなく国内外グループ会社にも展開していきたいと考えています。

取組キーワード

里山

河川

海岸

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



調整池ビオトープ



里山整備

トヨタ自動車株式会社

地域で絶滅の危機に瀕する鳥類の保全

活動期間 2012年～

活動場所 豊田市および岡崎市

web <http://global.toyota.jp/>

新研究開発施設造成の事業地は、里山環境が広がる多様な生きものの生息環境であり、「自然と共存し地域と調和するテクニカルセンター」をコンセプトに、2012年から里山環境保全活動を地域の方々とともに実施しています。

鳥類保全に関しては、営巣環境の減少によりこの地域で絶滅の危機に瀕している鳥類を保全するため、専門家と協働で「レッドリストあいち」などをもとに、対象種6種を選定し、各対象種の保全措置内容や場所を決め営巣環境の創出を行いました。また、他地域の保全好事例を視察し、事業地内で実施可能な事例を取り入れて実施しています。保全効果を把握するため、専門家とともに年6回程度現地によるモニタリングを行い、営巣の痕跡や生息確認を行っています。さらに、活動で得られた成果や知見は、学会などを通じて積極的に情報発信しました。今後とも、安定した営巣・繁殖場所を保全していく活動を、専門家とともに協働して取り組んでいきます。

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

協働



巣箱を利用するブッポウソウ



巣箱利用状況の確認

トヨタ自動車株式会社 上郷工場

地域との強い連携で実施する自然共生活動

活動期間 2019年～

活動場所 上郷工場（豊田市大成町）等

web <http://global.toyota.jp/>

上郷工場では、「自然と共生する工場」を目指し、工場周辺の昔ながらの風景を活かしつつ、さらにそこに溶け込めるように、また、生きものがもっと寄ってくるような場を作るための取組を開始しました。その一環として、地域と強い連携による自然共生活動を実現するため、地域とのワークショップを開催しました。

ワークショップは、計3回実施し、上郷工場の従業員に加え、豊田工業高校の生徒や地域住民が参加しました。また、ワークショップは、専門的な立場として豊田市矢作川研究所の指導のもとで進め、成果として上郷工場の東グラウンド及び猿渡川で目指すべき姿を作成しました。

また、地域と強い連携による活動の一環として、猿渡川における清掃活動及びアカミミガメを中心とした外来種駆除活動を豊田工業高校、地域住民、豊田市矢作川研究所と協働で実施しました。今後は、ワークショップにおいて検討した目指すべき姿に向け、活動を計画し、地域との協働で実施する予定です。

取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



ワークショップ



猿渡川活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨタ自動車株式会社 衣浦工場

コアジサシを中心とした生態系保全

活動期間 2017年～

活動場所 衣浦工場（碧南市玉津浦町）等

web <http://global.toyota.jp/>

衣浦工場では、「自然と共生する工場」の活動として、絶滅危惧種であるコアジサシを中心として衣浦地域に生息する生きものの保全を実施しています。「自然と共生する工場」は、2007年より取り組んできた植樹活動である「工場の森づくり」から発展させ、樹林環境にとどまらず、様々な生きものの生息環境に対象を拡大したものです。科学的根拠に基づいて活動を進めるため、有識者の意見を聴取することに加え、地域と協働での活動も積極的に実施しています。

コアジサシは、海岸・河川沿いの砂地に営巣しますが、最近では繁殖環境が減少しています。そこで、2017年に工場内の未利用地を活用した営巣地整備活動や誘致活動を開始しました。営巣地整備活動としては、砂利敷や水飲み場の造成や雛の隠れ場所の設置など、誘致活動としては疑似人形（デコイ）の設置や鳴声の音声を流すなどの活動を実施しました。本活動は、有識者に指導を受けながら、近隣に工場を構えるグループ会社と協働で実施しており、一斉調査による活動の効果確認や保全に対する意見交換会を行っています。

取組キーワード

海岸

野生生物の保護

協働



有識者やグループ会社と協働での調査



営巣したコアジサシ（2018年）

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨタ自動車株式会社 堤工場

ビオトープを活用した「自然と共生する工場」の実現

活動期間 2018年～

活動場所 堤工場（豊田市堤町）等

web <http://global.toyota.jp/>

堤工場及びその周辺の生態系調査を実施した結果、工場は周辺と比べ、樹林、湿地・水辺等を生息環境とする生きものの生息が少ないことが明らかになりました。そのため、工場内に生きものが生息できるビオトープを創出することで、地域本来の自然や生きものを育む環境づくりを行っています。

2018年10月、地域本来の生態系保全への貢献を目的とした「びおとーぶ堤」を開設しました。「コナラを中心とした里山的な広葉樹林」をコンセプトに、近自然工法や地域生態系を考慮した生きものの導入を地元有識者の指導のもとで行っています。また、この地域に生息する代表的な生きものを指標種に設定し、それらの生息状況を従業員による調査で確認することで、活動の評価を行い、内容を見直すサイクルを定期的実施しています。ビオトープは、希少性が高い生きものの飼育、繁殖の場、子どもたちの体験学習の場としても活用しています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



びおとーぶ堤



放流式

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨタ自動車株式会社 貞宝工場

産官学協働で実施する自然共生活動

活動期間 2018年～ 活動場所 貞宝工場（豊田市貞宝）等
web <http://global.toyota.jp/>

貞宝工場では、「水辺と緑の MORIBITO プロジェクト」として工場の環境を活かした自然共生活動に取り組んでいます。

2018年度は貞宝工場における指標種を選定するため、工場の従業員、地域の有識者、豊田西高等学校、豊田市矢作川研究所と協働で工場及びその周辺の生態系調査を実施しました。四季における調査結果より工場及びその周辺の生態系の状況をとりまとめ、貞宝工場の指標種（オオヨシキリ、トンボ類、カエル類、外来カメ類）を選定しました。2019年度から貞宝工場の調整池を自然共生活動場所とし、工場の従業員、愛知教育大学、豊田西高等学校、豊田市矢作川研究所と協働で指標種調査及び生息環境維持・改善活動を実施しています。また、四季の調査終了後には、2019年度の調査結果共有及び来年度以降の活動内容の検討のため、工場と豊田西高等学校が協力してワークショップを開催し、10年後に目指す地域・貞宝工場の姿を描きました。今後もこの姿を目指して、活動を継続していきます。

取組キーワード

湖沼 野生生物の保護
環境教育・普及啓発 地域貢献
協働



オオヨシキリ調査



ヤゴ調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

株式会社豊田自動織機

ごんぎつねを守れ！ ～アニマルパス整備による生息域の拡大～

活動期間 2016年～ 活動場所 知多郡東浦町 web <https://www.toyota-shokki.co.jp/csr/environment/management/diversity/index.html>

東浦工場周辺では、近年キツネの生息が確認されるようになりましたが、十分な生息環境が確保できていないため、周辺道路でキツネが車にひかれる事故が発生していました。そこで、2018年3月に同工場敷地内に約300mのキツネが安心して往来できる人工の獣道「アニマルパス」を整備しました。また、餌となる「スダジイ」や「コナラ」などの地域在来種を植樹したり、小動物の生息状況を確認するため、センサー付定点カメラを複数設置し、継続的に観察して、生息環境の改善を実施しています。

人と自然、地域をつなぐビオトープ ～生態系ネットワーク形成をめざして～

活動期間 2012年～ 活動場所 大府市中央町

「大府駅東ビオトープ」は知多半島の北端に位置し、工業化や住宅化が進み、自然環境が損なわれつつある中で、2か所（あいち健康の森、二ツ池公園）の緑地をつなぎ、生態系ネットワーク形成に寄与する目的で、当社遊休地の場所にビオトープを整備しました。

取組キーワード

里山 野生生物の保護
環境教育・普及啓発 地域貢献
協働



協議会などとのワークショップ

里山 ふれあい活動の場の整備
環境教育・普及啓発 地域貢献
協働



学生実行委員会との生物調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨフジ海運株式会社

名古屋港 海上美化活動

活動期間 1999年～

活動場所 名古屋港

web <http://www.toyofuji.co.jp/>

名古屋港に面する港頭地区事業者としての地域貢献及び社内役員・従業員の環境意識向上のために、1999年に名古屋港での海上美化活動を開始しました。

2000年に海運会社としては初めてとなる国際環境規格「環境ISO14001」の取得を機に、環境マネジメントプログラムに沿った海上美化活動として、長期にわたり継続しています。環境月間である6月に、多くの役員・従業員がこの活動に参加しています。小型船舶（3隻程度）に乗船し、海洋生物や生態系への悪影響が懸念されるプラスチックごみ・ペットボトル・空き缶・ゴムタイヤ等の海洋浮遊ごみを、網等を用いて回収し、回収ごみは陸上の廃棄施設へ持ち込み、適切に廃棄処理しています。

今後も、未経験の役員・従業員が積極的に参加できる環境を整備し、海洋プラスチックごみ等の回収を通じた、海洋生物・生態系の保護に全社で取り組んで参ります。

取組キーワード

野生生物の保護 環境教育・普及啓発

地域貢献 協働

その他：海洋



海洋浮遊ごみ（岸壁周辺）



ごみ回収作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

ブラザー工業株式会社

ブラザーアース キッズ アカデミー

活動期間 2018年～

活動場所 名古屋市

web <https://www.brotherearth.com/ja/>

ブラザーグループの環境活動のスローガンである「BrotherEarth」のもと「よりよい地球環境を、あなたとともに。」を統一メッセージとして、環境保全活動に取り組んでいます。また、「環境スペシャルサイト BrotherEarth」では、地球環境を自分ごととして考えるためのコンテンツとして、一日一種の絶滅危惧種をお届けする「日めくり絶滅危惧種」等により、生物多様性の大切さを伝え、私たちに何が出来るか“考える”きっかけを提供しています。“考える”から“活動”に変えるため、次世代を担う子どもたちに「日めくり絶滅危惧種」を教材としたワークショップを行っています。

名古屋市の学童保育に通う児童を対象に、夏休みに地球温暖化の原因や影響、絶滅危惧種との関係を学ぶ機会を提供し、環境活動の取組として紙製のうちわに絶滅危惧種のステッカーを貼り、装飾してオリジナルうちわを作成してもらいました。

子どもたちからは「ぜつめつするどうぶつがかわいそうだと思った。」「にさんかたんそを作らないようにがんばろうと思う。」などの感想がありました。

取組キーワード

環境教育・普及啓発 地域貢献



ブラザーアース キッズ アカデミー



オリジナルのうちわ作り

三菱電機株式会社 名古屋製作所

里山保全活動

活動期間 2007年～

活動場所 名古屋市

web <https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/index.html>

多様な生命を育み、様々な恵みを与えてくれる自然へ「恩返し」するとともに、地域に貢献し、活動を通じて自然と共生する大切さを知り、環境や社会に対して高い意識を持つ人材を育成することを目的に、里山保全活動を実施しています。

里山保全活動では、「愛知守山自然の会」等の現地の自然保護団体と連携し、主に3つの活動（環境美化・人工林整備・自然観察会）に取り組んでいます。環境美化活動では、家電製品などの不法投棄が目立つ中でも、定期的にごみ拾い活動を実施し、周辺道路や山中の美化を行っています。人工林整備活動では、周辺道路や森林内の草刈や間伐を実施し、あわせて歩道の整備も実施しています。自然観察会では、屋外での工作教室や間伐体験を実施しています。また、自然観察会では生きもの調査も実施し、環境に対する意識を高めています。

これらの活動を、当社の新入社員向けの研修としても組み込んでおり、今後も参加者の裾野を広げながら、活動を継続していきます。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



自然観察会（生きもの調査）



間伐体験

農業生産法人みどりの里

自然栽培でつなぐ絆

活動期間 2013年～

活動場所 豊田市亀首町

web <https://okome.booo-log.com/>

当会は、農薬を使用せず自然の力を引き出す自然栽培で米、イチゴ、野菜などを生産してきました。新たに障害者福祉団体と一緒に自然栽培を進め、障害者の働きにより、作業だけでなく福祉と一緒にグループを組んで販売できるようになり、農家仲間も増えてきました。

主な活動として、農薬を使わない環境配慮型の持続可能な食料生産を確立し、必要とする消費者に届けています。また、障害者の働く場として畑を機能させ、障害者の社会的な役割を農福連携で確立させることに努めています。また、農家と障害者福祉の関係を持続可能な形にするために、平日、障害者に毎日来てもらい、報酬を栽培している農産物で渡す手法で、障害者を継続して受け入れるシステムを構築してきました。農産物は、農薬を使用しない自然栽培なので、価格を下げることなく販売ができ、障害者が工賃を獲得しやすく、農家も人材の確保ができることから経営状況も改善しました。自然栽培を通じて自然環境と農業の両立を今後とも図っていきます。

取組キーワード

農地

生物多様性に配慮した製品

地産地消

地域貢献

協働

その他：障害者雇用



皆でサツマイモ収穫



障害者さんも機械で稲刈り参加

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

横浜ゴム株式会社 新城工場

横浜ゴム「千年の杜」

活動期間 2007年～

活動場所 愛・地球博記念公園（長久手市）等

web 「横浜ゴム（株）CSR千年の杜」で検索

当社は、地域・地球に「より良いプラスの環境効果を与える」社会貢献活動として、地域の生物多様性保全に寄与するために、工場などでの植樹活動とともに苗の提供と植樹ノウハウの提供をしています。会社創立100周年を迎える2017年までに国内外生産拠点に50万本を植樹する、「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクトを2007年に発足させ、国内外生産拠点にさらに多くの「杜」を創生していきます。

これまでも自社工場を中心に植樹を行ってきました。主な取組として、地域の遺伝子保護のため、潜在自然植生に合わせた樹種の種子を、県内の古木・大木や神社などの古木から拾い、播いてポット苗をつくり植樹に使っています。また、工場植樹用ポット苗作成のほかに、地域の里山づくり、鎮守の森づくり、水源の森づくり、通学路・地域の環境美化植樹用の苗も作り、希望する団体などに提供しています。ほかにも、新城設楽生態系ネットワーク協議会の第1回からの植樹活動に、植樹苗を提供し、植樹指導に76人が参加協力しました。今後とも、小学校や子ども園等で行っている環境学習活動を幅広く進めていきます。

取組キーワード

里山

公園

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



工場防災広場 2010年植樹



工場防災広場 2020年現在

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

リンナイ株式会社

リンナイの生物多様性保全活動と環境人材づくり

活動期間 2017年～

活動場所 大口工場（大口町）等

web <https://www.rinnai.co.jp/>

当社は、地球環境に配慮しながら、誰もが、健康的な食事をすることができる社会の実現を目指しています。COP10で採択された愛知目標の達成に貢献し生物多様性や環境にも寄与するため、「伝統野菜づくり」への挑戦と特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除活動を通じて、生物多様性への配慮と地域の皆様との交流を図る取組を行いました。

伝統野菜を自ら「つくる・食べる」取組では、1,182名の社員とその家族へ伝統野菜の種を配布し、自ら「栽培、収穫、食す」ことを通じて、地域の食文化や自然に触れ、緑に親しむ機会の場としています。

特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除取組では、6月の環境月間を目安に、当社グループ社員だけでなく近隣の自治体や、学校、近隣企業の皆様と一緒に、毎年駆除活動を行っています。

今後も社員のモチベーションを高め、さらに視野を広げて活動を継続していきたいと考えます。

取組キーワード

外来種対策

地産地消

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



伝統野菜の料理教室



オオキンケイギク駆除

FM いちのみや株式会社

環境保全、生物多様性保全をテーマとした番組作り

活動期間 2016年～

活動場所 FM いちのみや（一宮市本町）

web <http://iwave765.com/index.html>

2016年に放送を開始した「ただいま！エンジョイカ」は、環境保全や生物多様性保全の普及啓発を柱とした番組として大いに好評を博し、現在も放送が続いています。この番組の放送開始をきっかけに、様々な番組で普及啓発活動を展開しています。

「ただいま！エンジョイカ」では、地球温暖化防止を含めた「環境保全」や「生物多様性の保全」、「ラムサール条約登録湿地の保全」、「SDGs」をテーマとしたコーナーを放送開始当初から伝えてきました。その後も「エンジョイカでクールチョイス」や環境省補助事業参加番組として制作、放送された「劇団シンデレラ 僕たち地球の応援団」など、「環境」をテーマとした番組を多数制作、放送し、普及啓発に努めています。また、この地域の環境イベントの広報にも協力してきました。

今後も地域に根ざしたコミュニティFMの利点を活かし、環境保全や生物多様性に関する番組を制作し、放送していただけるようにします。

取組キーワード

森林

湿地

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献



世界湖沼会議での活動発表



スタジオ内のゆいかていとねぎねぎ

愛知商業高校ユネスコクラブ

ミツバチと創る持続可能な地域と未来 ～未来へつながる 10 年の軌跡とこれからの歩み～

活動期間 2011 年～

活動場所 名古屋市

web <https://aichi-ch.aichi-c.ed.jp>

ポイント

校舎の屋上で養蜂活動を行っており、そこで採れたはちみつを活用し、地元企業と共同でフェアトレードや被災地支援にも繋がる商品を開発、販売やイベントを通じて社会的課題とともにその解決方法についても発信し、生物多様性と消費行動を結びつけている。

背景・経緯

名古屋市では、1999 年のごみ非常事態宣言から 2005 年に愛知万博、2010 年に COP10 が開催される等、自然と共生する持続可能な社会に向けた大きな動きがありました。COP10 の翌年、学校周辺に広がる名古屋近代化の歴史遺産が数多く残るエリア「文化のみち」の持続可能なまちづくりを目標に「なごや文化のみちミツバチプロジェクト」を立ち上げ、校舎の屋上で都市型養蜂の実証実験を開始しました。

目的

校舎の屋上で採れたはちみつは、日本庭園「徳川園」を主な蜜源としており、本校が尾張徳川家ゆかりの地に立地していることから、歴史と文化のかおりがする「徳川はちみつ」と名付け、地域のブランド化を目指し、2013 年に商標登録を行いました。ミツバチを核に、生物多様性の普及・推進や名古屋都心の自然環境向上、地域とのつながりを深めるコミュニティ活動、徳川はちみつを活用した社会貢献型商品の開発、被災地との交流等を通して、自然と共生する持続可能なまちづくりを目指しています。

取組内容

自然と共生する持続可能なまちづくりに向け、生物多様性を身近な生活の中で実感し、行動してもらうことが必要だと考え、誰もが日々の生活の中で行っている「消費」という行動に着目し、徳川はちみつを活用した社会貢献型商品の開発を行いました。

1 つ目は、岩手県陸前高田市の特産品「米崎りんご」を使用した復興応援アイス「希望のはちみつりんご」です。名古屋市が東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市を「丸ごと支援」していることを知り、地元企業と協働でこのアイスを開発しました。売上 1 個につき 8 円が「陸前高田市小中学校復興基金」に寄付される仕組みとなっています。2013 年の販売開始から 5 年後には累計販売個数が 10 万個、寄付総額が 80 万円を超え、名古屋市と陸前高田市をつなぐ希望の架け橋としての役割を果たしています。

2 つ目は、国際フェアトレード認証を受けたガーナ産フェアトレードカカオを使用したアイス「幸せのはちみつカカオ」です。フェアトレードは貧困・環境等の問題を解決する手段の一つであり、売上の一部は「フェ



観光ツアーの様子

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

「アトレードプレミアム」という奨励金として、現地の教育支援等に充てられています。

これら2つのアイスは、2014年に名古屋市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の日本政府主催歓迎レセプションパーティーの公式デザートに採用されました。

また、生物多様性を含む「エシカル消費」の体験イベントとして、旅行会社と共同で女性のやりたいこととエシカル消費を組み合わせた「文化のみちを巡る自分磨きの旅」を企画しました。「文化のみち」を舞台に、地域の歴史にも触れながら、地産地消の「オーガニックランチ」、フェアトレードの和菓子を使用した「和やか茶会」、ミツバチの巣の原料であるみつろうを再利用した「ハンドクリームづくり」等の体験の場を提供しました。

このほかにも、アフリカ産のフェアトレードの薔薇を使用した「フェアトレードローズで贈る特別な母の日」や、地産地消の食材を使用した「親子 de 楽しむエシカルクッキング」等を企画し、エシカルな体験をする機会をつくっています。

これらの活動が評価され、家庭科の教科書や英語の教材、社会科の副教材へ掲載される等、これからの未来を担う高校生に生物多様性やエシカル消費等について考える「きっかけ」を提供しています。



市長表敬訪問の様子

今後の展望

「オンライン自由研究おたすけ隊！」と題し、小学生の親子をターゲットにミツバチの生態や校舎屋上の養蜂場見学、採蜜体験の疑似体験等の企画を盛り込んだオンラインイベントの準備を進めています。SDGsの視点も取り入れることで、社会的課題とともにその解決方法についても行動に移す「きっかけ」を提供したいと考えています。

ミツバチプロジェクト開始から今年で10年目となりました。これからも、地域・企業・行政と協働し、世代や属性を超えた人的つながりを構築しながら、自然と共生する持続可能なまちづくりを目指して、挑戦し続けます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



愛知商業高校ユネスコクラブのみなさん

愛知商業高校ユネスコクラブ

2020年度、ミツバチプロジェクト開始から10年目を迎え、この節目の年にベストプラクティスをいただけたこと、大変光栄に思っています。私達は日々、地域の環境や社会的課題等、ミツバチから多くのことを学んでいます。この学びをミツバチを通して発信することで、地域の生態系や生物多様性に加え、社会的課題の解決やSDGsの普及・推進を目指していきます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

豊田市立五ヶ丘東小学校

自然と人^{ごと}とが共生するふるさと“五東の里”をつくろう

活動期間 2005年～

活動場所 豊田市立五ヶ丘東小学校（豊田市五ヶ丘）

web http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_itsutsugaokahigashi



ポイント

小学校の敷地内にビオトープを造成し、1年生から6年生まで各学年の教科の学習と組み合わせて、継続的な取組がされています。

環境学習を通じ、保護者や地域、NPOとも協働して活動しています。

背景・経緯

当校の周辺は高さ100mほどの山がいくつも連なり、その谷間には田んぼや畑、草原、小川などがあり、多様な生きものが生息する自然豊かな環境でした。しかし、豊田市は人口増加に伴う都市計画事業により、山を削り、谷を埋めて宅地造成をし、自然環境が激変しました。

自然の大切さ、生きものの命の尊さについて考え、自然と人^{ごと}とが共生できるまちづくりを本校の児童が目指してほしいという教師の願いと、かつての自然を取り戻し、地域にいた生きものを呼び戻したいという児童の願いにより、2005年に校内にビオトープを造成しました。造成面積は約660㎡で、当時の教職員と専門家で組織する学校ビオトープ設置委員会で計画を検討し、市内の造園会社の協力のもとに施工しました。

目的

当校では、地域の自然環境、特に学校ビオトープを基盤にした学習や活動を教育課程に位置付けています。総合的な学習では、3～6年生のすべての学年でビオトープを活用した学習が行えるように、年間の学習計画が作成されています。また、生活科と総合的な学習の時間を中心に、各教科や特別活動においても、自然にかかわる体験活動を組み込んだ学習を1年生から6年生の全学年で実践しています。ビオトープ学習は、児童の探究心をくすぐり、様々な人や生きものとの対話から主体性を引き出し、深い学びにつながっています。身近な自然と直接かかわる体験活動をする中で、ふるさとを愛する心、主体的に学ぶ力、創造的な態度も、児童の中に育ってきており、自分のふるさとが大好きな児童に育成することを目的としています。

取組内容

当校では、校内のビオトープ、校内の樹木や草地、隣接する森すべてを学校ビオトープととらえ、命のつながりを意識して、多様な動植物が生育できる環境づくりに取り組んでいます。また、運動場の野草もビオトープと考えており、体育の授業で使用するトラック部分以外は、意図的に野草を刈らずに残すようにしています。

校内のビオトープは、まわりの川や池、森などから自然に飛んで集まるトンボを小川や池の目標種に設定して、トンボの楽園を目指して環境づくりに取り組んでいます。羽化や産卵のために草を残す所、開放水面をつくるために草を刈る所、水量の調節をして池の底が見えるようにした所など、多様なトンボが集まるように児童が工夫し、試行錯誤をしながら学習やビオトープ整備を進めています。その結果、トンボは現在ま

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

でに 31 種（県内生息確認種の 35%）の生息が確認できました。トンボのほかにも、メダカ、ドジョウ、アカハライモリ、8 種類のカエルなど、生きものの種数も増えています。

学校ビオトープの環境学習への活用として、3・4 年生は総合的な学習で活動フィールドごとに児童 2～3 人の池班、草地班、田んぼ班、小川班、里山班に分かれて、それぞれが目標種を決めて環境づくりを行っています。また、全校児童がビオトープに親しんでもらう取組として、5、6 年生が総合的な学習や委員会活動でネイチャービンゴを作成しています。

教員向けには、ビオトープ管理マニュアルを作成しています。ビオトープ整備カレンダーを作成して、児童、教職員、保護者、地域が協力して適切に整備を行っています。専門的な知識を持つ地元環境 NPO から指導と助言もいただき、学校だけでなく多様な主体の協力のもとにビオトープの維持と管理がなされています。

さらに、児童が地域の方とビオトープ観察会を行ったことを契機として、地域の環境意識が高まり、里山や自然散策道「ほおじろ道」の再整備が地元で議論され、豊田市に提案しています。行政や他団体との連携としては、豊田市が実施する「地域の生き物調べ」に 2014 年から 3 年生以上が参加しています。



地域の方を招いての観察会



トンボの羽化を助ける木の棒立て

今後の展望

多様な生きものが生息できる環境の継続的・順応的な維持管理を行います。総合的な学習や各教科などの授業以外でも、積極的にこの環境を活用し、ビオトープ活動の地域への啓発と地域との連携強化を進めます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



谷口隆さん

豊田市立五ヶ丘東小学校

本校では、総合的な学習を中心に、各教科にも自然と関わる体験活動を組み込んで、ビオトープを活用した学習を行っています。ビオトープ学習は、児童の探究心をくすぐり、様々な人や生きものとの対話から主体性を引き出し、深い学びにつながる、まさにアクティブラーニングそのものです。身近な自然と直接かかわる体験を通して、郷土愛や創造力も、児童の中に育ってきていると感じます。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

愛知県立南陽高等学校

生物多様性保全を目指した地域と社会に貢献する SDGs の取組 ～フェアトレード、カーボン・オフセット、COOL CHOICE を活用した実践～

活動期間 2010年～

活動場所 名古屋市 等

web <https://nanyo-h.aichi-c.ed.jp/b-nanyo%20company.html>

ポイント

フェアトレード、カーボンオフセット等を組み合わせた独創的なアイデアを企業との協働で商品化し、イベントでの販売・発表を通じて広く消費者へ普及を図っています。

開発した商品が大手量販店で販売されるなど、波及効果が期待されます。

背景・経緯

2015年に名古屋市はまちぐるみでフェアトレードを盛り上げるフェアトレードタウンに認定され、フェアトレードの商品をより一層広めていく必要があります。また、同年12月にはパリ協定が採択、温室効果ガス削減は急務となっています。

商品を購入するという行動が市民が最も取り組みやすい行動であることから、商品開発を通して地域や企業を巻き込んだ SDGs の取組を行うことにしました。

目的

Nanyo Company 部は地域貢献を目的としてイベントへの出店や商品開発・販売の取組を行ってきました。その中でフェアトレード、カーボン・オフセット、COOL CHOICE 等を活用することにより、消費者に環境に配慮した商品の賢い選択を促します。また、地域社会全体で SDGs 達成を目指した商品の購入が行われることで、環境配慮商品の安定した取引が行われ、生産地の生物多様性の保全等に繋がります。

取組内容

活動の特色は2つあり、「フェアトレード」、「カーボン・オフセット」、「COOL CHOICE」を組み合わせで行っていること、企業や消費者を巻き込んでいることです。仕組を組み合わせることによって複数の課題解決を同時に行うことができ、さらに地元企業と商品開発を行うことで買い物という身近な行動に繋げることができることから、SDGs の達成を地域ぐるみで行うことができます。

生物多様性の保全に向けて「ココキーホルダー」という商品を開発しました。この商品は本校の近隣にある藤前干潟とフィリピンのオランゴ島が渡り鳥で繋がっていることを知ったことから、フィリピンの地域住民の生計向上に役立つ手芸品を販売し、その収益金の一部をセブ州オランゴ島と周辺地域でのマングローブ



SDGs 概念図



マングローブ植林証明書とオリジナルフェアトレードキーホルダー

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

植林活動に寄付することで、カーボンオフセットと藤前干潟の生物多様性の保全に貢献しています。商品の発売以降、1,270本の植林につながり、藤前干潟の保全と渡り鳥を守るという生物多様性の保全に貢献できたと言えます。

また、企業と協働で、フェアトレードコーヒーや、フェアトレードの黒糖を使用したどら焼きやわらびもち等のオリジナル商品を開発し、これらの商品をカーボン・オフセットしています。クレジットは木曾川で繋がる長野県や岐阜県のクレジットを使用し、クレジットによって上流域が整備されれば下流にある愛知県の農産物等にも良い影響を与えることができると考えています。さらに、オリジナル商品のわらびもちの容器には生分解性プラスチックの容器を採用するなど、マイクロプラスチック問題にも寄与しています。

これまで県内で100以上のイベントへ出店し、販売や発表を通じて、これらの活動の普及啓発を行っています。

また、オリジナル商品を多くの消費者に届けるために、大手ショッピングモールの販路拡大も行き、イベントに参加しない一般の消費者の手に届くよう、積極的に活動しています。



高校生開発オリジナルフェアトレードコーヒー



商品販売・啓発

今後の展望

持続可能なSDGsの目標達成を目指し、フェアトレード商品を消費者が手に取りやすい環境を作るため、多くの小売店に採用してもらえるよう「販路拡大」を図り、廃棄予定の商品を元に新しい商品を開発することで「流通業界の3分の1ルール」の解決の2点を計画しています。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



愛知県立南陽高等学校のみなさん

愛知県立南陽高等学校

この度はベストプラクティス賞という素晴らしい賞をいただき光栄に思います。私たち Nanyo Company 部の地道な活動が評価され、とても嬉しいです。これからもフェアトレード、カーボン・オフセット・COOL CHOICE を組み合わせながら、今よりも環境に配慮した商品開発・販売に力を入れ、植林や街路樹保全などに積極的に寄付を行うことで、地域の方とともに生物多様性保全に貢献していきたいと思っております。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

愛知大学 地域政策学部 学生地域貢献事業団体「森の子」

地域連携・社会連携による生態系保全活動

活動期間 2014年～

活動場所 奥三河地域

web <https://www.aichi-u.ac.jp/>

環境の保全と改善に関する活動を通して、より多くの人々に自然環境について興味と関心を持ってもらい、様々な機関との協働により、地域の交流を深めるために、愛知大学地域政策学部では学生による地域貢献活動に力を入れています。学部設立時より「学生地域貢献事業」を展開し、地域の環境政策を学ぶ学生が、「学んだことを地域の現場で活かしたい」との思いから「森の子」を立ち上げ、地域住民や企業、自治体と連携しながら、自然の面白さや大切さを伝える目的で活動に取り組んでいます。

新城設楽生態系ネットワーク協議会の主催事業や自治体の環境部門との連携活動に積極的に参加しています。また、地域貢献や子どもを対象とした木育活動として、同協議会に所属する団体が主催するイベントや、自治体主催の催事へ出展しています。バスツアーによる植樹活動や豊川市とも連携した豊川市内生物調査、豊川流域水生生物調査、自然観察マップ作成、子どもたちに自然に親しむことを目的とした木育活動、あいち・なごや生物多様性EXPOでの取組内容の発表、生物多様性保全活動などを行いました。

取組キーワード

森林

河川

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



2014年度植樹ツアー参加



2019年度生物多様性EXPO分科会

犬山市立池野小学校

校庭ビオトープを舞台にした環境教育、絶滅危惧種の保全活動

活動期間 2016年～

活動場所 犬山市立池野小学校（犬山市字萩下）

web <http://www2.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310195>

本校では、校庭にあるビオトープと学校周辺の環境を活用し、5年生の児童を対象に環境教育とキャリア教育を継続的に行っています。環境教育では身近な生きものや自然環境について学び、人との関わりについて考えます。キャリア教育では、ヒメタイコウチが生息するビオトープの維持改善活動を通じて、地元環境関連企業の活動を体験し、環境と社会との繋がりについて学びます。

授業では日本の自然環境の豊かさや、生態系から人に提供される様々なサービスについて学習します。また、生きものへの興味関心と理解を育むために、学校周辺で植物や昆虫を採取し、生きものの「形」を観察、その意味についてグループで話し合い、発表を行います。キャリア教育では、ビオトープの維持管理や植物の苗づくり、その植栽を行い、自然環境に関わる企業の仕事を経験します。2019年度の学習発表会では、児童が自主的に「人と自然にやさしく生きる」というテーマを選考し発表を行いました。これからも身近な自然環境や生きもの、それらと人との関わり合いへの興味関心を深め、持続可能な社会の構築に向けた問題解決能力のある人材を育てていきたいです。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



学習発表会の様子



苗づくりの体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

愛知県立木曽川高等学校 総合実務部

国の天然記念物 木曽川のイタセンパラの保護につながる活動

活動期間 2015年～ 活動場所 木曽川中流域（一宮市）等
web <https://kisogawa-h.aichi-c.ed.jp>

イタセンパラは、国の天然記念物（1974年6月指定）の淡水魚で、本校では、生物部が1974年9月に木曽川で発見し、生息地の保護活動や生態調査を始めました。しかし、生息環境の悪化により、年々数が減少し、1995年には絶滅したと考えられていましたが、2005年に再発見され、現在は当部がイタセンパラの保護活動に取り組んでいます。

本校では、イタセンパラの保護につながる調査・研究と学習活動、広報活動及び生息地の保全活動を「3本の柱」として、活動を実施しています。

この中でも、地域の方にイタセンパラを知ってもらい、「地域の宝」として保護するために、特に広報活動に力を入れています。「イタセンパラかるた」を制作し、未来を担う子どもたちに向けて保護活動の必要性を訴えています。また、認知度アンケート調査、ワンド周辺の清掃を実施したり、パトロール活動にも参加したりしてきました。引き続き、イタセンパラの生息環境を取り戻すために、高校生の私たちにできる活動を行っています。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献



イタセンパラかるた大会



二枚貝の殻の調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

愛知県立佐屋高等学校 生物生産科 作物研修班

チェーン除草による水田環境の保全と持続可能な米作り

活動期間 2018年～ 活動場所 愛知県立佐屋高等学校農場水田（愛西市東條町）
web -

稲作を行う上で、昔から水田雑草の除草は大きな課題でした。除草剤が開発されましたが、抵抗性を持つ雑草も現れ、そのたびに除草剤の効果も強化されてきました。雑草以外に水田に生きる生きものなど生物多様性への理解や薬剤による人への影響を考慮する観点から、除草剤の使用量を極力抑える必要があります。

チェーン除草は、環境負荷の少ない除草方法として全国の有機稲作に取り組む農家の間で広まってきた手法で、塩ビパイプ等の棒にチェーンを取り付けて水田内を引きずりながら行き来し除草する方法です。田植え後の雑草防除に効果が期待され、地元の小学生とも協働し、2018年、2019年の2年間、チェーン除草を用いた米作りを行いました。また、可能な限り有機肥料を使用し、安全安心な「米作り」を行いました。

今後は、チェーン除草の効果も検証し、普及や作付け作業全体の見直しを行うとともに、水田に優しく、周囲の環境にも配慮した稲作を目指します。

取組キーワード

農地

環境教育・普及啓発



自作したチェーン除草機



自作のチェーン除草機での作業

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

豊田市立滝脇小学校

私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！
私たちの森 広げよう！地域へ

活動期間 1966年～

活動場所 学校林「野鳥の森」（豊田市滝脇町）

web http://toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_takiwaki

本校は、1966年に「愛鳥モデル校」の指定を受け、愛鳥活動を教育課程に位置付けています。愛鳥活動を通して自然を理解し、守ろうとする子どもを育む活動を継続して行っています。さらに、地域全体で野鳥の保護活動を推進しています。

具体的には、探鳥会や愛鳥委員会活動、愛鳥検定などの「知る活動」、給餌活動や営巣調査などの「守る活動」、発表会や広報活動などの「広げる活動」に取り組んできました。

これらの活動を通して、野鳥や校区に生息する生きものに親しみ、興味をもつ子どもが増えてきました。地域の自然環境に関心をもち、つばさと根っこ会（地域学校共働本部）と協力し、森の伐採などの自然環境に働きかける活動も行われるようになりました。科学的な視点に立った調査活動を通して、自然環境、生きものやその保護活動について、主体的に考えようとする子どもが育ってきました。

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



営巣調査



夏鳥探鳥会

中部大学 応用生物学部南基泰研究室

知多半島臨海工業地帯企業緑地の
生態系ネットワークとしての貢献度評価

活動期間 2011年～

活動場所 臨海工業地帯の企業緑地（知多半島）

web -

知多半島臨海工業地帯の企業緑地は、人と人とのつながりを育みながら生きものの生息環境をつなぐ生態系ネットワークのコアエリアとして期待されていますが、哺乳類相の生息地域性評価がされていませんでした。このため、フィールド調査を実施し、緑地整備手法を提言するために、活動を開始しました。

企業緑地に生息する小・中型哺乳類の調査を実施し、在来種と外来種の区分も行い、各種の活動頻度を調査しています。また、哺乳類に対する企業緑地の貢献度を評価するとともに、生息地としての適性を高めるための緑地整備の手法を明らかにしました。小型哺乳類の生息調査では、ネズミ2種が確認され、DNA鑑定などにより、バラ科などの餌資源となっている樹種が明らかになりました。中型哺乳類の生息調査では、タヌキ、ニホンノウサギ等9種及び1属が確認されました。タヌキのHSIモデルから、適度な間伐が、ハビタット適性を向上させることが明らかとなり、緑地整備として適度な間伐、落葉や枯れ枝の集積作業を提言しています。今後は、多種多様な生物相の生息地適性評価ツールを作成することを目指します。

取組キーワード

森林

野生生物の保護

その他：生態系ネットワーク形成、企業緑地管理



自動撮影カメラのデータ確認

企業緑地にキツネ



地域絶滅したキツネを撮影

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

愛知県立知立東高等学校 自然科学部

猿渡川における外来生物の調査および地域への情報発信

活動期間 2011年～

活動場所 愛知県立知立東高等学校（知立市長篠町）

web <https://chiryuhigashi-h.aichi-c.ed.jp/>

生態系を乱す原因となっている外来生物は問題視され続けています。本校近くを流れる猿渡川にどれくらいの外来生物が生息しているのかを調べ、カメの種類別の生息状況を調査してきました。外来生物がどのくらいの影響を環境に与えているかを明らかにし、同時にイシガメなど外来種の保護のために啓発活動を行い、多様な生態系の保全に役立ちたいと本校では考えています。また、啓発活動の一環として環境学習教材を作成し、外来生物についての問題を子どもから大人まで楽しく学んでもらいたいと考えています。

主な活動として、2011年から猿渡川に生息するカメの捕獲調査を行っています。その結果、アカミミガメが約70%を占めていることが判明し、その反面、在来生物のイシガメの生息数は少ないことが分かりました。また、環境学習教材として「すごろくカメマス」を出前授業やイベントなどで活用し、体験者が外来生物の問題について考える機会を、今後もつくりたいと考えています。さらに新たな環境学習教材を開発し、啓発活動に取り組んでいきたいと思ひます。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



猿渡川でのカメ捕獲調査



「すごろくカメマス」の体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

人間環境大学 生物クラブ

岡崎市における外来カマキリ調査と普及啓発活動

活動期間 2019年～

活動場所 岡崎市内

web https://twitter.com/uhe_animal

外来カマキリのムネアカハラビロカマキリは、2014年に豊田市で、2018年には岡崎市の北山湿地で報告されました。カマキリ類は昆虫採集の対象となるため、意図的・非意図的な移動が懸念されています。

当団体では、効率的な防除策を検討するため、岡崎市内の外来及び在来のカマキリの分布状況を明らかにするための調査を行うとともに、県内の各種イベントで地域の方への普及啓発を行いました。

分布調査は、自動車で低速走行してカマキリ類を探す調査、任意の地点で目視調査を行う定点調査、一般の市民の方々に目撃情報を提供してもらう市民参加型調査を行いました。また、普及啓発活動として、人間環境大学大学祭やあいち・なごや生物多様性EXPOなどのイベントで、調査結果や標本と共にムネアカハラビロカマキリについて解説しました。

今後も継続的な調査を通じて、防除の方法を検討します。また、ムネアカハラビロカマキリの認知度はまだ低いため、普及・啓発活動を継続します。

取組キーワード

森林

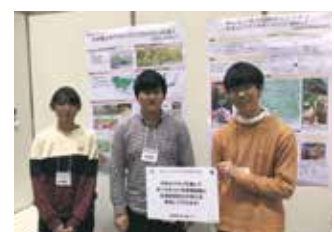
野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



大学祭にてムネアカの解説中



目標を掲げるクラブ員

春日井市立東高森台小学校

身近な自然環境を調べその変化を学習する

活動期間 2005年～

活動場所 築水の森（春日井市）

web -

本校は、高蔵寺ニュータウンの北東に位置しています。学校の北には弥勒山や大谷山、南には瀬戸の山々、西には高森山が見えます。この環境の中、総合学習で3年生から5年生が自然を学習しています。

ビオトープの観察やギフチョウの成長観察などを通して、生きものの不思議さを知ることを学習しています。2004年から2019年まで、学校のプールを利用してヤゴを観察しました。2015年からは、プールにわらの束を2か所入れることで、草や木の上で産卵するヤンマの数が増え、全体数も多くなりました。また、水辺や水中の生きもの・植物などのテーマに分かれ、季節による違いを調べました。築水を中心に活動している観察会の方からいろいろな水生の生きものについて教えてもらい、観察したことをスケッチし、名前などをまとめました。

春日井市少年自然の家の敷地を借り、ギフチョウの観察を行いました。今後も継続的にギフチョウやプールのヤゴの保護を行い、地域の自然を調査していきます。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



ギフチョウの卵調査



プールのヤゴ調査

富士文化幼稚園

命はつながっているんだね

活動期間 2009年～

活動場所 名古屋市

web <https://www.fujibunka.com/>

2009年に名古屋市が園児と保護者に「生物多様性」を伝えることを目的に企画した「まちじゅうで稲づくり」に参加して以来、バケツでの稲作りを現在も続けています。子どもたちに、毎日当たり前に食べているお米が、長い月日をかけ自然の恵みを受けて実ること、「いただきます」は「生きものの命をいただきます」、「ごちそうさまでした」は「大切な命をありがとう」という意味であることを伝えるため、環境カウンセラー、NPO法人『びすた〜り農園』代表である高山博好先生の指導のもと、米の種まきから、田植え、稲刈り、収穫した米の一粒ずつの脱穀、粃摺り（皮むき）を手作業で行っています。また、バケツ稲を発展させ、わらを使った草履づくり、納豆づくりのほか、味噌作りを行い、生きものの働きを体験しながら学んでいます。

子どもたちは、生きものとの関わりの中で、命の神秘、食物連鎖について知り、自分たちの命と繋がっていることを、体と心で学んでおり、子どもたちが学んでいる姿を保護者にも伝えることで、親子での共有もしています。

取組キーワード

環境教育・普及啓発



田植え



稲刈り

名城大学附属高等学校 自然科学部

庄内川における生物調査と環境学習

活動期間 2012年～

活動場所 枇杷島橋（名古屋市西区）

web -

本校の自然科学部は、約100名の部員が在籍しています。2012年に「矢田・庄内川をきれいにする会」から、本校のすぐ北側を流れる一級河川「庄内川」の水質が、全国一級河川のワースト10であることや内分泌かく乱物質の重要地点濃度を超過していることなどを聞きました。「庄内川」は、BOD（生物化学的酸素要求量）の類型がD（8mg/L以下）となっています。このような状況を踏まえ、身近な川的环境を知り、生物の多様性を調査し、環境保全を含めた学習活動を実施することにしました。

月に一回の庄内川の生態調査の結果、生物相が年々変化していることがわかりました。特に近年はカダヤシの減少とモクズガニの増加が特徴的でした。これらの結果や作成した標本等は、毎年「三河湾大感謝祭」をはじめとする多くの生徒研究発表の場で発表し、一般の方に対しても広く周知することができました。また、環境保全の学生連合を立ち上げる卒業生が現れるなど、次世代育成にも貢献できました。砂州の清掃活動なども行い、活動を通じて、庄内川の状況と身近な環境を知ることができました。

取組キーワード

河川

環境教育・普及啓発

協働



採集した生きものの同定および記録



庄内川での生物採集の様子



行政・その他

命をつなぐ PROJECT

命をつなぐ PROJECT

活動期間 2011年～

活動場所 知多半島 等

web <https://ecoreco.net/>



ポイント

知多半島において、企業それぞれが行っていた活動を結びつけ、アニマルパスウェイの新設など緑地帯を生態系ネットワークとしてつなげる活動を行っています。

背景・経緯

知多半島臨海部、大企業の工場や事業所がひしめく工業地帯に、全長10kmにわたる広大な企業の森があります。通称グリーンベルトと呼ばれるこの森は、約50年前に工業地帯と人々の生活圏とを隔てる緩衝帯として、各々の企業によって植樹されたものです。2010年のCBD・COP10を契機に、工業地帯の一部の企業では、生物多様性保全を意識した緑地整備が行われる気運が高まり始めましたが、それらの取組は限定的でした。これは、この工場緑地帯が企業所有の土地であることから、隣り合う敷地同士の土地は繋がっていても柵や壁で分断されていたため、企業の森は小さな緑地の集合体でしかありませんでした。

当活動はそうした背景をふまえ、多様な主体が連携し、情報共有、相互協力、地域啓発などを活発化させ、緑地群全体の生物多様性向上を目指すべく始まった活動です。2011年に知多半島で“企業の緑がつなぐ、地域の絆と生態系”をテーマに当活動が開始されました。

目的

「命をつなぐ PROJECT」の直接的な前身は、2011年度の『新しい公共の場づくりのためのモデル事業』に、NPO法人日本エコロジスト支援協会が提案した知多半島臨海部における「生態系ネットワークの形成」と「次世代の担い手育成事業」が、県によって採択された事に始まります。環境問題に関する意識が高い大学生との連携事業に実績があった日本エコロジスト支援協会が、事務局として先導的な役割を果たし、連携する学生募集や支援を行いました。また、知多半島生態系ネットワーク協議会に名を連ねる企業のうち、知多半島臨海部に位置する、日本経済を支える複数の大企業が連携することになりました。行政・企業・NPO・学生・専門家など、多くの主体で構成される「命をつなぐ PROJECT」は、知多半島の緑地を地域共有の宝として捉え、生物多様性保全をネットワーク化する役割を担っています。

取組内容

企業緑地も上空から見るとひとつの緑地に見えますが、企業ごとの工場緑地はフェンスで分断されていました。企業それぞれのセキュリティを確保する一方で、動物の生息圏を狭める原因にもなっていました。そこで動物の生息圏拡大を目指し、アニマルパスウェイ（動物の通り道）を新設し、定点カメラでパスウェイの観察をすると、実際にタヌキがパスウェイを活用している姿を捉えることに成功しました。

また、侵略的外来種が生態系に与える悪影響を考慮し、ウシガエル、オオキンケイギク、孟宗竹などの継

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

続的な駆除活動を行いました。また、地域住民向けの外来種の問題啓発イベントを開催するなど、外来種対策を総合的かつ効果的に推進しています。ビオトープの新設活動では、生態系ネットワーク形成に向けて企業緑地内に水辺の設置を推進し、これまでに計7か所の水辺ビオトープ新設に至りました。

生きものの住処づくりでは、生きものの憩える緑地づくりを目指し、キツネの巣穴や鳥類の巣箱、トカゲのための石のマウンドなど様々な住処も新設しています。在来種の植樹活動では、生物多様性の保全に配慮した緑地づくりの一環で、在来種による植樹を実施しています。植樹は、連携している企業各社とともに、知多半島臨海部で定期的に行っています。



アニマルパスウェイ



ビオトープ整備

今後の展望

今後、さらなる「生態系ネットワーク向上」「次世代の担い手育成」に向け、企業関係者のみならず、地域全体に生物多様性の概念を普及啓発していきます。また、企業緑地群と内陸部をつなぐ、新たな生態系ネットワークづくりも始め、2017年には尾張横須賀駅に近いエリアにある大同大学のグラウンドの一角に、新たな生態系ネットワークの中継点とすべくビオトープを造成しました。毎年、新規に入会してくるメンバーも増えており、今後も若い人材の育成にも力を入れていきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



久留宮小春さん

命をつなぐ PROJECT

命をつなぐ PROJECT は学生だけでなく企業や行政、NPO、専門家など、様々な組織が協力して生物多様性を守りつなぐために活動しています。今回の受賞は関係者全員の想いと努力が評価されたものだと思っています。学生の活動を根気強く、愛情と愛着を持って受入れ応援して下さる関係者の皆様に心から御礼申し上げます。これからも地域の生物多様性をより豊かにするために取り組んでいきましょう！

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会

いもう 葦毛湿原大規模植生回復作業

活動期間 2013年～

活動場所 葦毛湿原 等

web http://www.toyohashi-bihaku.jp/?page_id=4594



ポイント

自治体が中心となり、様々な団体が協力しながら葦毛湿原の植生回復活動を行っています。複数の専門家の意見を聞くなどしっかりとした計画を作り、多くのボランティアを募って活動しており、ホームページなどによりリアルタイムで広報活動も行っています。

背景・経緯

愛知県指定天然記念物「葦毛湿原」と豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、遷移が進んで森林化することにより、湿地の面積が減少し、湿生植物が衰退していました。そこで、1987年から2012年までに行った植生回復実験などの成果をもとに、葦毛湿原保護意見交換会での専門家の提言に基づき、2013年から大規模植生回復作業を開始しました。

目的

遷移が進み森林化した湿地を再生・保護するため、保全生態学の成果と考古学の発掘調査の技術を融合させた手法を用いました。地層を分層して細かく管理し、地表面近くに多く含まれる土壌シードバンク内の埋土種子を効率よく発芽させ地上から姿を消した植物や絶滅寸前だった多くの植物を復活させることを目的に、大規模植生回復作業を行いました。

取組内容

湿地の復元や湿性植物の個体数の増加のための大規模植生回復作業の基本方針は、土壌シードバンクに眠っている埋土種子を効率よく発芽させ、湿地の再生や減少した植物の個体数の増加を目指すことです。予防原則に基づく順応的管理による生物多様性の保全を目標に、湿地およびその周辺環境の多様性の復元を目指しています。

作業の具体的な判断として、これ以上生物を絶滅させないためには、何をすべきかという点を重視しています。森林化した湿地を元の状態に復元するためには、森林化する以前の湿地として良好な時代の地表面（土壌シードバンクの上面）を検出し、その上の堆積物を考古学の発掘調査技術を援用し、地層を詳細に管理して抜根や植物の根の層、葉や枝等の有機物層の除去を行います。植生回復作業は、第1段階（湿地中心部の日照を確保する）、第2段階（森林化した湿地を復元する）、第3段階（湿地中心部の遷移を後退させる）、第4段階（恒常的な維持管理を行う）の4段階で進めており、現在は第2段階が終了間近の状態です。



植生回復作業

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

葦毛湿原では 1967 年から 2013 年までの間に、少なくとも 21 種の植物が地上から姿を消しました。しかし、大規模植生回復作業により、カガシラ（県絶滅危惧ⅠA類）、ヒメミミカキグサ（同ⅠB類）、ミカワシンジュガヤ（同Ⅱ類）など、14 種の植物が埋土種子などから復活しています。また、数が少なくなっていたミカワバイケイソウ、カザグルマ、ハルリンドウ、トキノウなどの湿生植物も開花数が顕著に増加しています。



植生回復作業後の葦毛湿原

事業の運営にあたり、豊橋市教育委員会が葦毛湿原保護意見交換会を組織し、文化庁、愛知県県民文化局文化芸術課文化財室、愛知森林管理事務所などの関係行政機関や複数の大学の研究者、有識者、ボランティア団体等多方面の関係者の協議のもとに事業を進めています。実際の作業では、豊橋市教育委員会の指導のもと、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会など、毎年延べ500名以上のボランティアも協力し、作業を行っています。ボランティアを中心に費用をかけず効率的な作業を行っており、これまでの7年間で延べ約26,260㎡の作業を行いました。また、豊橋市美術館のWEBページに「葦毛通信」を月1回程度掲載し、作業の方法や結果についてリアルタイムに公開しています。この活動は環境省発行の『日本の重要湿地』パンフレット（2017年3月発行、2019年3月改定）に「東三河・渥美半島湧水湿地群」として葦毛湿原での取組が紹介されました。

また、これまでに多くの団体から現地視察や活動報告を依頼されており、2014年8月には林野庁の「第2回保護林制度等に関する有識者会議」や、2020年1月には愛知県・名古屋市主催による「あいち・なごや生物多様性 EXPO」などでも活動報告を行っています。

今後の展望

今後も、行政・ボランティア・民間企業との協働を進め、生物多様性の保全を目標に、少ない費用でも多くの成果をあげられるように実施方法を改善し、全国各地で同様な取組ができるようにリアルタイムで情報を公開し、同じような活動をしている団体と情報を共有していくつもりです。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



元洋さん

豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、 豊橋自然歩道推進協議会

葦毛湿原では行政、ボランティア、専門家、企業が協力し、最小限の費用で大規模な植生回復作業を行っています。この方法により、地上から姿を消した植物が埋土種子から復活し、多くの成果が得られました。今回の受賞を機に、より多くの方に大規模植生回復作業を知っていただき、同様な取組が広がっていくことを期待しています。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

なごや生物多様性保全活動協議会

なごやの生物多様性保全活動

活動期間 2011年～

活動場所 名古屋市

web <http://www.bdnagoya.jp/>



ポイント

40以上の市民団体・教育機関・専門家等が協働により、個別の団体の枠を越えて活動しています。構成団体の特徴を活かした5つの部会活動のほか、名古屋市全域で実施する市民調査等を継続して行い、名古屋の生物多様性の保全に大きな役割を果たしています。

背景・経緯

名古屋市には東部丘陵地を中心に111か所ものため池が現存しています。生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の名古屋市開催が決定したことを契機に、2008年10月に「名古屋ため池生物多様性保全協議会」が設立され、地域住民・市民団体・行政が協働のため池の生物調査や保全活動を行ってきました。2011年5月には、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げ、活動内容を拡充して「なごや生物多様性保全活動協議会」を設立しました。

目的

名古屋に生育・生息する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し身近な自然の保全を実践することを目的に活動しています。

取組内容

協議会は2020年3月現在、43の団体会員、24の個人会員及び名古屋市で構成しており、参画する会員の特性を生かして5つの部会を設置し活動しています。

協議会では、「なごや生きもの一斉調査」として、毎年対象の種を定めて名古屋市内の公園・緑地等で市民参加の調査を行っています。協議会員がリーダーとなり、毎年40か所程度で期間を定めて調査することで、市内の生物多様性の状況を明らかにしています。2011年以降の9年間で3,200人以上の市民が参加するなど、毎年多くの市民の方に参加頂いていることから、2018年のアリ調査では名古屋市での初記録が3種、愛知県での初記録が2種見つかるなど、大きな成果を挙げています。

この他、2008年から継続的に市内の池干しを行い、生きものを捕獲し生育状況を調査するとともに、外来種の駆除を行っています。これまでに16か所で池干しを行い、4,000人以上の市民が参加しています。



一斉調査の様子



滝ノ水北池での池干し

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

その他、各部会において以下の取組を行っています。

●アカミミガメの防除

市内のため池・河川でカメ類の捕獲調査を行い、アカミミガメ等の外来種を除去しています。昭和区・隼人池ではほぼアカミミガメを除去することができました。

●カワバタモロコの保全

区画整理により生息地を失ったカワバタモロコを保護・繁殖し、地元小学校で環境教育を行っています。

●ヒキガエルの調査

ヒキガエルの確認についてアンケート調査を行うとともに分布調査を行い、保全施策を検討しています。

●オオキンケイギクの駆除

2015年から山崎川河川敷でオオキンケイギクの駆除活動を行い、大幅に減少させました。毎年5月には市民参加の抜き取り会を行っています。

●ササユリ保全

絶滅危惧種のササユリの自生地である平和公園と大高緑地で、ササユリの生育環境調査を行い、適切な保全対策を行っています。それにより開花の個体数が増えつつあります。



アカミミガメの防除

今後の展望

今後も市民・行政・企業と協働して生きものの調査・保全活動に取り組むとともに、市民参加の事業により生物多様性への関心を深めていきます。

また、様々な団体と連携するプラットフォームの役割を担い、政策提言機能も強化していきたいと考えています。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



長谷川泰洋さん

なごや生物多様性保全活動協議会

ベストプラクティスの選定に感謝申し上げます。協議会は設立以来10年、微力ながらなごやの生きものや生態系の実態の解明とその保全に貢献してきたと自負しています。市民参加型調査の「なごやの生きもの一斉調査」や「池干し」は、延べ数千人以上に参加頂いています。この選定を励みに、益々活動を発展させていきます。今後も皆様となごやの生きもの調査、保全活動を盛り上げてまいります。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

藤前干潟クリーン大作戦・ 流域交流と「ごみと水を考える集い」

活動期間 2004年～

活動場所 名古屋市 等

web <https://cleanupfujimae.jimdo.com/>



藤前干潟の保全等を目的に、年2回実施する「藤前干潟クリーン大作戦」には150団体、3,000人以上が参加するなど、土岐川・庄内川の流域の市民団体・事業者・教育機関・行政が広く連携し活動しています。
ポイント また、流域圏の漂着ごみゼロをめざして流域圏内の交流を進めています。

背景・経緯

藤前干潟は、日本有数の渡り鳥の飛来地です。市民活動により、1999年1月に「ごみ処分場建設・埋立計画」が中止され2002年11月に「ラムサール条約登録湿地」となりました。

しかし、当時その岸边は家電、風呂おけ、ドラム缶等の大型ごみ、自転車・オートバイ、ペットボトルが「山となり」「厚いじゅうたんとなり」、流域からの漂着する生活ごみで覆われていました。

目的

2004年10月5日に土岐川・庄内川流域で活動している4市民団体で「実行委員会」を結成し、同月24日に第1回藤前干潟クリーン大作戦を実施し、240人が参加しました。

掲げた目的・目標は、①ラムサール条約登録湿地に恥じない藤前干潟にしよう ②子どもたちが安心して遊べる干潟や水辺を取り戻そう ③流域全体のごみや水のことを考えるネットワークの結成の三点です。

取組内容

毎年春と秋の年2回、「藤前干潟クリーン大作戦」として、清掃活動を行っています。これまでの約16年で合計31回開催し、延べ37,770人の参加があり、45リットルのごみ袋合計46,082袋分のごみを集めました。さらに、2018年秋の台風による高潮で、ヨシ原が漂流を阻止していた約50万本のペットボトルが岸边に集積されましたが、3回の回収活動により、2019年春にはすべて撤去しました。これらの活動は、地元自治会、行政、学生、企業の協働により実施しています。そして、ごみを撤去することにより、ヨシ原の保全、鳥類をはじめとする希少生物の生息域の確保が進みました。

環境学習として、2009年秋の清掃活動以降、干潟観察会の開催や中学生による水質調査などを行っています。これらの環境学習により、子どもから大学生まで、藤前干潟に関する意識の変革がみられ、積極的に参加してもらえるようになりました。

さらに、2012年以降、ヨシ原が枯れることの原因調査を行い、2018年春から、植栽を行うことで保全活動を進めています。



藤前干潟クリーン大作戦

取組キーワード

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：河川・干潟美化活動、上下流交流等流域交流			

なお、2012年1月以降漂着ごみの生まれにくい流域を目指して、毎年1月に「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い（略称：ごみと水を考える集い）」を開催しており、記念講演や調査等の特別報告の後には、市民団体と行政が一同に会して話し合いを行っています。

特に、2020年1月に開催された第9回の集いでは、近年のマイクロプラスチック問題が伊勢湾及び庄内川で顕在化していることを受け、ワークショップで問題意識を共有しました。

なお、流域圏交流では、庄内川最上流の岐阜県恵那市の三郷の川のクリーン大作戦との14年間にわたる相互の活動への参加や、愛知・岐阜・三重三県の市民団体で組織している「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」の伊勢湾を軸とした清掃活動等に積極的に参加しています。



干潟観察会



ヨシ植栽会



第9回ごみと水を考える集い

今後の展望

土岐川・庄内川は、社会問題化しているマイクロプラスチックの流下数密度が暫定値であるものの全国1位との調査結果が明らかになりました。石油由来漂着ごみのクリーンアップ活動は、新たな段階に入ったと認識しています。

流域一帯による取組の一層の推進に合わせ、河川・海のマイクロプラスチック化阻止の啓発活動を強化することが何より大切と認識しています。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



坂野一博さん

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

名誉ある賞をいただきまして、まことにありがとうございます。2004年から藤前干潟クリーン大作戦にご参加いただきました37,770人の皆様のお陰と感謝いたしております。清掃後の水質・ヨシ調査や干潟観察会で、生きものの命の繋がりを感じていただくことが、受賞につながったと思います。コロナ禍の今10月31日（土）秋の藤前干潟クリーン大作戦が実施できますことを願っています。

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

岩倉市

ビオトープ「岩倉市自然生態園」

活動期間 1996年～

活動場所 岩倉市自然生態園（岩倉市北島町）

web <https://www.city.iwakura.aichi.jp/0000000119.html>

岩倉市自然生態園は、市街地からすぐの田園集落の一角に鎮守の森と一体のものとして、市民が身近な自然にふれ合う場として整備され、年間約8,000人が来園しています。とんぼ池をめぐる1周300mの小さなビオトープ公園は、季節ごとに野鳥が飛来し、虫たちが暮らす場所です。

当園では、市民団体の岩倉ナチュラルリストクラブとともに、25年前から岩倉市自然生態園の環境保全やイベントの開催を岩倉市と協働で行ってきました。

年間イベントとして、外来種駆除（ザリガニ釣り大会）、夜の昆虫等の観察会、昆虫の標本づくり、カエルとふれあおう、とんぼ池であそぼう、どんぐり工作体験など多様なプログラムを開催しています。また、「いきもの探検隊（市民や市民団体の参加）」による自然観察会を行い、「いわくら生きものガイドブック」を作成しました。ほかにも、毎年岩倉ナチュラルリストクラブによる生きもの調査を実施しています。

取組キーワード

里山

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



ザリガニを釣る人たち



水の中の生きものとのふれあい

榎前環境保全会

水田魚道で郷里づくり

活動期間 2007年～

活動場所 水田魚道（安城市榎前町）等

web -

安城市榎前町では、水田や水路の維持管理に住民が参画できないかと考えていました。2006年に愛知県農業総合試験場の水田魚道の現地実証地に選定されたことを期に、環境保全会が中心となり水田魚道を核とした地域協働の生物多様性保全活動を開始しました。

水田魚道により、ドジョウ、フナ類、ナマズ等が水田に遡上できるようになり、今では4haの水田に広がりました。子どもたちと一緒に実施している「農業体験」や「水田魚道観察会」（年間20回程度（6月から9月週2回））を13年以上継続して調査しています。これらを継続的に実施することで水田農業への関心が高まり、水田魚道を設置した水田で収穫したお米、「どじょうの育み米」のブランド化を進めています。また、毎年7月には農業総合試験場・生協・JA・経済連などと連携して「田んぼの生きもの観察会」を開催。消費者200名以上の参加を得て、米の栽培環境や生きものの豊かさを実体験してもらっています。子どもたちと一緒に活動することで、若い保護者など、町内会活動への積極的な参加といった波及効果もありました。

取組キーワード

農地

ふれあい活動の場の整備

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発



農業体験 初めての田植え



田んぼの生きもの観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

岡崎市

ホテルマスターファミリー講座（岡崎市ホテル学校）

活動期間 2013年～ 活動場所 岡崎市ホテル学校（岡崎市鳥川町） web <https://www.city.okazaki.lg.jp/index.html>

ホテルマスターファミリー講座は、各種環境教育プログラムを体験しながら、段階的にホテルの生態や生息環境への理解を家族で深めていくものです。6回の講座を継続して受講することにより、家族みんなでホテルについて学んだり、実際に外に出て川や周辺の自然を観察したりします。ここでの発見や感動を分かちあうという経験を通して、ホテルや自然環境への理解だけでなく、家族の絆を深め、楽しい思い出としてもらえる内容です。

おかざき水とみどりの森の駅事業

活動期間 2006年～ 活動場所 おかざき自然体験の森（岡崎市ハツ木町）等

水とみどりの森の駅は、豊かな自然環境を将来にわたって継承していくキーステーションとなっています。ここを拠点に、人と自然がふれあい、自然と共生する文化を引き継ぐことを目的としています。各環境学習施設では、市民団体との協働による自然体験学習や、教育機関との協働による外来種対策のほか、各種環境学習イベントの実施などの様々な取組を通して、自然環境の保全や活用について市民の協力や理解を深めています。

取組キーワード

森林

里山

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



ホテルの里の昆虫と植物調査

里山

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



おかざき自然体験の森で環境学習

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

春日井市

春日井市自然環境保全活動推進員

活動期間 2005年～ 活動場所 春日井市内
web <http://city.kasugai.lg.jp>

本市では、自然環境の保全に関する知識の普及や自然環境保全活動を推進することを目的に、春日井市自然環境の保全を推進する条例に基づき2005年度から自然環境保全活動推進員を任命しています。この推進員には、自然環境の保全を推進する様々な活動を行う地域のリーダーとしての役割を期待して、養成講座を修了した市民に委嘱し、29名が活動しています。

2019年度は、市民への自然環境に関する知識の普及を目的とした学習会を年に3回程度開催し、小学生やその保護者などの延べ167名の一般参加者が参加しました。また、自然環境保全活動推進員のスキルアップを目指してステップアップ講座を年に6回程度実施しました。その他、希少種保護のため、市内東部の地域で月に1回程度で定期的に巡回活動を行っています。今後も市では自然環境保全活動推進員の委嘱を通じて、自然環境保全の人材育成を推進していきます。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



ステップアップ講座の様子



自然観察会の様子

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

春日井市少年自然の家

自然学校【里山木こり体験】、里山体験【田んぼと森の学校】

活動期間 2013年～

活動場所 春日井市少年自然の家（春日井市廻間町）

web <https://www.spofure-kasugai.or.jp/natures/>

人が森・雑木林に手を加えたり、間伐することで、明るい自然豊かな森・雑木林にする必要があります。また、米作り体験により、田んぼと雑木林に暮らす多様な生きものを知り、その保全について学ぶことも大切であり、学習機会の提供のために2013年から当事業を開始しました。

主な活動として、里山木こり体験では、伐採や林床管理により、地表に光が届く健全な森に育て、多様な生きものが棲める森にするために活動しています。市民参加体験型の催しでは、『手を加えた自然にこそ自然がある』をモットーに雑木林の間伐体験、薪割り、炭焼きやシイタケの菌打ちなど里山文化を楽しむようにしています。また、田んぼと森の学校としての里山体験では、子どもたちが里山環境で自然体験活動をする中で、豊かな自然、生物多様性を知り、その持続可能な活用や保全について学ぶ機会を創出するために活動しています。小学校の高学年を対象とし、餅米の種籾の播種から始まり、田植え、除草、稲刈り、はざかけ、脱穀、精米、餅つきを行っています。

取組キーワード

森林

里山

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発

協働



木こり体験



里山体験

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

幸田町

自然観察会

活動期間 2004年～

活動場所 石川（幸田町大草）等

web <https://www.town.kota.lg.jp>

幸田町は、自然に囲まれた町です。幸田町環境基本計画に基づき、幸田町の自然と触れ合える機会を提供することで自然の大切さを肌で感じてもらう、住民の環境に対する意識を啓発するために2004年から環境学習を実施しています。

幸田町の川で行われた水生生物観察会では、小学生等を対象に、2か所の川で水生生物観察を行っています。講師から川で見られる魚の特徴、雄雌の見分け方や特定外来生物の説明を受けるとともに、流域モニタリング調査を行っています。小学生などの夏休みの自由研究の場となり、子どもたちが川の生物多様性について考える機会となりました。また、「秋の健康の道を歩こう！」という企画では、講師から植物の説明を受けながら「健康の道・遠望峰山（里山散策）コース」を散策し、里山の様々な生態系の存在にも気づき、里山の自然について学んでもらっています。その他、野鳥観察会では、町内の池（5か所）で野鳥観察を行い、講師には、それぞれの池で見られる鳥の説明をしてもらっています。

取組キーワード

里山

河川

環境教育・普及啓発



自然観察会



水生生物観察会

江南市 環境課

江南市環境学習会（五条川の岸辺づくり、植栽作業）

活動期間 -

活動場所 五条川（江南市小折町）

web <https://www.city.konan.lg.jp/event/kankyoku/1007604/index.html>

本市では、子どもたちに対して自然の大切さを学ぶ機会や場所を提供する中で、環境教育の一環として、河川に水生植物を植栽し、生きものが住みやすい環境を作り、緑を含めた生物多様性を保全する活動を行ってきました。活動に参加した子どもたちや、その家庭の親世代を含め、自然を大切に思える「人づくり」と生物多様性の保全に繋がる「緑づくり」を進めていき、人と自然が共生できる地域づくりを行っています。

環境教育として、小中学生向けの環境学習会を年 10 回程度開催しており、その中で、五条川の生物多様性の保全をテーマに 2 回実施しました。5 月に川の石や礫を集め護岸を造成、8 月にヤマアゼスゲ、ショウブ等の水生植物の植栽を行うとともに、あわせて生きもの観察、清掃活動を行いました。アンケート調査により、生きもの大切さを知る効果を把握できました。今後も岸辺づくりと植栽活動を続け、生きもの豊かな五条川を目指します。

取組キーワード

河川

環境教育・普及啓発



五条川での生物調査



五条川の岸辺づくり

サギと高速道路の共生を考える会

サギと高速道路の共生に向けた活動

活動期間 2010 年～

活動場所 東名阪自動車道 蟹江 IC（蟹江町）等

web <https://www.aichi-park.or.jp/yachou/>

東名阪自動車道のインターチェンジ内の園地等におけるサギの営巣活動が、通行車両の交通安全上の問題となっていました。そこで、2010 年から中日本高速道路（株）、弥富野鳥園、日本野鳥の会愛知県支部が連携・協力して、高速道路の機能と安全を損なうことなく、サギの生息環境を保全し、自然（サギ）と人（高速道路）との共生に取り組んでいます。

保全活動として、営巣を許容するエリアと禁止エリアを定め、営巣許容エリアでは、フェンスのかさ上げなどによりサギの飛翔・活動エリアと高速道路通行車両を分離したり、デコイの設置などによる誘導策を、営巣禁止エリアでは、樹木の剪定や草刈りなどによる営巣環境の管理を実施しました。営巣数等のモニタリングや見学会、活動に関する環境教育冊子の配布などの広報も行いました。また、専門家を含めたサギとの共生を考える会を年 3 回開催し、関係者の情報交換をしています。

この活動の結果、サギと通行車両の衝突事故が約 9 割削減でき、毎年、4,000 羽以上の営巣が継続しています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

その他：高速道路



モニタリング調査



樹木剪定作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

新城市（鳳来寺山自然科学博物館）

奥三河の自然を学ぶエコミュージアム

活動期間 2019年～

活動場所 新城市

web www.city.shinshiro.lg.jp/

奥三河地域には豊かな自然や希少な動植物が数多く存在しており、後世まで残すべきかけがえのないものです。鳳来寺山自然科学博物館では、自然環境の大切さや保全の必要性を広く周知するため、鳳来寺山を中心とした奥三河地域の動物、植物、菌類などの調査、研究や教育普及活動を行ってきました。

2019年度は、新城市を中心とした奥三河地域の自然をテーマとした多彩な環境学習講座を4回、自然をテーマにした特別展を2回開催しました。

この環境学習講座は、風切山の里地・里山、桜淵のきのこなどをテーマとして、特別展は、きのこ、教科書と自然を題材として、これらには年間約2,400人と多くの方が参加しました。

今後も環境学習活動を継続し、魅力ある学習会や展示を目指し、より広く奥三河地域の自然の豊かさを周知できるように努めます。

取組キーワード

里山

河川

環境教育・普及啓発



野外学習会「朝霧湖周辺の紅葉」



野外学習会「風切山-里地・里山の新緑」

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

瀬戸市 環境課

瀬戸市の第2次環境基本計画では、「自然を守る」をテーマの1つとしています。これに基づき、毎年、実際の野生動植物を題材にして、環境教育と環境啓発を兼ねた「せと環境塾」を実施しています。

せと環境塾

「水生生物調査～カメ博士の矢部先生とカメや魚を捕まえよう～」

活動期間 2015年～

活動場所 定光寺正伝池（瀬戸市）等

web -

瀬戸市内（定光寺正伝池及び水野川）に生息するカメや水生生物を捕獲する体験をして、その後専門家から捕獲した生物の説明を受けて、外来種対策や生物多様性の大切さを学びます。

せと環境塾「生物多様性とオオキンケイギク駆除」

活動期間 2015年～

活動場所 瀬戸川（瀬戸市）

専門家から生物多様性などの生態系や外来種に関する講義を受けた後、実際に瀬戸川沿いのオオキンケイギクを駆除しています。

この活動により、オオキンケイギクが外来種と認識した住民が、町内清掃として自主的に駆除活動を実施するようになりました。

取組キーワード

河川

湖沼

外来種対策

環境教育・普及啓発



ガサガサ体験

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



オオキンケイギク駆除

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

豊川市赤塚山公園

小学校との連携で行う川の生き物調査

活動期間 2013年～

活動場所 学区内の河川（豊川市）等

web <http://www.akatsukayama.jp/>

当園は、豊川とその流域にすむ生きものを展示する「ぎょぎょランド」や小動物園を有する豊川市の総合公園です。子どもたちに川に興味を持ってもらうきっかけづくりと教育を担う施設として地域に貢献するため、2013年に開園20周年を記念し、地元小学校を対象にした出前授業を開始しました。

出前授業では、小学生と一緒に川で生きものを採集し、それをぎょぎょランド館内に設置した水槽で展示する「平尾小学校ミニ水族館」を実施しました。それ以降、年に数回、複数の小学校とこうした活動を実施し、延べ2,280人が参加しています。

この活動で、地域の河川の魚類相データの蓄積や展示への活用をするとともに、地元の人々に自然の美しさや不思議さに気づいてもらい、地域の価値を見直すきっかけにしてもらいたいとも考えています。

今後も、活動を継続して地域の教育を担う施設としての役割を果たしていきたいです。

取組キーワード

河川

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



採集した生きものの解説を行う飼育員



川に入り生きものを採集する子どもたち

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

豊橋市

豊橋市におけるアカウミガメの保護調査活動

活動期間 1992年～

活動場所 表浜海岸（豊橋市）等

web <http://www.city.toyohashi.lg.jp/7150.htm>

太平洋に面する遠州灘は、愛知県内において「表浜海岸」と呼ばれ、広い砂浜やそこに広がる海浜植物、雄大な海食崖を有するなど、大変豊富な自然に恵まれています。

この表浜海岸には、毎年5～9月、豊橋市表浜海岸にアカウミガメ（県絶滅危惧種IB類）が、産卵のため上陸しています。

当市では、1992年からアカウミガメの実態調査、自然観察会、出前講座、表浜海岸の保全整備事業などを行ってきました。

実態調査は、調査員による上陸産卵調査やふ化調査を実施しており、1巣あたりの産卵数は平均111、ふ化調査巣数は累計906となっています（1992年～2019年）。また、毎年、調査データを報告書に取りまとめて公表しています。

今後も、アカウミガメが上陸する表浜海岸の現状と自然保護の重要性を周知するとともに、海岸の保全に努めていきます。

取組キーワード

海岸

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



ふ化調査



自然観察会

豊橋市自然史博物館

カタツムリ調査隊

活動期間 2012年～2013年 活動場所 豊橋市

web <https://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/>

陸産貝類（カタツムリやナメクジ）は、地面を這ってしか移動できない移動能力の低い生きものです。このため、生息場所の自然環境の豊かさを知る指標にもなります。また、市内の陸産貝類の分布を明らかにするためには、市民参加による調査が有効であると考えます。この市民との協働した調査の実施により、身近な生きものである陸産貝類に興味を持ってもらうことができます。

2012年に実施した市民が参加した調査は、カタツムリやナメクジの写真を撮影してメールで送ってもらう「写メ隊員」と、カタツムリを採集してもらう「採集隊員」という2通りの方法で行いました。その結果、合計34種の陸産貝類が見つかり、コハクオナジマイマイが県において初記録の確認となり、ウスイロオカチグサは、豊橋市内の初記録の確認となりました。これらの結果は、研究報告書にとりまとめ、論文で報告しました。翌2013年には、豊橋市自然史博物館で、集まった標本や分布図を展示する特別企画展を行い、広く市民に公開しました。今後、陸産貝類の分布の変化について、モニタリングをしていきたいと考えています。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

協働



市民参加募集チラシ



特別企画展

東浦町

東浦自然環境学習の森保全活動

活動期間 2009年～ 活動場所 東浦自然環境学習の森（東浦町大字緒川）

web <https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp>

東浦自然環境学習の森は、南北に細長い谷戸地形を形成し、水田やため池、ヨシ原、コナラやクスノキなどの森、竹林が一体となった里地里山景観を形成しています。そこには、カヤネズミやホンドギツネ等が生息しており、住民が自然に触れ、人と自然との関係を学び、人と人との交流・生きがいを感じる場となっています。この貴重な生態系を有する環境の保全活動を、2009年から地元自治会や地元企業等と協働しながら実施しています。

森林エリア、竹林エリア、水辺（湿地）エリアに分け、各エリアの計画目標を定め、里山や竹林の整備、ビオトープづくりなどの保全活動を実施しています。また、活動を継続的に実施するため、活動団体の代表者や地元自治会長、企業の担当者等による「保全・育成の会」を組織し、意見交換を行っています。保全活動では、タケノコ掘り活動や自然観察会の開催、環境保全リーダー育成講座、大学と共同したホンドギツネの生息調査などを行っています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



稲作活動の様子



企業連携による保全活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

碧南市

オオキンケイギク一斉駆除

活動期間 2015年～

活動場所 矢作川河川敷（碧南市前浜町）

web <https://www.city.hekinan.lg.jp/>

本市では、第2次碧南市環境基本計画により「外来種駆除推進プロジェクト」を定めました。この中で、市内各所で生育が確認されている特定外来生物のオオキンケイギクに着目し、生態系に悪影響を及ぼしている外来種の駆除を進め、市民に対し正しい知識の普及と啓発に努めるため、2015年からオオキンケイギク駆除・啓発活動を実施しています。

矢作川河川敷（碧南市前浜町地内）で、花の開花時期に合わせて毎年5月下旬までに駆除を実施しています。主な参加者は、碧南市、へきなん市民環境会議、碧南高校の生徒、市民であり、根まで掘り取ることを事前に確認のうえ、駆除を行っています。また、西三河南部生態系ネットワーク協議会の連携事業として、西尾市側の矢作川河川敷でも駆除を実施しています。

今後も継続的に駆除活動を続け、市内の他の地域での活動も行い、市民一人ひとりにオオキンケイギクの駆除の必要性を広く普及していきます。

取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



協力しての駆除作業



オオキンケイギクの処分

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

三河湾環境チャレンジ実行委員会

三河湾環境チャレンジ

活動期間 2005年～

活動場所 竹島（蒲郡市） 他

web -

蒲郡市に住む子どもたちが、地元の海や生きものに触れることで、海の環境について学習する機会を創出したり、郷土に関する関心を育むことを目的に、当会の活動を開始しました。また、2003年に三河湾で起きたアオサの大量発生という問題の解決に臨むべく、同じことが繰り返されないために、自然環境保護のための活動をすることも目的としています。

主な活動内容は、蒲郡市内の小学校を対象に、地元の海（三河湾や竹島）の沿革や、そこで生活する生きものについての導入座学を行い、その後、実際に海に出てフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、海の観察や生きもの採取を行い、様々な専門機関や有識者を講師として招き、子どもたちが抱く生命の不思議や環境について学習しました。採取した生きものは学校に持ち帰り、図鑑等を用いて生きものの生態を調べ、自分だけのオリジナル図鑑を作成しました。また、作成した図鑑は、実行委員会事務局のある「蒲郡市生命の海科学館」に展示しました。

取組キーワード

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献



図鑑作成



生きもの探し

矢作川感謝祭実行委員会

矢作川感謝祭

活動期間 2009年～

活動場所 矢作川（豊田市）等

web <https://yahagigawa-kansyasai.jimdofree.com/>

矢作川は上水道、工業用水、農業用水などで流域住民の生活を支えると同時に、アユやウナギなどの回遊魚をはじめ多くの生きものを育てています。当実行委員会は、今一度、矢作川の恩恵に感謝し、川の魅力を多くの人々に伝え、共感と行動を呼び起こすことを目指して活動しています。

流域での人々の暮らしや豊かな生態系を支えている矢作川の重要性を啓発するために、国土交通省やNPOと連携して、2009年から毎年、矢作川感謝祭を開催しており、毎年1,000人規模の参加者が集まっています。

具体的には、「釣ろう!」「食べよう!」「遊ぼう!」「見よう!」といったテーマのもとで、魚釣り大会、塩焼アユの販売、川遊びや間伐材遊具の設置、矢作川移動水族館など、様々な活動メニューを実施しています。今後は流域の市町村や様々な団体などと連携し、参加者が楽しみながら環境について学べる取組を行っていきます。また、多くの人々に川の魅力や重要性をより深く知ってもらい、流域全体の自然保護につなげていきます。

取組キーワード

森林

河川

ふれあい活動の整備

地産地消

環境教育・普及啓発



枝打ちの実演



会場の写真



愛知県と名古屋市の取組

愛知県の取組

～「人と自然が共生するあいち」の実現を目指して～

○本県は、2010年に愛知・名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された愛知目標^{*1}の達成に向けて、「人と自然が共生するあいち」の実現を目指すため、2013年3月に「あいち生物多様性戦略2020」を策定しました。

○この戦略に基づき、本県独自の取組である「あいち方式」^{*2}により、企業や大学、NPO、行政など多様な主体が連携し、9地域で生態系ネットワーク協議会が設立され、生物多様性保全に取り組んできました。

※1 COP10で採択された「生物多様性戦略計画2010-2020」の中で取り組むとされた20の個別目標

※2 県内地域の多様な主体が協働して、生態系ネットワークの形成を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現する仕組み

○また、希少な野生動植物の保全や外来種対策、自然公園の利用促進による自然との触れ合いの促進、世界への情報発信を行っています。

1 生態系ネットワーク協議会の活動

各生態系ネットワーク協議会では、地域の特性に応じたテーマを設定し、地域の生態系ネットワークの形成という共通の目標に向かい、様々な主体がコラボレーション（協働）することで、地域共有の財産である生きものの生息生育空間の保全・創出を進める様々な取組を進めてきました。

尾張西部(2016.11 設立)

テーマ **サギやケリの舞う生命（いのち）豊かな尾張平野をめざして**



鳥と生きもの ふれあい学習会

生物多様性に取り組む事業者等のノウハウ提供を受けながら、自然環境調査や企業ビオトープの整備を実施

尾張北部(2013.10 設立)

テーマ **「うらやま」の豊かな自然を再発見しよう**



八曾湿地観察会

事業者等の協力を得ながら、自然環境調査やビオトープ整備を実施
市民参加によるモニタリング調査・観察会を実施

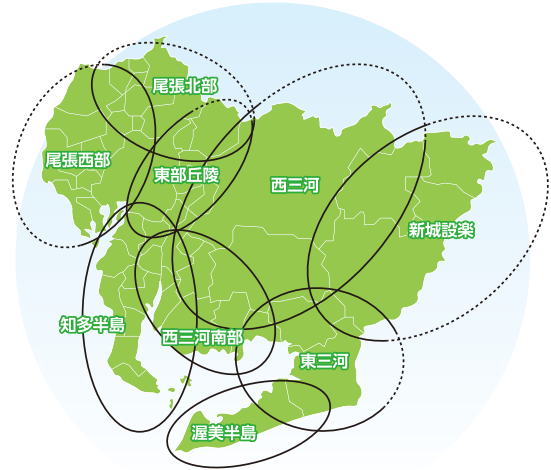
知多半島 (2011.1 設立)

テーマ **ごんぎつねと住める知多半島を創ろう**



臨海部の企業緑地

学生、企業、NPO等の協働により北部の企業緑地でビオトープづくり等を実施
また、知多半島中部でも植樹や竹林の伐採を実施



県内の生態系ネットワーク協議会の位置図

東部丘陵 (2011.3 設立)

テーマ **23大学が先導する、ギフチョウやトンボの舞うまちづくり**



リレー講座の様子

構成大学等による生物多様性を学びリレー講座を継続実施
また、大学構内や企業の敷地内にビオトープを整備

西三河南部(2016.2 設立)

テーマ **きらきら光る 碧い海～西三河沿岸が育む生きものたちのつながり～**



干潟観察会の様子

外来種の駆除や干潟等での生きもの観察会による環境学習を実施
フォーラム等を通じて地域のつながりを構築

西三河 (2011.3 設立)

テーマ 最先端のものづくりと最先端のエコロジーが好循環する暮らしを目指して



どんぐり拾いの様子

大学、企業、地域等が連携した生態系保全、外来種駆除などを実施

在来種の種子から育てた苗による植樹活動を実施

新城設案(2013.10 設立)

テーマ 樹を活かす、地域を活かす、森のちからと人の営みが調和する奥三河



植樹活動の様子

人工林皆伐地での広葉樹の植樹を県民参加により実施
大学生と協働して、間伐材の積み木を活用した環境教育活動を実施

渥美半島 (2015.1 設立)

テーマ 海と大地の恵みを活かし、人と自然を未来につなぐ渥美半島の創造



アサギマダラの観察会

渥美半島独特の豊かな自然を学ぶエコツアーや表浜海岸における生物保全対策を実施

東三河 (2014.2 設立)

テーマ 穂の国いきものがたり 子どもたちへ水と緑でつなげよう



環境学習ツアー

身近な自然を学ぶ環境学習ツアーを実施
県民を対象としたフォーラムの開催などを通じて、世代間のつながりを構築

2 県民参加型のモニタリング調査

生態系ネットワークの形成の取組成果の「見える化」を図るため、指標種として50種の「動物」、50種の「植物」を選定しました。

これらの種を解説した「モニタリングハンドブック」を2019年に作成し、県民がスマートフォンやデジタルカメラで調査対象種の写真を撮り、インターネットの地図情報システムに投稿し、結果を閲覧できるシステムを開発しました。

2020年度からは、生態系ネットワーク協議会を中心に多くの県民の参加を得て、モニタリング調査を行っています。



3 あいちミティゲーション

1ヘクタール超の開発を行う事業に対して、「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「自然環境保全条例」という。)に基づく大規模行為届出制度により、緑地の確保等を指導してきました。

また、「自然環境の保全と再生のガイドライン」に基づき、開発事業者と協議し、回避・最小化・代償の検討・実施、生物の生息生育に配慮した構造物の設置、在来種の植栽など、緑地の質の向上に係る取組を図ってきました。

生物の生息生育に配慮した構造物の例



小動物が側溝に落ちてでも這い上げられるように設置された斜路(スロープ)



開発区域内で整備しているピオトープ

愛知県の取組

～「人と自然が共生するあいち」の実現を目指して～

4 希少種な動植物の保全・外来種防除の取組

(1) 希少種の保全

自然環境保全条例に基づき、希少野生動植物種の捕獲等を禁止するため、指定希少野生動植物種として、2007年以降、ウシモツゴ、ハギクソウなど18種を指定しています。また、同条例に基づき、指定希少野生動植物種の生息地等保護区を4か所指定し、工作物の設置などの行為を規制しています（2020年9月現在）。

エンシュウツリフネ（指定希少野生動植物種）は、茶臼山高原に生育し、夏から秋にかけて特徴的な花を咲かせます。しかし、ニホンジカやノウサギの食害により絶滅するおそれがあるため、生息地等保護区を指定（2016年）し、防除ネットの設置等により個体群の保全に努めています。

また、絶滅のおそれのある野生動植物の種のリストであるレッドリストを2014年度に改訂し、その後、最新の知見に基づき2020年3月に「レッドリストあいち2020」及び同リストの各種に解説を加えた「レッドデータブックあいち2020」を作成しました。



ウシモツゴ



エンシュウツリフネ



レッドデータブックあいち2020

(2) 外来種対策

外来生物法に基づく特定外来生物であるヒアリは、2017年に県内ではじめて確認されており、Webページ「STOP!あいちの外来種」に情報を掲載し、注意喚起を行っています。また、特定外来生物のオオキンケイギクについては、5月に県内の市町村と連携して一斉駆除を行っています。県内において、早急な対策が必要な特定外来生物のアルゼンチンアリ等については、市町村に専門家を派遣するなど、防除対策を支援しています。

また、自然環境保全条例に基づき、県内における地域の在来種を圧迫し、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種27種（アカミミガメ、スイレン属など）を2010年から公表しています。



ヒアリ



オオキンケイギク



アカミミガメ

5 愛知県の自然公園における取組

自然公園には、国立公園、国定公園及び県立自然公園の3種類があり、愛知県には、4つの国定公園と7つの県立自然公園が指定されています。本県の自然公園の陸域総面積は88,881haで、県土面積の約17.2%を占めています。これらの自然公園資源を活かし、自然と親しむことで人々の保健や休養に資するとともに、自然保護に対する認識を深めることを目的として、県は東海自然歩道の整備や自然公園施設を設置しています。



東海自然歩道

東海自然歩道は、東京から大阪までの緑豊かな自然をたずねる全長1,697kmの歩道で、県内は3つの国定公園を通過する延べ211kmのコースです。

いらごさらパーク (伊良湖休暇村公園施設)

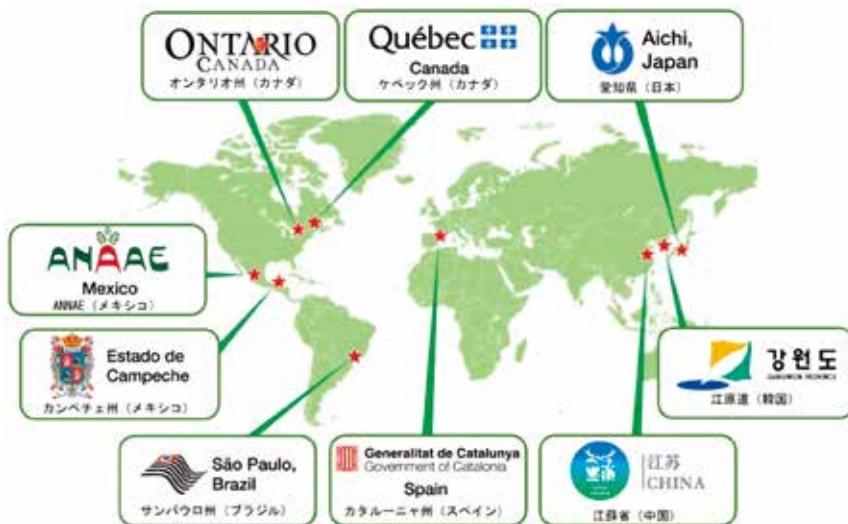


水の広場・砂の広場・花の広場

2017年度に整備した広場で、様々な海浜性植物を鑑賞できる「花の広場」を始め、小さなお子様でも遊べる「砂の広場」、「水の広場」、希少な海浜性植物の保全を行っている「希少種エリア（小松島）」、散策のための園路・案内板などを整備しており、気軽に自然に親しめる園地となっています。

6 国際先進広域自治体連合 (GoLS) における取組

COP10で採択された愛知目標の達成に貢献するため、生物多様性保全に先進的に取り組む世界のサブナショナル政府（州・県レベルの広域自治体）とともに、愛知県が主導して2016年に「国際先進広域自治体連合 (GoLS)」を立ち上げました。また、COPなどの会議の場で県の取組を発表するなど、国際連携と世界の自治体の取組活性化にも力を注いできました。



COP13 国際自治体会議にて
(メキシコ・カンクン)



COP14 国際自治体会議にて
(エジプト・シャルムエルシェイク)

名古屋市の取組

～「多様な生物と生態系に支えられた豊かな暮らしが持続していく都市なごや」のために～

1 名古屋の自然

名古屋市は、濃尾平野の東端に位置し、東側の丘陵から、台地、低地と西に向かって低くなっていきます。

東部の丘陵地には、樹林地が分布するとともに、湧水湿地と呼ばれる湿地が点在しています。これらの湿地では、シラタマホシクサなどの東海地方の固有種がみられ、ハッチョウトンボ等希少な生きものが生息しています。かつては、このような湿地が多く存在していましたが、開発が進み減少してきています。また、標高 50 ～ 100m の丘陵地の中で、北東端に位置する東谷山は、市域では最高所にあたり、変化に富んだ地質や地形は、多くの生物を育む貴重な自然です。

一方、中央部は、台地となり市街地が広がっていますが、西部には、平野が広がっており、水田などの農地が残っています。また、名古屋市西部を貫流し、伊勢湾に流れ込む庄内川、新川、日光川の河口には、約 323ha の藤前干潟が広がり、2002 年にラムサール条約に登録されました。



八竜湿地



藤前干潟

2 身近な自然の保全・再生

(1) なごや生物多様性センター

COP10 をきっかけに、より活発になった身近な自然を守り育てる市民の活動を継続・発展していくための拠点として、2011 年 9 月に「なごや生物多様性センター」を設立しました。センターでは、市民協働による生きもの情報の収集・発信や生物調査などを通じて生物多様性の保全に取り組んでいます。



なごや生物多様性センター

・なごやの生きもの情報の収集・発信



市内の絶滅のおそれのある野生生物を明らかにし、広く市民に周知するため、絶滅の危険性の程度に応じてランク付けした名古屋市版レッドリストとその解説書であるレッドデータブックを作成しています。

また、調査活動等で得た生きものを標本として収蔵しており、その数は約 14,000 点に及びます。

2020 年 3 月にはなごやの生きもの情報ポータルサイト「なごや生きものライブラリー」を開設し、調査活動等で得た生きもの情報を市民に分かりやすく発信しています。

・市民との協働による生きもの調査

市民団体や学識経験者、専門家、名古屋市で構成される「なごや生物多様性保全活動協議会」をはじめ、市民や専門家等と協働して、生物調査や外来種防除等の保全活動を行っています。

ほぼ毎年行っている池干しでは、生きものの種類や数を調査するとともに、外来種を取り除くことにより、生態系の回復を図りました。これまで市内16の池で実施し、計4,000人以上の方の参加がありました。



池干し



市民協働による調査

・連携・交流とネットワークづくり

研究機関・大学などとの相互協力や市民団体への活動支援、交流の場づくりなどを行っています。

また、名古屋市で活動する多様な団体が集まり日頃の取組を発信する「なごや生物多様性センターまつり」と中学・高校の生物部等の取組発表の場として「生物多様性ユースひろば」を開催し、様々な主体の交流を促進しています。



生物多様性センターまつり

(2) 希少種の保全活動

東山動植物園では、絶滅危惧種であるニホンメダカの種の保存とメダカを活用した環境教育を目的として、名古屋メダカ（ニホンメダカ）の里親プロジェクトを実施しています。これは、毎年6月から10月にかけてニホンメダカを市内在住の小中学生や市内に所在のある小中学校に貸与し繁殖させてもらおうというもので、動植物園において殖やしたメダカを放流する際には、飼育・繁殖過程での気づきを発表してもらっています。



名古屋メダカ里親プロジェクト 飼育講習会



名古屋メダカ

(3) 藤前干潟の保全活用

藤前干潟は、一部がごみ処分場として埋め立てられる予定でしたが、市民運動と行政の最終判断により計画は中止され、干潟の保全が決まりました。

現在、環境省やNPO等と連携し、「藤前干潟ふれあい事業」として、藤前干潟の保全や野鳥・干潟の底生生物の観察などの様々なプログラムを通年で実施しています。また、オーストラリア・ジロング市と湿地提携を結ぶことにより人的交流事業を行っており、参加した中学生が渡り鳥のルートでつながる提携湿地の保全の取組を学ぶことを通して、環境保全への理解を深め、自ら環境保全活動に取り組むことができる人材の育成を図っています。



ジロング市との人的交流事業

名古屋市の取組

～「多様な生物と生態系に支えられた豊かな暮らしが持続していく都市なごや」のために～

3 生活スタイルの転換

(1) フェアトレードの推進

2015年に名古屋市は国内2番目の「フェアトレードタウン」に認定されました。フェアトレードは、開発途上国の産品を適正な価格で継続的に購入することで、生産者の生活改善と自立を目指すもので、その理念は生物多様性を含む環境問題をはじめとした地球規模の課題解決に貢献します。名古屋市では、「地球とのフェアトレード」を合言葉に、地産地消・地域活性化など、地域に、そして地球に対してフェアであることも目指し、まちぐるみで取組を行っています。

フェアトレードの理念を普及するため、市民団体・企業等との協働により、様々なイベントを実施しているほか、名古屋のフェアトレードタウン活動を盛り上げる「フェアトレードタウンなごや応援ロゴマーク」の普及や市内の小学校給食にフェアトレード認証製品を使用する等の取組を行っています。



フェアトレードコーヒーガーデン



フェアトレードタウン認定証
国際フェアトレードタウンなごや宣言



FAIR TRADE TOWN
NAGOYA

フェアトレードタウンなごや
応援ロゴマーク

(2) なごやグリーンウェイブ

グリーンウェイブは、生物多様性条約事務局の呼びかけにより始まった活動で、「国際生物多様性の日」である5月22日の午前10時に世界中で植樹などを行うことにより、この活動が地球上の東から西へ波のように広がっていく様子を、「緑の波（グリーンウェイブ）」と表現しています。名古屋市は2018年にグリーンウェイブオフィシャルパートナーに任命され、市民・市民団体・事業者等との協働により、市内一斉植樹を実施するなど、市内のグリーンウェイブ活動を促進しています。



市内一斉植樹



グリーンウェイブ
ナナちゃん人形

(3) 環境デーなごや

環境デーなごやは2000年から続く環境イベントであり、生物多様性などの環境問題について市民・事業者・行政がともに理解や関心を深め、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動へとつなげるきっかけづくりの場を提供しています。



環境デーなごや

市内各地で行われる地域行事では、市内で活動する市民団体の方の協力を得て、自然の中での様々な体験を通して生物多様性について学ぶ講座等を実施しています。

久屋大通公園で行われる中央行事では、環境問題について取り組む団体による日頃の環境活動の成果の発信やさまざまな企画を実施しています。

4 人づくり・人の輪づくり

なごや環境大学

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が立場や分野をこえて協働で運営し、知識や経験、問題意識を持ち寄って学びあうプラットフォームです。

「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」「人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「ともに育つ（共育）」ことを目指し、様々な講座等を実施しています。



森イキ！デザインプロジェクト
なごやサテライトプログラム



愛岐の里山たいけん隊

5 流域圏の連携・交流

(1) 名古屋城本丸御殿復元関連事業「名古屋市民の森づくり」

木曾・裏木曾地方は、かつて尾張徳川藩の領地で、木曾ヒノキなど貴重な森林資源の宝庫でした。しかし城下町建設に伴う大量伐採が続いた結果、森林資源の枯渇が深刻化したことから、森林資源保護のため、入山制限やヒノキなど木曾五木の伐採禁止など、厳しい取り締まりが行われました。こうして木曾の人々によって守られてきた森林は次第に再生し、現在は樹齢300年以上の木が数多く育っています。

名古屋城本丸御殿の復元には、貴重な木曾ヒノキを大量に使用するため、豊かな自然が未来へと続くよう、また木曾に住む人たちとの交流を深めるため、長野県木曾郡木曾町木曾駒山麓と岐阜県中津川市加子母村において植樹を行う「名古屋市民の森づくり」事業を2008年から毎年実施しました。

2017年に植樹の目標本数1万本（11年間で累計11,390本）が達成され、2018年6月に本丸御殿が完成公開を迎えたことから、2019年からは、育樹や森についての学習を中心に本事業を実施しています。

2019年には名古屋城において、「名古屋城学びの場 名古屋城と木のはなし～城下町の礎となった森と山守～」が行われ、木材の由来やヒノキの天然林と人工林の違いなどを説明する講座体験プログラムも行われました。



名古屋城本丸御殿



市民の森づくり

(2) 木曾三川流域自治体連携会議～水でつながる命～

COP10を契機として、2011年に「水でつながる命」をテーマとして木曾三川流域自治体連携会議を設立しました。2020年4月時点で4県下46自治体が参加し、市町村長等が他の流域自治体を直接訪問し、意見交換等を行う木曾三川流域自治体サミットや上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談の場を提供する商談会、流域住民が水源地を訪れ、植樹などの水源地保全活動を行う事業などを実施することで、『自治体相互の連携強化』、『持続可能な地域経済の振興』、『水環境保全に対する住民参加の促進』を図っています。



木曾三川流域自治サミット



木曾三川流域連携事業
のキャラクター
かわたん

あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス

発行年月 2020年10月

編集発行 愛知県環境局環境政策部自然環境課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6475

名古屋環境局環境企画部環境企画課
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2698

